久宝寺遺跡第24次発掘調查報告書

-大阪竜華都市拠点地区竜華東西線3工区の掘削工事に伴う-

2001年

財団法人 八尾市文化財調査研究会

はしがき

八尾市の南西部の大字渋川・亀井に位置し、20万㎡に及ぶ「旧国鉄竜華操車場」は昭和13年に造られ、戦前・戦後の経済を支える一大物流拠点としてその役割を担ってきました。ところが、高度経済成長の後半期には、高速道路網の整備・拡大や一般道の整備が進むなかでトラック輸送への急速な変換が進行し、鉄道輸送の役割が低下衰退への道を辿りました。更に、国鉄の民営化に伴う多大な債務返還のための所有地売却処置のなかで、国鉄が民営化される昭和61年に先立つ昭和59年に廃止され、その歴史に幕を閉じることとなりました。

同跡地については、昭和61年7月に八尾市から「竜華操車場跡地の基本構想」が発表され再開発が具体化したことで、昭和63年と平成8年に八尾市教育委員会、平成7年に(財)大阪府文化財調査研究センターにより範囲確認調査が実施されています。

平成9年以降は、道路部分を中心とした基盤整備ならびに主要建物を対象とした発掘調査が当調査研究会と(財)大阪府文化財調査研究センターによって継続的に実施されており、弥生時代中期~近代に至る遺構・遺物が検出されています。

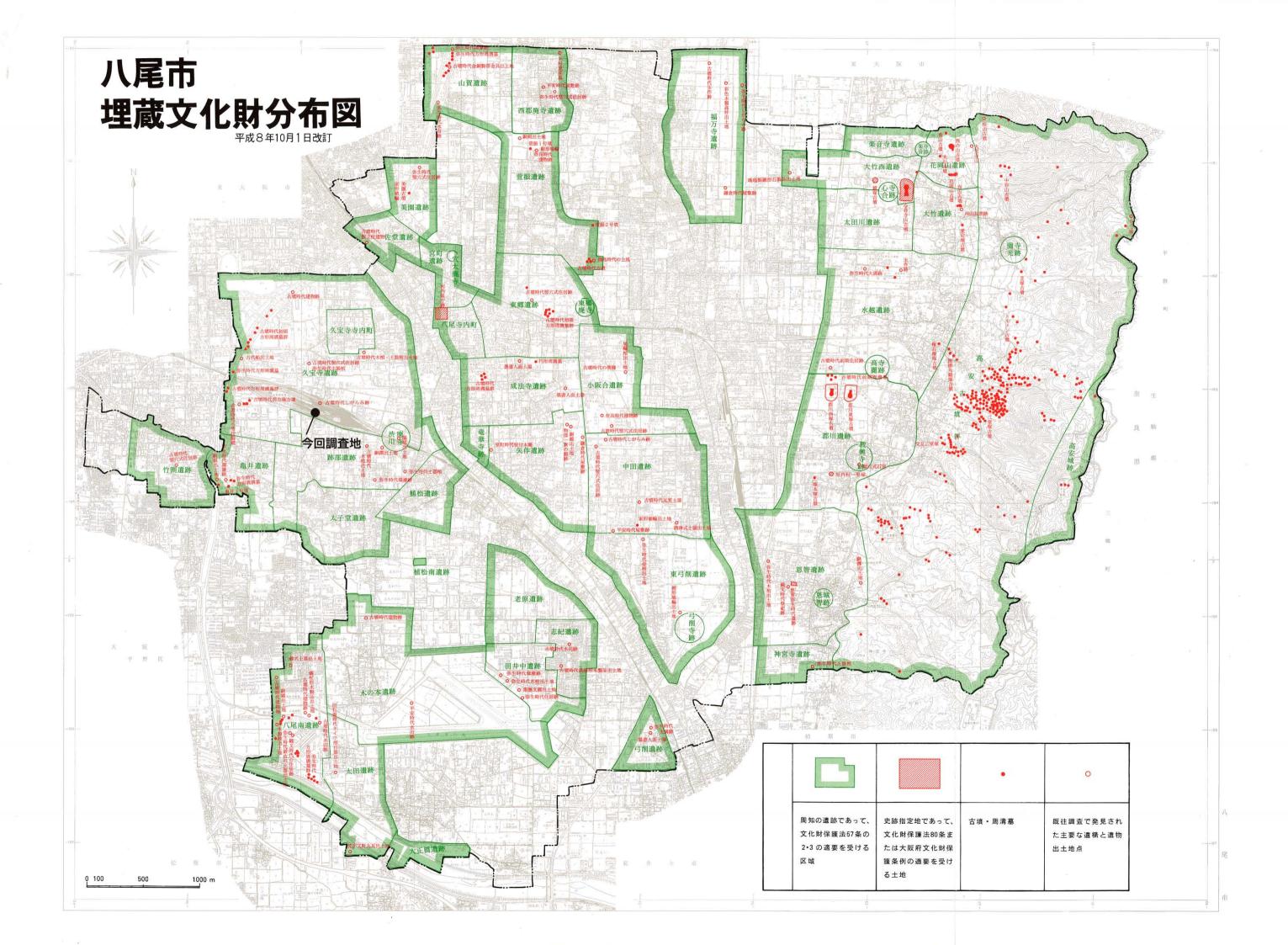
今回、平成10年度に実施しました大阪竜華都市拠点地区竜華東西線3工区に伴う久宝寺遺跡第24次調査の整理が完了しましたので、報告書として刊行することに致しました。

本書が地域の歴史を解明していく資料としてはもとより、埋蔵文化財の 保護・普及のため広く活用されることを願ってやみません。

最後になりましたが、一連の発掘調査に対して御協力いただきました関係諸機関の皆様に深謝すると共に、発掘調査や整理作業に専念された多くの方々に心から厚く御礼申し上げます。

平成13年10月

財団法人 八尾市文化財調査研究会 理事長 木 山 丈 司



例 言

- 1. 本書は、大阪府八尾市大字亀井で計画された大阪竜華都市拠点地区内で平成10年度に実施した竜華東西線3工区の掘削工事に伴う発掘調査報告書である。
- 1. 本書で報告する久宝寺遺跡第24次調査(KH98-24-1~KH98-24-8)の発掘調査の業務は、八尾市教育委員会の指示書(八教社文第74号 平成9年7月31日)に基づき、財団法人八尾市文化財調査研究会が住宅・都市整備公団関西支社(現 都市基盤整備公団関西支社)から委託を受けて実施したものである。
- 1. 現地調査は平成10年6月2日~平成11年1月20日にかけて原田昌則・坪田真一・渞 斎・古川晴久・樋口 薫が担当した。調査面積は6268.8㎡である。調査担当者や調査期間等の詳細は第3章第1節の第2表に示した。
 - 現地調査においては、伊藤静江・岩沢玲子・板野行伸・小野沢健二・垣内洋平・樫木由佳・ 川端都茂子・川村一吉・岸田靖子・北潟良江・北原清子・蔵崎潤子・小林範彰・後藤 喬・ 佐藤光子・高橋宏幸・竹中正朗・辻野優子・辻本公斗・永井律子・中村百合・中前和代・西 村和子・松井三千子・水木純司・村井俊子・村田知子・村本恵一郎・森本道孝・山内千恵子 が参加した。
- 1. 整理業務は、平成11年8月12日~平成13年3月23日迄実施し、印刷製本は平成13年度に行なった。
- 1. 本書作成に関わる業務は、遺物実測-伊藤・岩沢・板野・北原・蔵崎・小林・後藤・永井・中村・水木・村井・村田・山内、図面トレース-北原・山内、図面レイアウト・遺物写真-原田が行った。
- 1. 本書の執筆は、調査終了報告書および調査担当者との検討を基にして、原田がまとめた。
- 1. 本書の編集は原田が行った。
- 1. 現地調査の実施および整理業務においては、以下の方々からの協力とご指導を受けた。 寒川 旭(通商産業省工業技術院地質調査所)、武末純一(福岡大学)、藤岡達也(大阪府教育センター)、坂本隆彦(大阪府立南寝屋川高校)、森山義博(大阪府立藤井寺高校)、赤木克視・小林義孝・酒井泰子・西村 歩・後藤信義・佐伯博光・長田芳子((財)大阪府文化財調査研究センター)、松尾信裕・趙 哲済・高橋 工((財)大阪市文化財協会)、松田順一郎((財)東大阪市文化財協会)、都市基盤整備公団関西支社、(株)八州、大鉄工業(株)、壷山建設(株)、(株)島田組(順不同・敬称略、所属は調査時点)
- 1. 調査に際しては、写真・実測図等の記録とともに、カラースライドを作成している。広く活用されることを希望する。

月. 例

- 1. 本書掲載の地図は、大阪府八尾市発行の1/2500の地形図(昭和61年測量・平成6年修正・ 平成8年7月編纂)・八尾市教育委員会発行の『八尾市埋蔵文化財分布図』(平成8年10月 1日改訂)・国土地理院地形図「大阪東南部(1/25000)」(平成10年3月1日)を使用した。
- 1. 本書で用いた標高の基準はT.P. (東京湾標準潮位)である。
- 1. 本書で用いた方位は、国土座標第Ⅵ系の座標北を示す。
- 1. 土色は、小山正忠・竹原秀雄編1997年後期版『新版 標準土色帖』農林水産省農林水産技術会議事務局 監修・財団法人日本色彩研究所 色票監修に準拠した。
- 1. 遺構は下記の略号で示した。

 竪穴住居-SI
 掘立柱建物-SB
 井戸-SE
 土坑-SK
 溝-SD

 落ち込み-SO
 小穴・柱穴-SP
 自然河川-NR

- 1. 遺構図面の縮尺は、平面全図は1/300、部分が1/20・1/40・1/50・1/80、断面図は横1/250・ 縦1/40に統一した。
- 1. 遺物図面の縮尺は、1/4を基本とするが一部1/1・1/2・1/6がある。土器の断面については、 弥生土器・土師器・黒色土器・瓦器は白、須恵器・陶磁器は黒、灰釉陶器・緑釉陶器は細か い水玉、石器・木器・鉄製品・土製品は斜線を用いた。なお、黒色土器のA類の炭素付着部 分および一部の須恵器の灰かぶりについては、その範囲をスクリントーンで示した。
- 1. 遺構番号は統一した調査面で最も西側にあたる調査区から順に通し番号を付けた。
- 1. 本書で記述した古墳時代中期~飛鳥時代の時期概念と須恵器型式との関係は以下のとおりである。但し、提示した全ての須恵器型式が出土したわけではない。
 - ・古墳時代中期(5世紀)

前半-TG232·TK73·TK85·ON22·TK216(初期須恵器)

中葉-ON46·TK208

後半-TK23·TK47

· 古墳時代後期(6世紀)

前半-MT15

中葉-TK10

後半-MT85·TK43

・飛鳥時代 (7世紀)

前半-TK209

中葉-TK217

後半-TK46·TK48

1. 土器の形式・編年および検出遺構で参考とした文献については、P156・P157に提示した。

本文目次

はしがき	
例言	
凡例	
八尾市埋蔵文化財分布図	
第1章 調査に至る経過	1
第 2 章 地理·歷史的環境 ····································	
第3章 調査概要	
第1節 調査の方法と経過 ····································	
第 2 節 基本層序 ····································	
第3節 検出遺構と出土遺物 ····································	
1) 各調査面の概要	
· 第 1 - 1 面 ······	22
· 第 1 - 2 面 ······	25
· 第 2 - 1 面 ······	42
・第2-2面	79
· 第 3 - 1 面 ······	88
· 第 3 - 2 面 ·································	148
· 第 4 面 ······	151
・第5面	152
2) 遺構に伴わない遺物	153
第Ⅱ層出土遺物 ······	153
第Ⅲ層出土遺物 ······	153
第Ⅳ層出土遺物 ······	155
第4章 まとめ	158
挿 図 目 次	
第1図 久宝寺遺跡周辺の遺跡分布図	
第2図 調査地周辺の発掘調査位置図	
第3図 調査地地区割り模式図	
第4回 1 · 2調查区断面図 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
第5図 3・4調査区断面図	
第6図 5 · 6調査区断面図 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	17 · 18

第7図	7 · 8調查区断面図 ····································	19 · 20
第8図	第1-1面平面図 (24-3調査区・24-4調査区)	23
第9図	第1-2面平面図 (24-4調査区)	26
第10図	第1-2面平面図 (24-5調査区~24-8調査区)	·····27·28
第11図	畦畔12001出土遺物実測図	30
第12図	S K12009出土遺物実測図 ·····	32
第13図	S O 12001出土遺物実測図 ······	34
第14図	S D12034出土遺物実測図 ······	35
第15図	S D12041出土遺物実測図 ······	
第16図	S D12042、S D12043出土遺物実測図	
第17図	S E 21001平断面図 ······	
第18図	第2-1面平面図(24-1調査区~24-4調査区)	43 · 44
第19図	第2-1面平面図(24-5調査区~24-8調査区)	
第20図	S E 21002出土遺物実測図 ······	
第21図	S E 21002平断面図 ······	
第22図	S E 21002下部井戸側実測図 ······	
第23図	S E 21003平断面図 ······	
第24図	S E 21003出土遺物実測図 ······	
第25図	S E 21004平断面図 ······	
第26図	S E 21004出土遺物実測図 ······	
第27図	S E 21005平断面図 ······	
第28図	S E 21005出土遺物実測図 ······	
第29図	S E 21006平断面図 ······	
第30図	S K21033平断面図 ······	59
第31図	S K 21033出土遺物実測図 ······	60
第32図	S K 21046平断面図 ······	62
第33図	S K 21046出土遺物実測図 ······	
第34図	S K21047平断面図 ······	63
第35図	S K21047出土遺物実測図 ······	63
第36図	S K21050出土遺物実測図 ······	
第37図	S K21050平断面図 ······	
第38図	S D 21099出土遺物実測図 ······	
第39図	S D21103出土遺物実測図 ······	
第40図	S D21108出土遺物実測図 ······	
第41図	S D21114、S D21116、S D21117、S D21118出土遺物実測図	
第42図	S D21169出土遺物実測図 ······	
第43図	S P 21033出土遺物実測図 ······	
第44図	畦畔21001出土遺物実測図	78

第45図	S B 22001平断面図 ······	
第46図	第2-2面平面図 (24-1調査区、24-5調査区)	
第47図	S E 22001平断面図 ·····	
第48図	S E 22001出土遺物実測図 ······	
第49図	S K 22006平断面図 ·····	
第50図	S K 22006出土遺物実測図 ······	
第51図	S D 22003出土遺物実測図 ······	
第52図	S I 31001平断面図 ·····	
第53図	第3-1面平面図(24-1調査区~24-4調査区)	89.90
第54図	第3-1面平面図(24-6調査区~24-8調査区)	
第55図	S I 31001出土遺物実測図 ······	
第56図	S B 31001平断面図 ······	
第57図	S B 31002平断面図 ······	
第58図	S K31009平断面図 ······	
第59図	S K31009出土遺物実測図 ······	
第60図	S K31027平断面図 ······	
第61図	S K31027出土遺物実測図 ······	
第62図	S K31030平断面図 ······	
第63図	S K31030出土遺物実測図 ······	
第64図	S K 31047平断面図	
第65図	S K 31047出土遺物実測図	
第66図	S K 31052平断面図	
第67図	S K 31052出土遺物実測図	102
第68図	S K31053平断面図	
第69図	S K 31053出土遺物実測図	103
第70図	S K31055出土遺物実測図	
第71図	S K31057平断面図 ······	
第72図	S K31057出土遺物実測図	104
第73図	S K31059平断面図	
第74図	S K31059出土遺物実測図その 1 ······	
第75図	S K31059出土遺物実測図その 2 ·······	
第76図	S K31059出土遺物実測図その3	
第77図	S K 31069平断面図	
第78図	S K 31069出土遺物実測図	
第79図	S K 31070平断面図	
第80図	S K 31070出土遺物実測図	
第81図	S K 31078平断面図	
第82図	S K 31078出土遺物実測図	110

第83図	S K 31079平断面図 ······	···111
第84図	S K31079出土遺物実測図	111
第85図	S K31081平断面図	···112
第86図	S K 31082平断面図	···113
第87図	S K31081、S K31082出土遺物実測図 ······	···113
第88図	S O 31001出土遺物実測図	
第89図	S O 31001平断面図	
第90図	S O 31002平断面図 ······	
第91図	S O 31002出土遺物実測図 ······	
第92図	S O 31003平断面図	
第93図	S O 31003出土遺物実測図 ······	···117
第94図	S O 31004、 S O 31005出土遺物実測図 ······	
第95図	S D31014断面図	
第96図	S D31014出土遺物実測図	···121
第97図	S D31022出土遺物実測図 ·······	···122
第98図	S D31035出土遺物実測図 ····································	
第99図	S D31036、S D31037平断面図·······	
第100図	S D31036出土遺物実測図その 1 ···································	
第101図	S D31036出土遺物実測図その 2 ···································	···127
第102図	S D31036、S D31037出土遺物位置図 ······	···128
第103図	S D31037出土遺物実測図 ······	···129
第104図	S D31045出土遺物実測図 ······	···130
第105図	S D31053出土遺物実測図 ·······	···130
第106図	S D31061出土遺物実測図 ·······	···131
第107図	S D31062出土遺物実測図 ······	···131
第108図	S P 31096出土遺物実測図 ·······	···134
第109図	S P 31120平断面図	···134
	NR31001~NR31003平面略図····································	
第111図	N R 31001出土遺物実測図 ····································	···137
第112図	NR31002出土遺物実測図その1 ····································	···139
第113図	NR31002出土遺物実測図その2 ····································	···140
第114図	陶質土器の類例	···141
第115図	N R 31003出土遺物実測図 ····································	···143
第116図	4 調査区西部 砂脈群31001~砂脈群31003平面図	···144
	4調査区西部 砂脈群31003A・B地点断面図	
	6 調査区 砂脈群31004·砂脈群31005、7 調査区 砂脈群31006~砂脈群31010平面	
第119図	S E 32001出土遺物実測図 ······	···148
第120図	S E 32001平断面図	148

第121図	第3-2面平面図 (24-6調査区)149
	S D 32006出土遺物実測図
第123図	S P 32040出土遺物実測図150
第124図	第 4 面検出遺構平面略図
第125図	第Ⅱ層出土遺物実測図153
	第Ⅲ層出土遺物実測図 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
第127図	第Ⅳ層出土遺物実測図 ······155
	写 真 目 次
	子 共 口 外
写真1	西方上空から旧国鉄竜華操車場跡地を望む1
写真 2	8調査区 S E 12003検出状況(南から)
写真 3	8 調査区 S E 12004検出状況(東から)
写真4	8 調査区 S K12015~ S K12022検出状況 (北から) ·······33
写真 5	4 調査区 S O 12001・S O 12002検出状況 (北から)34
写真6	7 調査区 SD12045~SD12057検出状況 (東から)
写真7	8調査区 SD12058~SD12079検出状況 (東から)
写真8	SE12003の周辺で検出されたSP12070 (左側) とSP12071 (右側) ······41
写真9	3調査区東部 溝遺構検出状況 (北から)
写真10	7調査区東部 溝遺構検出状況 (東から)
写真11	1調査区北西部 小穴検出状況 (西から)87
写真12	3調査区東部 NR31001西肩検出状況 (北西から)135
写真13	4調査区 NR31001東肩およびNR31002西部検出状況(南から)138
写真14	6調査区 NR31003検出状況 (北西から) [手前の洪水砂はNR31002]142
写真15	4調査区南壁 砂脈群31003 (A地点) 検出状況 (北から) ······144
写真16	4調査区 砂脈群31003 (B地点) 検出状況 (北から) ······144
写真17	6調査区 砂脈群31005検出状況 (北から)147
写真18	7調査区 砂脈群31010検出状況 (南から)147
写真19	8 調査区 砂脈群31011検出状況 (南から)147
写真20	2調査区 畦畔40001・畦畔50001南壁検出状況(北から)152
写真21	2調査区 畦畔40002・畦畔50002南壁・東壁検出状況(北西から)・・・・・・152

表目次

第1表	調査地周辺の発掘調査	一覧表	9
第2表			
第3表	8調査区 第1-2面	S K 12015~S K 12022法量表 ······	··34
第4表	5調査区 第1-2面	S D12019~S D12033法量表 ······	···35
第5表	7調査区 第1-2面	S D12045~S D12057法量表	···38
第6表	8調査区 第1-2面		
第7表	4調査区 第1-2面	S P 12001~S P 12010法量表	··39
第8表	5調査区 第1-2面		
第9表	7調査区 第1-2面		
第10表	8調査区 第1-2面	S P 12070~S P 12074法量表 ······	···41
第11表	2 ・ 3 調査区 第 2 -	1 面 S D21022~S D21040、S D21042~S D21050法量表	68
第12表	6 ・ 7 調査区 第 2 -	1面 S D21123~S D21130法量表 ······	···75
第13表	7・8調査区 第2-	1 面 S D21131~S D21143法量表 ······	···75
第14表	8調査区 第2-1面	S D21144~S D21177法量表 ·······	···76
第15表	1調査区 第2-1面	S P 21001~S P 21015法量表 ······76	• 77
第16表	3調査区 第2-1面	S P 21018~S P 21024法量表 ······	···77
第17表	5調査区 第2-1面	S P 21026~S P 21044法量表 ······	···78
第18表	1調査区 第2-2面	S P 22001~S P 22019法量表 ······	···87
第19表	6調査区 第3-1面	S D31042~S D31060、S D31063法量表	·130
第20表	7調査区 第3-1面		
第21表	8調査区 第3-1面	S D31072~S D31075法量表 ······	·132
第22表	1調査区 第3-1面		
第23表	3調査区 第3-1面		·132
第24表	4調査区 第3-1面		
第25表	6調査区 第3-1面		
第26表	7・8調査区 第3-	1 面 S P 31095~ S P 31128法量表 ·····	·135
第27表	6調査区 第3-2面		
第28表	6調査区 第3-2面	S D32001~S D32008法量表·····	·150
第29表	6調査区 第3-2面	S P 32001∼S P 32048法量表 ······150 ·	151

図版目次

図版一	調査区からの透	是是	図版一八	24-5調査区	S E 21004検出状況
	調査区からの透	支景		24-7調査区	S E 21005検出状況
図版二	24-3調査区	全景	図版十九	24-7調査区	S E 21006検出状況
	24-4調査区	全景		24-5調査区	S K21033検出状況
図版三	24-4調査区	全景	図版二〇	24-6調査区	S K21046検出状況
	24-4調査区	東部		24-6調査区	S K21047検出状況
図版四	24-5調査区	全景	図版二一	24-6調査区	S K21050検出状況
	24-6調査区	全景		24-2調査区	溝遺構検出状況
図版五	24-7調査区	全景	図版二二	24-3調査区	溝遺構検出状況
	24-7調査区	東部		24-4調査区	溝遺構検出状況
図版六	24-8調査区	全景	図版二三	24-1調査区	全景
	24-8調査区	東部		24-5調査区	全景
図版七	24-4調査区	島畑12002検出状況	図版二四	24-1調査区	S B 22001検出状況
	24-8調査区	S E 12003 · S E 12004		24-5調査区	S E 22001検出状況
		検出状況	図版二五	24-5調査区	S K22006検出状況
図版八	24-8調査区	S E 12003検出状況		24-5調査区	S K22008検出状況
	同 上	断面	図版二六	24-1調査区	全景
図版九	24-6調査区	S K12009検出状況		24-2調査区	全景
	24-6調査区	S K 12012検出状況	図版二七	24-3調査区	全景
図版一〇	24-1調査区	全景		24-4調査区	全景
	24-1調査区	西部	図版二八	24-6調査区	全景
図版一一	24-2調査区	全景		24-7調査区	全景
	24-3調査区	全景	図版二九	24-8調査区	全景
図版一二	24-4調査区	全景		24-6調査区	S I 31001検出状況
	24-5調査区	全景	図版三〇	24-6調査区	S I 31001完掘状況
図版一三	24-6調査区	全景		同上	遺物出土状況
	24-7調査区	全景	図版三一	24-6調査区	SB31001検出状況
図版一四	24-8調査区	全景		24-6調査区	SB31002検出状況
	24-1調査区	S E 21001検出状況	図版三二	24-2調査区	S K31009検出状況
図版一五	24-3調査区	S E 21002検出状況		24-3調査区	S K31027検出状況
	同上	断面	図版三三	24-4調査区	S K31030検出状況
図版一六	24-3調査区	SE21002断ち割り断面		24-6調査区	S K31052、S K31
	同上	完掘状況			053検出状況
図版一七	24-3調査区	SE21003断ち割り断面	図版三四	24-6調査区	S K31053検出状況
	同 上	遺物出土状況		24-7調査区	西部遺構検出状況

図版三五	24-7調査区	SK31058~SK31063他	図版五一	S E 21003, S E 21004, S E 21005,
		検出状況		S K21033出土遺物
	24-7調査区	SK31059遺物出土状況	図版五二	S K21046, S K21047, S K21050,
図版三六	24-7調査区	S K31070検出状況		S D21099, S D21103, S D21108
	24-7調査区	S K31078検出状況		出土遺物
図版三七	24-8調査区	S K31081検出状況	図版五三	S D 21169、 S E 22001出土遺物
	同 上	遺物出土状況	図版五四	S K 22006, S D 22003, S I 31001
図版三八	24-8調査区	S K31082検出状況		出土遺物
	24-4調査区	S O 31001検出状況	図版五五	S K31009, S K31030, S K31047,
図版三九	24-6調査区	S O 31002検出状況		S K31052, S K31053, S K31057
	24-6調査区	S〇31003他検出状況		出土遺物
図版四〇	24-2調査区	SD31012~SD31014	図版五六	S K31057、S K31059出土遺物
		検出状況	図版五七	S K31059、S K31069出土遺物
	24-3調査区	SD31021~SD31025.	図版五八	S K31070、S K31078、S K31079
		S D31027検出状況		S K31081出土遺物
図版四一	24-3調査区	SD31035~SD31037他	図版五九	S O 31001, S O 31003, S O 31005
		検出状況		出土遺物
	24-3調査区	S D31036内遺物出土状況	□図版六○	SD31014、SD31022出土遺物
図版四二	24-6調査区	全景	図版六一	S D31036出土遺物
	同上	東部遺構検出状況	図版六二	S D31036出土遺物
図版四三	24-6調査区	S E 32001検出状況	図版六三	S D31036, S D31037, S D31045,
	24-6調査区	S P 32040検出状況		S D31053, S D31061, S D31062
図版四四	24-2調査区	畦畔40001、畦畔50001		出土遺物
		検出状況	図版六四	S D31062、N R31001出土遺物
	同上	畦畔40002、畦畔50002	図版六五	NR31001、NR31002出土遺物
		検出状況	図版六六	NR31002出土遺物
図版四五	24-3調査区	畦畔40002、畦畔50002	図版六七	NR31002出土遺物
		検出状況	図版六八	NR31002出土遺物
	24-1調査区	下部調査	図版六九	N R 31002、N R 31003、S P 32040
図版四六	24-2調査区	下部調査		第Ⅱ層出土遺物
	24-3調査区	下部調査	図版七〇	第Ⅲ層、第Ⅳ層出土遺物
図版四七	24-4調査区	下部調査		
	同上	調査風景		
図版四八	24-5調査区	下部調査		
	24-6調査区	下部調査		
図版四九	24-7調査区	下部調査		
	24-8調査区	下部調査		
図版五〇	S E 21002, S	E 21003出土遺物		

第1章 調査に至る経過

久宝寺遺跡は、1935年(昭和10年)に小字西口・栗林(現八尾市久宝寺5丁目)で行われた道 路工事中に、船の残片とともに弥生時代中期~古墳時代の遺物が発見され、遺跡として認識され るようになった。考古学的な調査は1973年(昭和48年)以降で、遺跡の西部を縦断する近畿自動 車道の計画に伴い、(財)大阪文化財センター (現(財)大阪府文化財調査研究センター) よる試掘 調査が実施されている。これらの調査では、弥生時代~中世に至る遺構・遺物が重層的に広範囲 にわたって検出され、当遺跡が複合遺跡であることが確認された。1982年(昭和57年)以降には 大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センターによる近畿自動車道建設に伴う発掘調査、ならびに 八尾市教育委員会・(財)八尾市文化財調査研究会・(財)東大阪市文化財協会による発掘調査が随 所で継続して実施されており、弥生時代前期~近世に至る遺構・遺物が検出されている。主な調 査成果を調査順に列挙すれば、1983年(昭和58年)に(財)大阪文化財センターにより実施された 久宝寺南(その2)では、古墳時代初頭後半(庄内式期新相)の最古の準構造船が発見されてお り、内海の河内湖南岸に近接した久宝寺遺跡が「津」的な役割を果たした集落であったことを示 す資料として注目された。1991年(平成3年)に八尾市北亀井3丁目で当調査研究会が実施した 第9次調査(KH91-9)では、古墳時代前期前半(布留式期古相)の2棟の住居内から重圏文 鏡と素文鏡が出土したほか、近接する地点からは方墳2基と墳丘長35mを測る前方後方墳1基が 検出されており、中河内地域における古墳文化受容期の在り方を知る上で貴重な資料を提供した。 また、1994年(平成6年)に八尾市神武町で当調査研究会が行った第18次調査(KH94-18)で は、古墳時代初頭後半(庄内式期新相)に比定される朝鮮半島の南部に淵源を持つ炉形土器・軟 質両耳甕が出土しており、西接する大阪市の加美遺跡第1次調査(KM84-1)の1号方形周溝 墓出土の陶質土器(朝鮮三国時代初頭)の存在とともに、遺跡範囲の西部を中心に当該期に、渡

来系集団の集落が存在したことが明らかになった。この様に、久宝寺遺跡では、特に古墳時代初頭~前期を中心として、広範囲にわたって数多くの集落が形成されたことが知られている。

一方、今回の調査地点である旧 国鉄竜華操車場跡地(約24.6ha) は、遺跡範囲の南部を横断する形 で展開する広大な敷地で、遺跡総 面積の約1/7を占めている。同地は 1986年(昭和61年)の国鉄民営化 に先立って廃止された後、同年7 月に八尾市から「竜華操車場跡地 の基本構想」が発表され再開発が



写真 1 西方上空から旧国鉄竜華操車場跡地を望む

進められることとなった。旧国鉄竜華操車場跡地内での発掘調査は、1988年(昭和63年)の八尾市教育委員会の試掘調査を嚆矢として、1990年(平成2年)度には当調査研究会が第4次調査(KH90-4)、1995年(平成7年)度には(財)大阪府文化財調査研究センターによる試掘調査(95-1~7トレンチ)とJR久宝寺駅舎・自由通路設置に伴う発掘調査(95-8・9トレンチ)、1996年(平成8年)度には八尾市教育委員会の試掘調査と当調査研究会による第20次調査(KH96-20)が実施されている。さらに、平成9年度以降は、「大阪竜華都市拠点地区」の土地区画整理事業の一環として、公共施設および道路部分を中心とした発掘調査が継続的に実施されている(第1表参照)。これらの発掘調査の結果、弥生時代前期~近世に至る遺構・遺物が重層的に検出され、沖積低地に特有の河川堆積物の累重により形成された不安定な微地形を積極的に活用した、各時期の集落の広がりが確認されている。

平成10年度については、久宝寺遺跡第24次調査 (KH98-24) として、平成9年度より継続して実施している基盤整備事業に伴う道路部分 (竜華東西線) の延べ339.2m、調査面積6268.8m² を調査対象とした。

発掘調査は八尾市教育委員会による埋蔵文化財調査指示書に基づき実施した。調査は「大阪竜華都市拠点地区における埋蔵文化財発掘調査に関する覚書」に基づいて、八尾市教育委員会、住宅・都市整備公団関西支社(平成11年10月から都市基盤整備公団関西支社)、(財)八尾市文化財調査研究会との三者による業務委託契約書の締結後現地調査に着手した。

現地発掘調査期間は平成10年2月10日~平成11年2月20日である。内業整理業務は平成11年8月12日~平成13年3月23日に実施し、印刷製本については平成13年度に実施した。

第2章 地理·歷史的環境

久宝寺遺跡は、大阪府八尾市北西部の久宝寺1~6丁目・西久宝寺・南久宝寺1~3丁目・北久宝寺1~3丁目・亀井・渋川・渋川町1~7丁目・神武町・北亀井町1~3丁目および東大阪市大蓮東5丁目・大蓮南2丁目一帯の東西1.6km、南北1.7kmの範囲に展開する縄文時代後期~近世にかけての複合遺跡である。久宝寺遺跡周辺の遺跡群は、近畿自動車道建設に伴う調査や市単位の調査が数多く実施されており、考古学的な蓄積資料も比較的多い。周辺に隣接する遺跡としては、北に佐堂遺跡・美園遺跡、東に長瀬川を挟んで宮町遺跡・八尾寺内町遺跡・成法寺遺跡・竜華寺跡が対峙する他、南東に渋川廃寺、南に跡部遺跡・亀井遺跡、南西に竹渕遺跡、西に大阪市の加美遺跡が位置している。また、遺跡範囲内には遺跡名でもある久宝寺寺内町が存在している。

八尾市を包括する中河内地域の地勢は、東を生駒山地、南を羽曳野丘陵・河内台地、西を上町台地、北を淀川によって画されている河内平野の南部にあたる。河内平野の形成については、海水面の昇降による侵食面の移動と、旧大和川と淀川による堆積作用との相互作用によるものと考えられている。特に、河内平野南部については、旧大和川水系の平野川・長瀬川・楠根川・玉串川・恩智川が北西方向に放射状に流下しており、平野部内にみられる自然堤防・扇状地性低地・三角州性低地等の地形形成については、これらの河川の堆積作用によるところが大きい。久宝寺遺跡は、旧大和川の主流であった長瀬川と平野川に挟まれた扇状地性低地に分類される沖積地に



第1図 久宝寺遺跡周辺の遺跡分布図(S=1/40000)

展開した遺跡で、現地表面の海抜高はT.P.+9.5m前後を測る。以下、当遺跡周辺の遺跡を中心に時期ごとに概観してみる。

後氷期の大阪平野 (河内平野) の発達史については、梶山彦太郎・市原 実両氏による研究により九つの時代に区分されている。それらの研究成果から考察すれば遺跡周辺で人々の足跡が認められるのは縄文時代晩期で、河内湾の淡水化が進行し河内潟が形成された時期 (河内潟の時代)にあたる。周辺遺跡では、新家・山賀・亀井の各遺跡から縄文時代晩期の土器片が出土しているほか、長原遺跡では集落が検出されている。

弥生時代前期には、水稲耕作の導入に伴って河内潟に注ぐ河川により形成された微高地および 自然堤防を中心に集落が営まれている。前期の古段階には若江北遺跡・山賀遺跡・八尾南遺跡で その成立をみる他、中段階〜新段階にかけては美園遺跡・亀井遺跡・城山遺跡・瓜破遺跡・長原 遺跡・久宝寺遺跡・跡部遺跡・中田遺跡・田井中遺跡がある。

弥生時代中期には河内潟の陸化に伴って、新たに瓜生堂遺跡・巨摩廃寺遺跡・若江北遺跡・加 美遺跡・東郷遺跡・小阪合遺跡・木の本遺跡・東弓削遺跡・弓削遺跡が成立している。また、水 稲耕作を中心とした安定した基盤を背景として、集落規模の拡大化を計っており、亀井遺跡に象 徴される拠点集落の出現や瓜生堂遺跡2号方形周溝墓や加美遺跡のY1号墓に代表される大形の 墳丘墓の存在は、弥生文化が昇華した証を可視的に示している。ところが、弥生時代後期になる と中期の生活面を流水堆積層が厚く覆っている例が平野部の各遺跡で検出されており、自然環境 が不安定であったことが推定されている。前代から続く既存の集落は、環濠集落の解体に連動し て等質的な集落が点在する散村的な集落形態への移行を余儀なくされたようである。

古墳時代初頭(庄内式期)~前期(布留式期)においては、前代に比して集落の増加が顕著で、 西岩田遺跡・山賀遺跡・瓜生堂遺跡・佐堂遺跡・友井東遺跡・美園遺跡・小若江北遺跡・久宝寺 遺跡・亀井遺跡・加美遺跡・竹渕遺跡・萱振遺跡・東郷遺跡・成法寺遺跡・小阪合遺跡・中田遺 跡・東弓削遺跡・木の本遺跡・八尾南遺跡・長原遺跡・瓜破遺跡等で検出されている。この時期 を通じての集落の在り方は前代と同様、大規模な集落に発展することなく、土器型式の1型式な いしは長くても2型式程度の期間に居住域が移動を繰り返す形で推移したことが推定される。当 該期の集落は庄内式期古相から中相にかけては漸次推移するが、庄内式期新相~布留式期古相に おいては爆発的に集落数が増加し、布留式期古相をピークとして集落が減少する流れが看取され る。庄内式期新相~布留式期古相段階の集落の急増に連動して、吉備・山陰・播磨・阿波・讃 岐・摂津・東海等の各地域からの搬入土器の占める割合が高く、物的交流のほか、移住者等の人 的交流も想定されている。久宝寺遺跡では、第18次調査(KH94-18)で朝鮮半島南部にその淵 源を持つ炉形土器・軟質土器が出土しており、西接する加美遺跡 1 次調査(KM84-1)で検出 された1号方形周溝墓出土の陶質土器(朝鮮三国時代初頭)の存在は、交流が国内に留まらず海 外におよんだことを示している。これらの要因としては、準構造船に代表される造船技術の確立 や北方に広がる河内湖を通じて海上交通が容易な地点に久宝寺遺跡が立地し、「津」的な役割を 果たしたことに他ならない。一方、当該期における古墳については、方形周溝墓を中心とした前 代の墓制形態が継承されるものの、布留式期古相以降は、古墳文化受容の着実な浸透の中で、庄 内式期に見られた等質な造墓形態から脱却して、墳形の多様化、主体部構造の変化、鏡類の副葬、 埴輪の使用等の質的変化が進行し、前期後半段階において他地域に比して遅く定型化した古墳の

出現をみるのである。平野部で検出されたものに限定すれば、庄内式期では、加美遺跡・亀井北遺跡・久宝寺遺跡・東郷遺跡・成法寺遺跡・萱振遺跡・八尾南遺跡、布留式期では、加美遺跡・友井東遺跡・久宝寺遺跡・萱振遺跡・東郷遺跡・成法寺遺跡等の遺跡で検出されている他、布留式期新相には、中河内地域の首長層がヤマト政権との従属的な関係を結んだ結果として、萱振1号墳・美園古墳・塚ノ本古墳が出現している。なお、久宝寺遺跡内では、近畿自動車道の試掘調査において石釧が出土していることから、前期後半の古墳が存在していた可能性がある。

古墳時代中期の集落位置は前代に符合した形で推移している。5世紀代の河内平野南部で集落 を構成した集団は、南部の羽曳野丘陵で展開される古市古墳群の造営や、『記紀』にみる治水事 業を始めとする大規模な土木工事の推進の一躍を担っていたことは想像に難くない。久宝寺遺跡 内においても、旧大和川水系の本流に施工された大規模な堰が検出されており、土木技術の向上 や鉄製農具の進化と普及が河内平野の開発を推進した要因であったと推定される。また、当該期 における須恵器や韓式系土器に代表される新出土器の出現、馬飼養等の新来技術の導入について は、土器相の変化に表出されるように朝鮮半島を中心とする渡来系集団との関係が留意される。 当該期の古墳は、平野部においては、全て埋没した形で検出されたもので、長原遺跡・八尾南遺 跡・城山遺跡のように群集化するものと、友井東遺跡・巨摩遺跡・亀井遺跡・竹渕遺跡のような 単独墳がある。続く、古墳時代後期の集落は山賀遺跡・友井東遺跡・萱振遺跡・矢作遺跡・中田 遺跡・小阪合遺跡・東郷遺跡・久宝寺遺跡・太子堂遺跡・跡部遺跡・竹渕遺跡・長原遺跡で検出 されており、比較的集落規模の小さなものが大半を占めている。当該期の集落の特徴としては、 後期全般を通して継続する集落が少ないことや、後期前半に廃絶する集落が比較的多いこと、更 には、後期後半段階に集落の増加と分散化が偏在化していることが指摘される。一方、後期古墳 の推移は、長原古墳群が古墳造営を停止した後期中葉以降、平野部での築造は激減し、これ以降 は生駒山地西麓部に展開する高安古墳群内に造墓位置を変えている。久宝寺遺跡内では、七ツ門 古墳(6世紀中葉)が検出されており、長原遺跡内の七ノ坪古墳(6世紀前半)とあわせて、平 野部における数少ない横穴式石室を持つ古墳として貴重である。当該期の古墳の在り方は、小形 方墳を主体とする従前の墓制形態が、横穴式石室を主体部に持つ円墳へと変化する時期と符号し ており、後期中葉以降は一部の例外を除けば、平野部が居住域と生産域、生駒山地西麓部が墓域 としての分化が図られている。こうした推移の中で、後期後半の平野部でみられる居住域の増加 やそれに符号した高安古墳群の群集化は、大和政権による地域の生産体制の強化が、再編成され た在地系・渡来系の有力氏族に委ねられた結果を示すものと理解される。

飛鳥~奈良時代の集落は萱振遺跡・成法寺遺跡・東郷遺跡・久宝寺遺跡・太子堂遺跡・小阪合遺跡・中田遺跡・弓削遺跡・東弓削遺跡・長原遺跡等で検出されている。また、大和と難波津を結ぶ交通の要衝であった中河内地域は、大和飛鳥地域と同様、仏教文化の受容は早く、渡来系氏族集団を檀越として多くの氏寺の建立が認められている。久宝寺遺跡を中心とする平野部に限って、『和名抄』による河内国の郡界別に区別すれば、渋川郡の渋川廃寺(飛鳥時代前期~室町時代)・竜華寺(奈良時代後期~鎌倉時代)、若江郡の西郡廃寺(奈良時代前期~鎌倉時代)・東郷廃寺(飛鳥時代後期~平安時代前期)・弓削寺(奈良時代後期)、志紀郡の五条宮跡(奈良時代後期)、丹北郡の瓜破廃寺(奈良時代)がある。寺院以外では、『続日本紀』の神護景雲三年(769)十月三十日の条「詔以」由義宮」、為」西京」。河内国為「河内職」。...」のように奈良時代後期に若江

郡の南部を中心とした一帯に「西の京」の造営が計画された。翌年の宝亀元年(770)には称徳 天皇の薨去に伴い、造都の中止を余儀なくされるが、一時期ではあるにせよ歴史の表舞台になっ たことは特筆される。

平安時代~鎌倉時代の集落は、萱振遺跡・佐堂遺跡・小阪合遺跡・中田遺跡・矢作遺跡・長原遺跡で検出されている。当該期の集落は、条里区画に基づくものや主要街道、寺社周辺で成立したものが多い。

室町時代〜戦国時代の河内地域は、南北朝期の動乱、畠山氏の内乱に端を発する応仁の乱から 戦国時代末期の織田信長の近畿統一までの長きに亘って戦乱の渦中であった。当該期における集 落は、若江遺跡・萱振遺跡・東郷遺跡・亀井遺跡等で検出されている。集落数が前代に比して激 減する要因としては、防御を目的として集約された集村に村落形態が変化したことによるものと 考えられる。なお、調査地一帯は中世時期には「橘島」と称されているが、これについては『河 内名所図会』に記されたように、同地にあった龍(竜)華寺の訓読の「たちばな寺」から転じ たものと推定されている。「橘島」と称された範囲は、古長瀬川と古平野川に挟まれた地域にあた り、南西部には初代河内国守護であった畠山基国の子、満家の開基である真観寺(応永年間 1394-1428)、北部には西証寺(現顕証寺)を中心に天文十年(1541)に寺内特権を得て成立し た「久宝寺寺内町」がある。

近世の集落は前代の集落と重複して推移している。近世の河内地域は、大坂城の城下町として都市化が進行し、大消費地となった大坂への生産物の供給や流通を担う役割を果たしたものと考えられる。なかでも、八尾周辺の木綿は「久宝寺木綿」として知られており、宝永元年(1704)の大和川付け替え以降は旧川筋の新田開発や中河内特有の「半田(はんだ)」「掻き揚げ田」「島畑」と呼ばれる田畑混在の耕地形態の利用により綿作はさらに急速な発展を遂げ、明治10年代に衰退するまで地場産品としての役割を果たした。

明治10年(1877)に来日し、東京都の大森貝塚の発見や我が国に近代的な考古学を紹介したことで知られているエドワード・モースが明治12年(1879)に九州への研究旅行の帰りに、大阪の古墳を見学するために八尾市を訪れている。その著『日本その日その日』(1917年刊)によれば「大阪にいる間に、我々は大阪を去る十二哩(マイル)の服部川と郡川の村に、ある種の古代の塚があるということを聞いた。我々は人力車に乗って完全に耕された大平原を横切った。目のとどくかぎり無数に、典型的な新英蘭(ニューイングランド)のはねつるべがある。これは浅い井戸から灌漑用の水を汲み上げるのに使用する。一以下省略(石川欣一訳)」のように当時の耕作地の様子が記されている。中河内一帯では、エドワード・モースが見聞した「撥ね釣瓶」が点在する長閑な田園風景が、昭和30年代までは展開していたようである。

註記

註1 享和元年(1801)『河内名所図会』巻4

龍華寺古蹟

「同村(河内国渋川郡植松村)にあり、訓に称えてたちばな寺という」

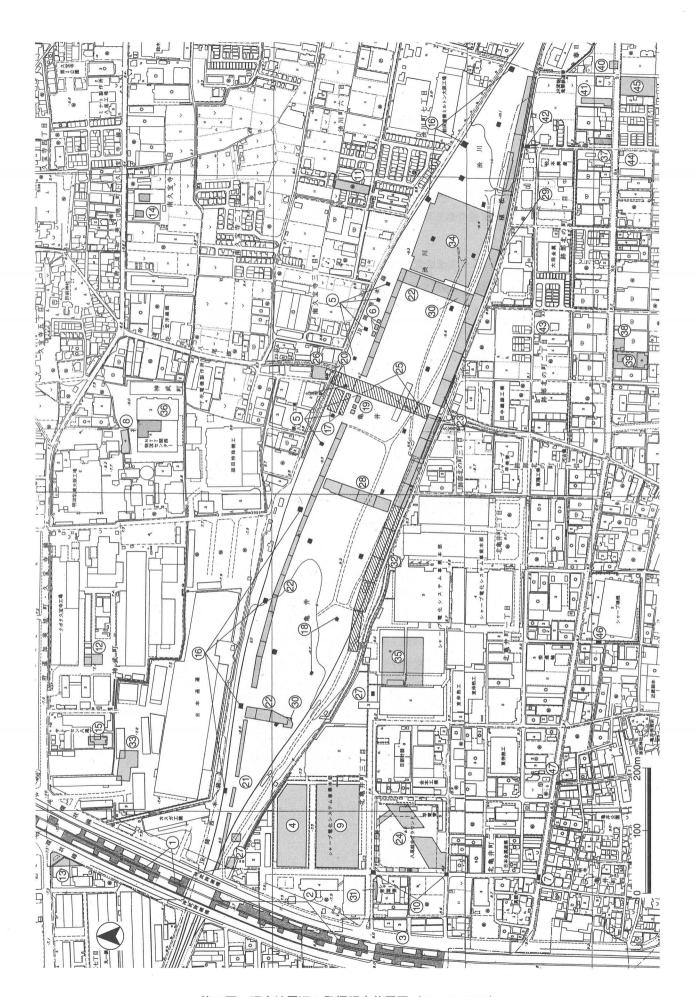
註2 大蔵永常 天保4年(1833)『綿圃要務』

註3 大野 薫 1989「島畑の考古学的調査-大阪府池島遺跡の事例-|『郵政考古紀要15』郵政考古学会

本遺構については、大野氏に従って「島畑」を使用した。

参考文献

- ・赤木克視・村上年生他 1987 『河内平野の動態 I 近畿自動車道天理〜吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 書ープロローグ編ー』 大阪府教育委員会・(財) 大阪文化財センター
- ・梶山彦太郎・市原 実 1986『大阪平野のおいたち』青木書店
- ・(財)大阪市文化財協会 1983『長原遺跡発掘調査Ⅲ』
- ・福永信雄 1997「河内潟東・南辺の弥生時代開始期における集落形態について」『宗教と考古学』金関 恕の古稀をお 祝いする会
- ·田代克己·今村道雄他 1981『瓜生堂遺跡Ⅲ』瓜生堂遺跡調査会
- ・田中清美 1986「加美遺跡の検討」『古代を考える43』
- ・坪田真一 1995「久宝寺遺跡出土の朝鮮半島系土器について」『大阪府下埋蔵文化財研究会(第31回資料)』
- ・一瀬和夫他 1987 『久宝寺南 (その2)』 大阪府教育委員会・(財) 大阪文化財センター
- ・山田隆一 1994「古墳時代初頭前後の中河内地域-旧大和川流域に立地する遺跡群の枠組みについて-」『弥生文化博物館研究報告第3集』大阪府弥生文化博物館
- · 広瀬雅信他 1992 『萱振遺跡 大阪府文化財調査報告書 第39輯』大阪府教育委員会
- ・渡辺昌宏他 1985 『美園』 大阪府教育委員会・(財) 大阪文化財センター
- ・井藤 徹他 1978 『長原』 大阪府教育委員会・(財) 大阪文化財センター
- ・後藤信義、本田奈都子 1996「八尾市亀井在住 久宝寺遺跡・竜華地区 (その1) 発掘調査報告書 JR久宝寺駅舎・自 由通路設置に伴うー」『(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書 第6集』(財)大阪府文化財調査研究センター
- ・中西靖人、辻内義浩、妹尾直子 1974『近畿自動車道吹田~松原線建設予定地内亀井遺跡他2遺跡 第1次発掘調査報告書』(財)大阪文化財センター
- ・後藤信義 1998「久宝寺遺跡七ツ門古墳現地検討会資料」(財)大阪府文化財調査研究センター
- ・赤木克視他 2001「久宝寺遺跡・竜華地区発掘調査報告書Ⅲ」『(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書 第60 集』(財)大阪府文化財調査研究センター
- ・高井健司 1987 「城下マンション(仮称)建設工事に伴う長原遺跡発掘調査(NG85-23)略報」『昭和60年度 大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書』大阪市教育委員会・(財)大阪市文化財協会
- ・吉岡 哲 1988「考古編 第1~5章」『八尾市史(前近代)本文編』八尾市役所
- ・山本 昭 1984「河内竜華寺と渋川寺|『藤澤一夫先生古稀記念 古代文化論叢』藤澤一夫先生古稀記念論集刊行会
- ·安井良三他 1991 『大阪府八尾市寺院古文書調査報告書(目録)』八尾市教育委員会
- ・櫻井敏雄、大草一憲 1988『寺内町の基本計画に関する研究-久宝寺寺内町と八尾寺内町を中心として-』八尾市教育委員会
- ・エドワード・モース 石川欣一訳 1939『日本その日その日』



第2図 調査地周辺の発掘調査位置図(S=1/6000)

第1表 調査地周辺の発掘調査一覧表

	1				T
番号	調査名(略号)	調査主体	所在地	調査期間 S57/7/5~	文 献 赤木克視・一瀬和夫 1987 『久宝寺南 (その2)』大阪府教育委員会・(財)大阪府文化財セ
_1	久宝寺南(その2)	府教委・(財)大文セ	神武町大阪市平野区加	S 60/6/30	ンター 小野久隆・服部文章 1985.3 『亀井北 (その1)』大阪府教育委員会・(財)大阪府文化財セ
2	亀井北(その1)	,	美南2丁目他	S 61/3/31	ンター
3	亀井北(その2)	,,	大阪市平野区加 美4丁目	S 61/1/16	奥 和之・山上 弘 1986 『亀井北(その2)』大阪府教育委員会・(財)大阪府文化財セン ター
4	久宝寺1次(KH84-1)	(財)八文研	北亀井3丁目	S 59/4/2~ 5/26	原田昌則 1993 □ 八久宝寺遺跡第 1 次調査 (K H 84-1) □ 八尾市埋蔵文化財発掘調査報告 (財)八尾市文化財調査報告37 (財)八尾市文化財調査研究会
5	久宝寺遺跡(63-269)	市教委	亀井・渋川	S 63/8/30, 11/25~28	近江俊秀 1989 「4. 久宝寺遺跡 (63-269) の調査」『八尾市内遺跡昭和63年度発掘調査報告 書Ⅱ』八尾市文化財報告20 昭和63年度公共事業 八尾市教育委員会
6	久宝寺4次(KH90-4)	(財)八文研	亀井・渋川	H2/4/2~ 6/12	坪田真一 1993 「I 久宝寺遺跡第 4 次調查 (K H90-4)」『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告Ⅲ』 (財)八尾市文化財調査報告41 (財)八尾市文化財調査研究会
7	久宝寺5次(KH90-5)	,	北亀井2丁目	H2/4/15~ 4/22	高萩千秋 1991 「I久宝寺遺跡 (KH90-5)」『(財)八尾市文化財調査研究会報告32』(財)八 尾市文化財調査研究会
8	久宝寺6次(KH90-6)	,	神武町17・20~ 27・38他	H2/9/3~ 10/12	原田昌則 1993 「四久宝寺道跡第6次調査(KH90-6)」『八尾市埋藏文化財発掘調査報告』 (財)八尾市文化財調査報告37 (財)八尾市文化財調査研究会
0	久宝寺9次(KH91-9)	,,	北亀井3丁目1- 72	H3/8/1~ 12/3	成海佳子 1992 [13.久宝寺遺跡第9次調査(KH91-9)]『平成3年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告](財)八尾市文化財調査研究会
10		,,	北亀井2・3丁	H3-10/2~	原田昌則 1992 「I 久宝寺遺跡第10次調査 (K H91-10)」『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告』
	久宝寺10次(KH91-10)		渋川町6丁目	10/22 H3/10/7~	(財)八尾市文化財調査報告34 (財)八尾市文化財調査研究会 西村公助 1992 「Ⅱ久宝寺遺跡第11次調査 (KH91-11)」『(財)八尾市文化財調査研究会報
	久宝寺11次(KH91-11)	"	34.35	10/18 H3/12/16~	告34』(財)八尾市文化財調査研究会 西村公助 1992 「17. 久宝寺遺跡第13次調査 (KH91-13) 『平成3年度(財)八尾市文化財調
	久宝寺13次(KH91-13)	"	神武町2-35	H4/1/23 H4/5/26~	查研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会 □ 坪田真一 1993 「10. 久宝寺第14次調査 (KH92-14)」『平成4年度(財)八尾市文化財調査研
13	久宝寺14次(KH92-14)	"	神武町190-1	8/10 H5/7/19~	究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会 岡田清一 1997 「Ⅱ久宝寺遺跡 (第17次調査)」『(財)八尾市文化財調査研究会報告55』(財)
14	久宝寺17次(KH93-17)	"	久宝寺1丁目40 神武町143~146	7/30 H6/9/1~	八尾市文化財調査研究会 坪田真一 1995 「8. 久宝寺遺跡第18次調査(K H 94-18)」『平成 6 年度(財)八尾市文化財調
15	久宝寺18次(KH94-18)	,	他	10/12 H7/5/24~	査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会 本間元樹他 1996.3 「八尾市亀井・渋川所在 久宝寺遺跡・竜華地区試掘調査」「(財)大阪
16	久宝寺(95-1~7トレンチ)	(財)大文研セ	亀井・渋川	12/20 H7/5/23~	府文化財調査研究センター報告書 第5集] (財)大阪府文化財調査研究センター 後藤信義・本田奈都子 1996.3 「八尾市亀井所在 久宝寺遺跡・竜華地区 (その1) 発掘調
17	 久宝寺(95-8・9トレンチ)	,,	亀井	12/20	金報告書-JR久宝寺駅舎・自由通路設置にともなう-J『(財)大阪府文化財調査研究センター 報告書 第6集 (財)大阪府文化財調査研究センター
	久宝寺(95-565)	市教委	渋川・亀井	H8/1/9~ 7/12	新月草以・吉田珠己 1997 7. 久宝寺遺跡 (95-565) の調査」 『八尾市内遺跡平成8年度発 掘調査報告』』 八尾市文化財調査報告37 八尾市教育委員会
	久宝寺(KH96-20)	(財)八文研	渋川	H8/9/24~ 11/14	短調車取日は17人地 1月人
13	7Cs. 4 (R 1190-20)	(M) / / C, X, W)	8011	H8/2/1~	後藤信義他 1998.3 「八尾市渋川所在 久宝寺遺跡・竜華地区発掘調査報告書Ⅱ-一般府道
20	久宝寺(96-1・97-1トレンチ)	(財)大文研セ	渋川	H10/3/31	住吉八尾線付け替え事業に伴う発掘調査-J『(財)大阪府文化財調査研究センター報告書 第26 集』(財)大阪府文化財調査研究センター
21	久宝寺22次(KH97-22)	(財)八文研	亀井	H9/10/29~ H10/1/13	原田昌則他 2001 「久宝寺遺跡第22次発掘調査報告書-大阪竜華都市拠点地区区画道路2号線に 伴う一」『(財)八尾市文化財調査研究会事業報告68』(財)八尾市文化財調査研究会
22	久宝寺23次(KH97-23)	"	亀井・渋川	H9/10/23~ H10/6/30	原田昌則・吉田珠己・岡田清一・古川晴久・樋口 薫 1999 [8. 久宝寺遺跡第23次調査(K H97-23)] 『平成10年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会
23	久宝寺24次(KH98-24)	,,	亀井・渋川	H10/2/10~ H11/2/20	本書掲載
24	久宝寺25次(KH98-25)	,,	北亀井	H11/1/29~ 7/15	原田昌則・坪田真一・森本めぐみ・古川晴久 1999 「10. 久宝寺遺跡第25次調査(KH97-25)」 『平成10年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会
25	久宝寺(98-1·98-2)	(財)大文研セ	渋川	H10/3/16~ H11/1/14	赤木克視他 2001 「久宝寺遺跡・竜華地区発掘調査報告書皿」「(財)大阪府文化財調査研究 センター調査報告書 60集」(財)大阪府文化財調査研究センター
-	/ CIE ((00 I 00 E)	(A3)//C/X-101 C	12/2/1		
26	4 完美96を(V U00 96)	(#±) 5 ÷-5#	t constant	H11/3/23~	岡田清一·樋口 薫 2000 「9. 久宝寺遺跡第26次調査 (KH99-26)」『平成11年度(財)八尾
26	久宝寺26次(KH99-26)	(財)八文研		8/20 H11/5/17~	岡田清一・樋口 薫 2000 「9. 久宝寺遺跡第26次飘産(KH99-26)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会 西村公助 2000 「10. 久宝寺遺跡第27次調査(KH99-27)』「平成11年度(財)八尾市文化財調
27	久宝寺27次(KH99-27)	"	北亀井3丁目1~ 72	8/20 H11/5/17~ 7/21 H11/9/1~	岡田清一・樋口 薫 2000 「9.久宝寺遺跡第26次調査 (KH99-26)」『平成11年度(財)八尾 市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会 西村公助 2000 「10.久宝寺遺跡第27次調査 (KH99-27)」『平成11年度(財)八尾市文化財調 査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会 西村公助・岡田清一 2000 「11.久宝寺遺跡第28次調査 (KH99-28)』『平成11年度(財)八尾
27	久宝寺27次(KH99-27) 久宝寺28次(KH99-28)	,	北亀井3丁目1~72 亀井	8/20 H11/5/17~ 7/21	岡田清一・樋口 薫 2000 「9. 久宝寺遺跡第26次調産 (K H99-26)」『平成11年度(財)八尾 市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会 取村公助 2000 「10. 久宝寺遺跡第27次票査 (K H99-27)」『平成11年度(財)八尾市文化財調 査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会 西村公助・岡田清一 2000 「11. 久宝寺遺跡第28次調査 (K H99-28)」『平成11年度(財)八尾 市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会 野田真一 2000 「12. 久宝寺遺跡第29次調査 (K H99-28)』『平成11年度(財)八尾市文化財調
27 28 29	久宝寺27次(KH99-27)	"	北亀井3丁目1~ 72	8/20 H 11/5/17~ 7/21 H 11/9/1~ H 12/3/10	岡田清一・樋口 薫 2000 「9. 久宝寺遺跡第26次飘産 (K H99-26)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会 西村公助 2000 「10. 久宝寺遺跡第27次調査 (K H99-27)] 「平成11年度(財)八尾市文化財調 查研完会事業報告](財)八尾市文化財調査研究会 西村公助・岡田清一 2000 「11. 久宝寺遺跡第28次調査 (K H99-28)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告](財)八尾市文化財調査研究会事業報告](財)八尾市文化財調査研究会事業報告](財)八尾市文化財調査研究会事業報告](財)八尾市文化財調査研究会事業報告](財)八尾市文化財調査研究会事業報告](財)八尾市文化財調査研究会事業報告](財)八尾市文化財調査研究会事業報告](財)八尾市文化財調査研究会事業報告](財)八尾市文化財調
27	久宝寺27次(KH99-27) 久宝寺28次(KH99-28)	,	北亀井3丁目1~72 亀井	8/20 H11/5/17~ 7/21 H11/9/1~ H12/3/10 H11/9/1~	岡田清一・樋口 薫 2000 「9. 久宝寺遺跡第26次調産 (K H99-26)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会
27 28 29 30	久宝寺27次(KH99-27) 久宝寺28次(KH99-28) 久宝寺29次(KH99-29)	<i>h</i>	北亀井3丁目1-72 亀井 渋川 亀井・渋川	8/20 H11/5/17~ 7/21 H11/9/1~ H12/3/10 H11/9/1~ H12/1/20~ 3/17 H12/2/8~ 3/30	周田清一・樋口 薫 2000 「9. 久宝寺遺跡第26次飘産 (K H99-26)」『平成11年度(財)八尾市文化財調查研究会事業報告」(財)八尾市文化財調查研究会 西村公助 2000 「10. 久宝寺遺跡第27次調査 (K H99-27)』『平成11年度(財)八尾市文化財調 查研究会事業報告』(財)八尾市文化財調查研究会 西村公助。岡田清一 2000 「11. 久宝寺遺跡第28次調査 (K H99-28)』『平成11年度(財)八尾 市文化財調查研究会事業報告」(財)八尾市文化財調查研究会 坪田真一 2000 「12. 久宝寺遺跡第28次調査 (K H99-28)』『平成11年度(財)八尾市文化財調 董研究会事業報告」(財)八尾市文化財調查研究会 原田昌則・西村公助・岡田清一 2000 「13. 久宝寺遺跡第30次調査 (K H99-30)』『平成11年 度(財)八尾市文化財調查研究会事業報告」(財)八尾市文化財調查研究会 原田台則、八尾市文化財調查研究会事業報告」(財)八尾市文化財調查研究会 度日村公財、2000 「14. 久宝寺遺跡第31次調査 (K H99-31)』『「(財)八尾市文化財調査研究会報 告55』(財)八尾市文化財調査研究会報
27 28 29 30 31	人宝寺27次(KH99-27) 人宝寺28次(KH99-28) 人宝寺29次(KH99-29) 人宝寺30次(KH99-30)	2 2 2	北亀井3丁目1- 72 亀井 渋川 亀井・渋川 亀井	8/20 H11/5/17~ 7/21 H11/9/1~ H12/3/10 H11/9/1~ H12/1/20~ 3/17 H12/2/8~	周田清一・樋口 薫 2000 「9. 久宝寺遺跡第26次飘產 (K H99-26)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会 西村公助 2000 「10. 久宝寺遺跡第27次調査 (K H99-27)』『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会 西村公助。即田清一 2000 「11. 久宝寺遺跡第28次調査 (K H99-28)』『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会 野田真一 2000 「12. 久宝寺遺跡第29次調査 (K H99-29)』『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会 原田昌則・西村公助・岡田清一 2000 「13. 久宝寺遺跡第30次調査 (K H99-30)』『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会 原田昌則・西村公助・岡田清一 2000 「13. 久宝寺遺跡第30次調査 (K H99-30)』『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会報告5』(財)八尾市文化財調査研究会報告5』(財)八尾市文化財調査研究会報告5』(財)八尾市文化財調査研究会報告5』(財)八尾市文化財調査研究会報告5』(財)八尾市文化財調査研究会報告5』(財)八尾市文化財調査研究会報告5』(財)八尾市文化財調査研究会報告5』(財)八尾市文化財調査研究会報告5』(財)八尾市文化財調査研究会報告5』(財)八尾市文化財調査研究会報告5』(財)八尾市文化財調査研究会報告5』(財)八尾市文化財調査研究会報
27 28 29 30 31 32	人宝寺27次(KH99-27) 人宝寺28次(KH99-28) 人宝寺29次(KH99-29) 人宝寺30次(KH99-30) 人宝寺31次(KH99-31)	* * * * * * * * * * * * * * * * * * *	北亀井3丁目1-72 亀井 浅川 亀井・渋川 亀井 亀井 神ی町138他	8/20 H11/5/17~ 7/21 H11/9/1~ H12/3/10 H11/9/1~ H12/1/20~ 3/17 H12/2/8~ 3/30 H11/3/2~ 12/24 H12/3/13~ 6/8	岡田清一・樋口 薫 2000 「9. 久宝寺遺跡第26次調査 (K H99-26)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会 2000 「10. 久宝寺遺跡第27次調査 (K H99-27)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会 業報告』(財)八尾市文化財調査研究会 (K H99-28)』『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会 第4年]、(財)八尾市文化財調査研究会 第4年]、(財)八尾市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会 第4年]、(財)八尾市文化財調査研究会 第4年]、(財)八尾市文化財調査研究会 1000 「13. 久宝寺遺跡第29次調査 (K H99-29)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会 [K H99-30)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会 1000 「13. 久宝寺遺跡第30次調査 (K H99-30)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会 14、久宝寺遺跡第31次調査 (K H99-31)』『(財)八尾市文化財調査研究会報告(財)八尾市文化財調査研究会報告(財)八尾市文化財調査研究会報告(財)八尾市文化財調査研究会報告(財)八尾市文化財調査研究会報告(財)八尾市文化財調査研究会報告(財)八尾市文化財調査研究会報告(財)八尾市文化財調査研究会報告(財)八尾市文化財調査研究会報告(財)八尾市文化財調査研究会報告(財)八尾市文化財調査研究会第2000 「15. 久宝寺遺跡第32次調査 (K H99-32)』『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会
27 28 29 30 31 32 33		が か か か の の の (財)大文研セ	北亀井3丁目1-72 亀井 渋川 亀井・渋川 亀井 ・渋川 亀井 神ی町138他 渋川	8/20 H11/5/17~ 7/21 H11/9/1~ H12/3/10 H11/9/1~ H12/1/20~ 3/17 H12/2/8~ 3/30 H11/3/2~ 12/24 H12/3/13~ 6/8 H12/5/9~ H13/2/28	岡田清一・樋口 薫 2000 「9. 久宝寺遺跡第26次調産 (K H99-26)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会 西村公助 2000 「10. 久宝寺遺跡第27次調査 (K H99-27)] 「平成11年度(財)八尾市文化財調 査研完会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会 西村公助・岡田清一 2000 「11. 久宝寺遺跡第28次調査 (K H99-28)]『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会 野田真一 2000 「12. 久宝寺遺跡第29次調査 (K H99-29)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会 原田昌則・西村公助・岡田清一 2000 「13. 久宝寺遺跡第30次調査 (K H99-30)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会 西村公助 2000 「14. 久宝寺遺跡第31次調査 (K H99-31)」『「(財)八尾市文化財調査研究会報 告65] (財)八尾市文化財調査研究会 未報告 森本めぐみ 2000 「15. 久宝寺遺跡第32次調査 (K H99-32)』『平成11年度(財)八尾市文化財 調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会 成海佳子・樋口
27 28 29 30 31 32 33	人宝寺27次(KH99-27) 久宝寺28次(KH99-28) 人宝寺29次(KH99-29) 人宝寺30次(KH99-30) 人宝寺31次(KH99-31) 人宝寺(99-1~5) 人宝寺32次(KH99-32)	ル ル ル ル (財)大文研セ (財)八文研	北亀井3丁目1-72 亀井 浅川 亀井・渋川 亀井 ・港川 亀井 神武町138他 渋川	8/20 H11/5/17~ 7/21 H11/9/1~ H12/3/10 H11/9/1~ H12/1/20~ 3/30 H12/2/8~ 3/30 H12/2/4 H12/3/13~ 6/8 H12/5/9~ H13/2/28 H12/7/18~ H12/7/18~	國田清一・樋口 薫 2000 「9. 久宝寺遺跡第26次調産 (K H99-26)」『平成11年度(財)八尾市文化財調查研究会事業報告」(財)八尾市文化財調查研究会 西村公助 2000 「10. 久宝寺遺跡第27次調產 (K H99-27)] 「平成11年度(財)八尾市文化財調查研究会事業報告](財)八尾市文化財調查研究会 西村公助・岡田清一 2000 「11. 久宝寺遺跡第28次調査 (K H99-28)]『平成11年度(財)八尾市文化財調查研究会事業報告](財)八尾市文化財調查研究会事業報告](財)八尾市文化財調查研究会事業報告](財)八尾市文化財調查研究会事業報告](財)八尾市文化財調查研究会事業報告](財)八尾市文化財調查研究会事業報告](財)八尾市文化財調查研究会事業報告](財)八尾市文化財調查研究会事業報告](財)八尾市文化財調查研究会事業報告](財)八尾市文化財調查研究会事業報告](財)八尾市文化財調查研究会事業報告](財)八尾市文化財調查研究会事業報告](財)八尾市文化財調查研究会事業報告](財)八尾市文化財調查研究会事業報告](財)八尾市文化財調查研究会事業報告](財)八尾市文化財調查研究会報告[財)八尾市文化財調查研究会報告[財)八尾市文化財調查研究会報告[財)八尾市文化財調查研究会事業報告](財)八尾市文化財調查研究会事業報告](財)八尾市文化財調查研究会 該海任了中国口、意会選表 2000 「4. 久宝寺遺跡第33次調查(K H2000-33)『平成12年度(財)八尾市文化財調查研究会事業報告](財)八尾市文化財調查研究会 資富(財)八尾市文化財調查研究会
27 28 29 30 31 32 33 34		ル ・ ・ ・ ・ (財)大文研セ (財)人文研 ・	北亀井3丁目1-72 亀井 浅川 亀井・渋川 亀井 ・港川 亀井 神武町138他 渋川	8/20 H11/5/17~ 7/21 H11/9/1~ H12/3/10 H11/9/1~ H12/1/20~ 3/30 H12/2/8~ 3/30 H11/3/12~ 12/24 H12/3/13~ 6/8 H12/5/9~ H12/5/9~ H12/7/18~ 11/25 H12/10/16 ~11/16	周田清一・樋口 薫 2000 「9. 久宝寺遺跡第26次調産 (K H99-26)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会 西村公助 2000 「10. 久宝寺遺跡第27次調査 (K H99-27)] 「平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会 重好公助 2000 「11. 久宝寺遺跡第28次調査 (K H99-28)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会 市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会 原田昌則・西村公助・岡田清一 2000 「13. 久宝寺遺跡第28次調査 (K H99-28)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会 原田昌則・西村公助・岡田清一 2000 「13. 久宝寺遺跡第30次調査 (K H99-30)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会 原田昌則・西村公助・岡田清一 2000 「13. 久宝寺遺跡第30次調査 (K H99-30)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会報告55」(財)八尾市文化財調査研究会報告55」(財)八尾市文化財調査研究会報告55」(財)八尾市文化財調査研究会報告1 (財)八尾市文化財調査研究会報告2001 「4. 久宝寺遺跡第33次調査 (K H2000-33)『平成12年度(財)八尾市文化財調査研究会 第本のでみ 2000 「15. 久宝寺遺跡第32次調査 (K H2000-35)『平成12年度(財)八尾市文化財調査研究会 第 斎 201 「5. 久宝寺遺跡第4次調査 (K H2000-35)『平成12年度(財)八尾市文化財調査研究会 森本めでみ 2001 「6. 久宝寺遺跡第4次調査 (K H2000-35)『平成12年度(財)八尾市文化財調査研究会 森本めでみ 2001 「6. 久宝寺遺跡第4次調査 (K H2000-35)『平成12年度(財)八尾市文化財調査研究会 森本めでみ 2001 「6. 久宝寺遺跡第35次調査 (K H2000-35)』『平成12年度(財)八尾市文化財調査研究会
27 28 29 30 31 32 33 34 35		ル ル ル の の の の の の の の の の の の の	北亀井3丁目1-72 亀井 浅川 亀井・渋川 亀井 ・渋川 亀井 ・渋川 亀井 神ی町138他 渋川 亀井3丁目41 神武町1番79 春日町1丁目57	8/20 H11/5/17~7/21 H11/9/1~H12/3/10 H12/3/10 H11/9/1~ H12/1/20~ 3/17 H12/2/8~ 3/30 H11/3/2~ 12/24 H12/5/3~ 6/8 H12/5/9~ H13/2/28 H12/7/18~ 11/25 S56/11/9~ 11/19	岡田清一・樋口 薫 2000 「9. 久宝寺遺跡第26次調産 (K H99-26)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会 西村公助 2000 「10. 久宝寺遺跡第27次調査 (K H99-27)] 「平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告](財)八尾市文化財調査研究会 西村公助・岡田清一 2000 「11. 久宝寺遺跡第28次調査 (K H99-28)]『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告](財)八尾市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会の 「13. 久宝寺遺跡第30次調査 (K H99-30)」「平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会 西村公助・岡田清一 2000 「13. 久宝寺遺跡第30次調査 (K H99-30)」「平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会 西村公助 2000 「14. 久宝寺遺跡第31次調査 (K H99-31)」「(財)八尾市文化財調査研究会報 告65](財)八尾市文化財調査研究会 未報告 森本めぐみ 2000 「15. 久宝寺遺跡第32次調査 (K H99-32)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会 京 201 「5. 久宝寺遺跡第32次調査 (K H2000-34)」『平成12年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会 森本めぐみ 201 「6. 久宝寺遺跡第35次調査 (K H2000-35)』『平成12年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会 森本のぐみ 201 「6. 久宝寺遺跡第35次調査 (K H2000-35)』『平成12年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告】(財)八尾市文化財調査研究会事業報告】(財)八尾市文化財調査研究会
27 28 29 30 31 32 33 34 35 36	人宝寺27次(KH99-27) 久宝寺28次(KH99-28) 久宝寺29次(KH99-29) 人宝寺30次(KH99-30) 久宝寺31次(KH99-31) 久宝寺(99-1~5) 人宝寺32次(KH99-32) 久宝寺33次(KH2000-33) 人宝寺34次(KH2000-34) 入宝寺35次(KH2000-35)	。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。	北亀井3丁目1-72 亀井 浅川 亀井・浅川 亀井 ・浅川 亀井 神武町138他 浅川 亀井3丁目41 神武町1番79 春日町1丁目57 除部本町1丁目37	8/20 H11/5/17~ 7/21 H11/9/1~ H12/3/10 H11/9/1~ H12/1/20~ 3/17 H12/2/8~ 3/30 H11/3/2~ 12/24 H12/7/13~ H12/5/9~ H12/7/18~ 11/25 H12/10/16 ~11/14 ~11/14 ~11/14 ~11/16 ~11/1	岡田清一・樋口 薫 2000 「9. 久宝寺遺跡第26次調産 (K H99-26)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会 西村公助 2000 「10. 久宝寺遺跡第27次調査 (K H99-27)] 「平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会 西村公助・岡田清一 2000 「11. 久宝寺遺跡第28次調査 (K H99-28)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会 野田真一 2000 「12. 久宝寺遺跡第29次調査 (K H99-29)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会 原田昌則・西村公助・岡田清一 2000 「13. 久宝寺遺跡第30次調査 (K H99-30)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会 展田昌則・西村公助・岡田清一 2000 「13. 久宝寺遺跡第30次調査 (K H99-30)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会 表社会 2000 「15. 久宝寺遺跡第31次調査 (K H99-31)」『「財)八尾市文化財調査研究会報告53](財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会 展海任子側口 薫・金製演夫 2001 「4. 久宝寺遺跡第33次調査 (K H2000-33)『平成12年度(財)八尾市文化財調査研究会 度(財)八尾市文化財調査研究会 度(財)八尾市文化財調査研究会 度(財)八尾市文化財調査研究会 第 第 2001 「5. 久宝寺遺跡第34次調査 (K H2000-34)』『平成12年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会 森本かぐみ 2001 「6. 久宝寺遺跡第35次調査 (K H2000-35)』『平成12年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)、「第383 「第69 下の計選査研究会事業報告」「別283 「第69 下の計選査研究会事業報告」「財)、「第383 「第69 下の計選査研究会事業報告」「八尾市政日報文化財発掘調査概報 「1400-383」「八尾市政日報文化財発掘調査概報 「1400-383」「八尾市政日報文化財発掘調査概報 「1400-383」「八尾市政日報文化財発掘調査概報 「1400-383」「八尾市政日報文化財発掘調査概報 「1400-383」「八尾市政日報文化財発掘調査概報 「1400-383」「八尾市政日報 「1400-383」「「1400-383」「「1400-383」「1
27 28 29 30 31 32 33 34 35 36		(財)大文研セ (財)大文研セ (財)八文研 ク 市教委 (財)八文研	北亀井3丁目1-72 亀井 	8/20 H11/5/17~ 7/21 H11/9/1~ H12/3/10 H11/9/1~ H12/1/20~ 3/30 H12/2/8~ 3/30 H11/3/12~ 12/24 H12/3/13~ 6/8 H12/5/9~ H12/5/9~ H12/7/18~ 11/25 H12/10/16 ~11/19 S56/11/9~ 11/19 S56/10/1~ 10/2	岡田清一・樋口 薫 2000 「9. 久宝寺遺跡第26次調産 (K H99-26)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会 西村公助 2000 「10. 久宝寺遺跡第27次調査 (K H99-27)] 「平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会 西村公助・岡田清一 2000 「11. 久宝寺遺跡第28次調査 (K H99-28)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会 原田昌則・西村公助・岡田清一 2000 「13. 久宝寺遺跡第30次調査 (K H99-30)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会報告5] (財)八尾市文化財調査研究会報告65] (財)八尾市文化財調査研究会報告65] (財)八尾市文化財調査研究会報告900 「14. 久宝寺遺跡第33次調査 (K H2000-33) 「平成12年度(財)八尾市文化財調査研究会報告901 「4. 久宝寺遺跡第33次調査 (K H2000-33) 「平成12年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会第業報告] (財)八尾市文化財調査研究会第業報告] (財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会第査報告1980・1981 八尾市教育委員会 阿村公財 1983 「11. 跡部遺跡「昭和57年度における埋蔵文化財発掘調査」その成果と概要 「四村公財 1983 「11. 跡部遺跡「昭和57年度における埋蔵文化財発掘調査「その成果と概要 「四村公財 1983 「11. 跡部遺跡「昭和57年度における埋蔵文化財発掘調査」その成果と概要 「四村公財 1983 「11. 跡部遺跡「昭和57年度における埋蔵文化財発掘調査」その成果と概要 「四村公財 1983 「11. 跡部遺跡「昭和57年度における埋蔵文化財発掘調査」その成果と概要 「四村公財 1983 「11. 跡部遺跡「昭和57年度における埋蔵文化財発掘調査」その成果と概要 田村63年度 「1983・第34年度 日本64年度 日本64
27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38	入宝寺27次(KH99-27)	。 。 。 。 (財)大文研セ (財)八文研 。 。 。 。 (財)八文研 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。	北亀井3丁目1-72 亀井 浅川 亀井・浅川 亀井 亀井 神敷町138他 淡川 亀井3丁目41 神畝町1帯79 秦目町1丁目57 跡部本町1丁目 3 跡部本町1丁目 4-1 4-1	8/20 B11/5/17~ 7/21 H11/9/1~ H12/1/20~ 3/17 H12/2/20~ 3/17 H12/2/8~ 3/30 H11/3/2~ 12/24 H12/3/13~ 6/8 H12/7/18~ 11/25 H12/7/18~ 11/25 S56/10/19~ 11/19 S57/10/1~ 10/2 S63/10/1~ 10/2 H1/2/16~ 11/25 H1/2/16~ 11/25 H1/2/16~ 11/25 H1/2/16~ 11/25 H1/2/16~ 11/25 H1/2/16~ 11/25 H1/2/16~ 11/25 H1/2/16~ 11/25 H1/2/16~ 11/25 H1/2/16~ 11/25 H1/2/16~ 11/25 H1/2/16~ H1/2	岡田清一・樋口 薫 2000 「9. 久宝寺遺跡第26次調産 (K H99-26)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会 西村公助 2000 「10. 久宝寺遺跡第27次調査 (K H99-27)] 「平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会 西村公助・岡田清一 2000 「11. 久宝寺遺跡第28次調査 (K H99-28)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会 野田真一 2000 「12. 久宝寺遺跡第29次調査 (K H99-29)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会の 原田昌則・西村公助・岡田清一 2000 「13. 久宝寺遺跡第30次調査 (K H99-30)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会 西村公助 2000 「14. 久宝寺遺跡第31次調査 (K H99-31)」『「(財)八尾市文化財調査研究会報 管65] (財)八尾市文化財調査研究会業報告」(財)八尾市文化財調査研究会報 管65] (財)八尾市文化財調査研究会 未報告 森本めぐみ 2000 「15. 久宝寺遺跡第32次調査 (K H99-32)』『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会 第 章 201 「5. 久宝寺遺跡第34次調査 (K H2000-34)』『平成12年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会 森本めぐみ 201 「6. 久宝寺遺跡第35次調査 (K H2000-35)』『平成12年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会の 西村公助 1983 「11. 跡部遺跡』『昭和57年度における埋蔵文化財発掘調査、その成果と概要 「外)八尾市文化財調査研究会報告125 毎月公助 1983 「11. 跡部遺跡』『昭和57年度における埋蔵文化財発掘調査、その成果と概要 「別50・1981』「八尾市教育委員会 西村公助 1983 「11. 跡部遺跡』『昭和57年度における埋蔵文化財発掘調査」その成果と概要 「別50・1981』「八尾市文化財調査研究会年報 昭和63年度」 「財)八尾市文化財調査研究会報報 「17、尾市文化財調査研究会年報 昭和63年度」 「財)八尾市文化財調査研究会報告25
27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39	入宝寺27次(KH99-27) 久宝寺28次(KH99-28) 入宝寺29次(KH99-29) 入宝寺30次(KH99-30) 入宝寺31次(KH99-31) 人宝寺31次(KH99-31) 人宝寺99-1~5) 人宝寺32次(KH99-32) 人宝寺33次(KH2000-33) 人宝寺35次(KH2000-34) 入宝寺35次(KH2000-35) 跡部(S56調査) 跡部(AT88-4)	*** (財)大文研セ (財)人文研・ ** 市教委 (財)八文研・ ** ・* ・* ・* ・* ・* ・* ・* ・* ・* ・* ・* ・*	北亀井3丁目1-72 亀井 浅川 亀井・渋川 亀井 ・港川 亀井3丁目41 神武町1番79 春时31 計79 春日町1丁目57 除3 に 11 17 17 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18	8/20 H11/5/17~ 7/21 H11/9/1~ H12/3/10 H11/9/1~ H12/3/20~ 3/17 H12/2/8~ 3/30 H11/3/2~ 12/24 H12/3/3~ 6/8 H12/7/18~ H12/1/8~ 11/25 H12/1/8~ 11/19 S57/10/1~ 10/22 H1/10/16~ 11/3/ H1/10/16~ 11/3/ 8/10/1~ H1/10/16~ H1/3/2~ H1/3/2/8/ H1/3/3/8/ H1/3/3/9/ H1/3/9/9/ H4/7/9~	岡田清一・樋口 薫 2000 「9. 久宝寺遺跡第26次調産 (K H99-26)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会 西村公助 2000 「10. 久宝寺遺跡第27次調査 (K H99-27)] 「平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会 西村公助・岡田清一 2000 「11. 久宝寺遺跡第28次調査 (K H99-28)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会 野田真一 2000 「12. 久宝寺遺跡第29次調査 (K H99-29)」「平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会 西村公助・岡田清一 2000 「13. 久宝寺遺跡第30次調査 (K H99-30)」「平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会報告55] (財)八尾市文化財調査研究会事業報告第65] (財)八尾市文化財調査研究会事業報告第6) (財)八尾市文化財調査研究会事業報告第7000「15. 久宝寺遺跡第32次調査 (K H99-32)」「平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告第70000「15. 久宝寺遺跡第32次調査 (K H99-32)」「平成12年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告第70000年第70000年第7000000日で、「中国で、「中国で、「中国で、「中国で、「中国で、「中国で、「中国で、「中国
27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40		** ** ** ** ** ** ** ** (財)大文研セ (財)八文研 ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** **	北亀井3丁目1-72 亀井 浅川 亀井・浅川 亀井 ・浅川 亀井3丁目41 神武町1帯79 春日町1丁目57 跡部本町1丁目4-1 春日町1丁目4-1 春日町1丁目4-1 春日町1丁目4-1 春日町1丁目4-1 春日町1丁目4-1	8/20 H11/5/17~ 7/21 H11/9/1~ H12/3/10 H11/9/1~ H12/1/20~ 3/30 H12/2/8~ 3/30 H11/3/2~ 12/24 H12/3/13~ 6/8 H12/5/9~ H12/5/9~ H12/7/18~ 11/25 S5/10/1~ 10/5 S5/10/1~ 10/2 H1/9/10/1~ 10/2 H1/9/10/1~ 10/2 H1/9/10/1~ 10/2	岡田清一・樋口 薫 2000 「9. 久宝寺遺跡第26次調産 (K H99-26)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会 直対公助 2000 「10. 久宝寺遺跡第27次調査 (K H99-27)] 平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告](財)八尾市文化財調査研究会 医村公助・岡田清一 2000 「11. 久宝寺遺跡第28次調査 (K H99-28)]『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告](財)八尾市文化財調査研究会 所立(长 H99-28)]『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告](財)八尾市文化財調査研究会 原田昌明・四村公助・岡田清一 2000 「13. 久宝寺遺跡第30次調査 (K H99-29)]『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告](財)八尾市文化財調査研究会事業報告](財)八尾市文化財調査研究会事業報告](財)八尾市文化財調査研究会事業報告](財)八尾市文化財調査研究会事業報告](財)八尾市文化財調査研究会主業報告](財)八尾市文化財調査研究会主業報告](財)八尾市文化財調査研究会報告5](財)八尾市文化財調査研究会報告5](財)八尾市文化財調査研究会報告5](財)八尾市文化財調査研究会報告5](財)八尾市文化財調査研究会主業報告](財)八尾市文化財調査研究会主業報告](財)八尾市文化財調査研究会主業報告](財)八尾市文化財調査研究会主業報告](財)八尾市文化財調査研究会主業報告](財)八尾市文化財調査研究会表本めぐみ 2001 「6. 久宝寺遺跡第35次調査 (K H2000-35)]『平成12年度(財)八尾市文化財調査研究会業を事業報告](財)八尾市文化財調査研究会事業報告](財)八尾市文化財調査研究会事業報告][財)八尾市文化財調査研究会事業報告][財)八尾市文化財調査研究会事業報告][財)八尾市文化財調査研究会事業報告][財)八尾市文化財調査研究会事業報告][財)八尾市文化財調査研究会業告39 「19. 跡部遺跡「昭和57年度における埋蔵文化財発掘調査、その成果と概要八尾市教育委員会 11. 跡部遺跡「昭和57年度における埋蔵文化財発掘調査報告]「八尾市技化財調査研究会報告39 原田昌則 1993 「15部混選跡発掘調査報告]「大屋市埋蔵文化財発掘調査報告](財)八尾市文化財調査研究会報告39 原田昌則 1993 「15部混選跡発掘調査報告]「大屋市生蔵文化財発掘調査報告]「財)八尾市文化財調査研究会報告39 原田昌則 1993 「15部混貨部(A T92-9)第9 次調査」「八尾市埋蔵文化財発掘調査報告]「財)八尾市文化財調査研究会報告39
27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41		か か か か か か か か か か か か か か か か か か か	北	8/20 H11/5/17~ 7/21 H11/9/1~ H12/3/10 H11/9/1~ H12/1/20~ 3/17 H12/2/8~ 3/30 H11/3/2~ 12/24 H12/3/13~ 6/8 H12/5/9~ H12/7/18~ 11/25 H12/1/18~ 11/25 H12/1/18~ 11/25 H12/1/16~ 11/19 S57/10/1~ 10/2 S58/10/1~ 10/28 H1/2/1/3~ H1/2/3/3~ H1/2/3/3~ H1/2/3/3~ H1/2/3/3~ H1/2/3/3~ H1/2/3/3~ H1/2/3/3~ H1/2/3/3~ H1/2/3/3~ H1/2/3/3/3~ H1/2/3/3/3~ H1/2/3/3/3~ H1/2/3/3/3~ H1/2/3/3/3~ H1/2/3/3/3~ H1/2/3/3/3~ H1/3/3/3/3~ H1/3/3/3/3/3/3/3/3/3/3/3/3/3/3/3/3/3/3/3	岡田清一・樋口 薫 2000 「9. 久宝寺遺跡第26次調産 (K H99-26)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会 西村公助 2000 「10. 久宝寺遺跡第27次調査 (K H99-27)] 平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告](財)八尾市文化財調査研究会事業報告](財)八尾市文化財調査研究会 直村公助、岡田清一 2000 「11. 久宝寺遺跡第28次調査 (K H99-28)]『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告](財)八尾市文化財調査研究会事業報告](財)八尾市文化財調査研究会事業報告](財)八尾市文化財調査研究会事業報告](財)八尾市文化財調査研究会票等報告](財)八尾市文化財調査研究会事業報告](財)八尾市文化財調査研究会の原田高則・西村公助・岡田清一 2000 「13. 久宝寺遺跡第30次調査 (K H99-30)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告](財)八尾市文化財調査研究会事業報告](財)八尾市文化財調査研究会業業報告](財)八尾市文化財調査研究会報告5](財)八尾市文化財調査研究会報告5](財)八尾市文化財調査研究会報告5](財)八尾市文化財調査研究会報告5](財)八尾市文化財調査研究会報告7。(K H99-31)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会報告7。(K H99-31)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会報告7。(財)八尾市文化財調査研究会報告7。(財)八尾市文化財調査研究会第201 「5. 久宝寺遺跡第33次調査 (K H2000-33) 『平成12年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告](財)八尾市文化財調査研究会第報告1(財)八尾市文化財調査研究会第報告1(財)八尾市文化財調査研究会第報告1(財)八尾市文化財調査研究会の「5. 久宝寺遺跡第35次調査(K H2000-35)『平成12年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告1 (財)八尾市文化財調査研究会の「5. 久宝寺遺跡第35次調査(K H2000-35)『『平成12年度(財)八尾市文化財調査研究会集会1 「11. 跡部遺跡 『昭和57年度における埋蔵文化財発掘調査(財)八尾市文化財調査研究会報告30 「11. 跡部遺跡(第4 次調査・「大阪府八尾市建成文化財発掘調査報告1 「財)八尾市文化財調査研究会報告30 「日1993 「11、跡部遺跡(第4 次調査)』「八尾市埋蔵文化財発掘調査報告1 「財)八尾市文化財調査研究会報告31 「原田昌則 1993 「11、新部遺跡(A T92-7)第7 次調査」「八尾市埋蔵文化財発掘調査報告1 「財)八尾市文化財調査研究会報告31 「原田昌則 1993 「11、新部遺跡(A T92-9)第9 次調査」「八尾市埋蔵文化財発掘調査報告7
27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42		クタークタークタークタークタークタークタークタークタークタークタークタークターク	北亀井3丁目1-72 亀井 浅川 亀井・浅川 亀井・浅川 亀井 神ی町138他 浅田 亀井3丁目41 神武町1番79 巻齢部本町1丁目57 巻齢部本町1丁目57 巻齢部本町1丁目4-7 4-1 春日町1丁目45-1 4-1 4-1 4-1 4-1 4-1 4-1 4-1 5-1 4-1 4-1 4-1 4-1 4-1 4-1 4-1 4-1 4-1 4	8/20 H11/5/17~ 7/21 H11/9/1~ H12/3/10 H11/9/1~ H12/3/20~ 3/17 H12/2/8~ 3/30 H11/3/2~ 12/24 H12/3/3~ 6/8 H12/3/3~ 6/8 H12/3/3~ H11/3/2/8 H12/7/18~ H12/1/8~ 11/25 H12/10/16 ~ 11/19 S57/10/1~ 10/22 H1/10/16~ 11/3/ H4/10/7~ 10/13 H4/7/7~	岡田清一・樋口 薫 2000 「9. 久宝寺遺跡第26次調産 (K H99-26)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会 西村公助 2000 「10. 久宝寺遺跡第27次調査 (K H99-27)] 「平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調金研究会 西村公助・岡田清一 2000 「11. 久宝寺遺跡第28次調査 (K H99-28)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調金研究会 野田真一 2000 「12. 久宝寺遺跡第29次調査 (K H99-29)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会主業報告] (財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会報告5] (財)八尾市文化財調査研究会報告5] (財)八尾市文化財調査研究会報告5] (財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会業報告3 (財)八尾市文化財調査研究会主業研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会主業研究会事業報告) (財)八尾市文化財調査研究会事業報告) (財)八尾市文化財調査研究会の主要の「15. 久宝寺遺跡第33次調査 (K H2000-33) 「平成12年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会の主要の「16. 久宝寺遺跡第35次調査 (K H2000-34) 「平成12年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会事業報告] 「財)八尾市文化財調査研究会の主要の「19. 跡部遺跡第53次調査 (K H2000-35)」『平成12年度(財)八尾市文化財調査研究会報告25 安井良三他 1991 「19. 跡部遺跡(第4 次調査)『八尾市を10年報度を10年期の第2年度 (財)八尾市文化財調査研究会報告25 安井良三他 1991 「19. 跡部遺跡(第4 次調査)「八尾市を10年期で10年出土網鐸 (財)八尾市文化財調査研究会報告39 原田昌則 1993 「19. 跡部遺跡(第4 792-7) 第7次調査」「八尾市埋蔵文化財発掘調査報告」(財)八尾市文化財調査研究会報告39 原田昌則 1993 「19. 跡部遺跡第(A T92-7) 第7次調査」「八尾市東企り財発掘調査報告」(財)八尾市文化財調査研究会報告39 原田昌則 1993 「19. 跡部遺跡第(A T92-7) 第7次調査」「八尾市東文化財発掘調査報告」(財)八尾市文化財調査研究会報告39 高表千秋 1994 「1 跡部遺跡第17次調査 (A T93-14)」「(財)八尾市文化財調査研究会報告39 高表千秋 1997 「2. 跡部遺跡第17次調査 (A T94-17)」「(財)八尾市文化財調査研究会報告
27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43	入宝寺27次(KH99-27)	** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** **	北	8/20 H11/5/17~ 7/21 H11/3/10 H12/3/10 H11/3/10 H11/3/10 H11/3/17 H12/2/8~ 3/17 H12/2/8~ 3/30 H11/3/2~ 12/24 H12/3/13~ 6/8 H12/7/18~ 11/25 H12/1/18~ 11/25 H12/1/19~ 11/29 H1/1/10/6- 11/30 H1/3/2~ 8/10 H1/3/2/28	岡田清一・樋口 薫 2000 「9. 久宝寺遺跡第26次調産 (K H99-26)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会 西村公助 2000 「10. 久宝寺遺跡第27次調査 (K H99-27)] 「平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会 西村公助・岡田清一 2000 「11. 久宝寺遺跡第28次調査 (K H99-28)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会 原田昌則・西村公助・岡田清一 2000 「13. 久宝寺遺跡第30次調査 (K H99-30)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会 原田昌則・西村公助・岡田清一 2000 「13. 久宝寺遺跡第30次調査 (K H99-30)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会報告55] (財)八尾市文化財調査研究会報告55] (財)八尾市文化財調査研究会報告55] (財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会報告3000 「14. 久宝寺遺跡第33次調査 (K H2000-33) 「平成12年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会育業報告] (財)八尾市文化財調査研究会育業報告] (財)八尾市文化財調査研究会の主意の研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会の「19. 公司、52、久宝寺遺跡第35次調査 (K H2000-35) 『平成12年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会の事務の第25次調査 (K H2000-35) 『平成12年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告] 「財)八尾市文化財調査研究会事業報告」「財)八尾市文化財調査研究会報告30 「1983 「11、新部遺跡第(第 4 次調査) 『八尾市理蔵文化財発掘調査報告』(財)八尾市文化財調査研究会報告30 原田昌則 1993 「11 跡部遺跡(A T92-7) 第 7 次調査 『八尾市理蔵文化財発掘調査報告』(財)八尾市文化財調査研究会報告30 原田昌則 1993 「11 跡部遺跡第(A T92-9) 第 9 次調査 『八尾市理蔵文化財発掘調査報告』(財)八尾市文化財調査研究会報告30 原田昌則 1993 「11 跡部遺跡第(A T92-9) 第 9 次調査 『八尾市理成文化財発掘調査報告』(財)八尾市文化財調査研究会報告581 (財)八尾市文化財調査研究会報告581 (財)八尾市文化財調査研究会報告第23 第23次調査・「1000-261 第23次調査・「1000-261 第23 第23次調査・「1000-261 第23
27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43		。 。 。 。 (財)大文研セ (財)八文研 。 。 。 。 (財)八文研 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。	北	8/20 H11/5/17~ 7/21 H11/9/1~ H12/3/10 H11/9/1~ H12/3/10 H11/9/1~ H12/2/8~ 3/17 H12/2/8~ 3/30 H11/3/2~ 12/24 H12/3/13~ 6/8 H12/5/13~ 6/8 H12/5/9~ H13/2/28 H12/7/18~ 11/25 S56/10/1~ 10/5 S56/10/1~ 10/22 S56/10/1~ 10/26 H1/10/16~ 11/30 H4/7/9~ 8/10 H4/10/7~ 10/18 H1/10/16~ 11/19 H1/10/16~	岡田清一・樋口 薫 2000 「9. 久宝寺遺跡第26次調産 (K H99-26)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会 西村公助 2000 「10. 久宝寺遺跡第27次調査 (K H99-27)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会 直村公助、岡田清一 2000 「11. 久宝寺遺跡第28次調査 (K H99-28)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会 事理具一 2000 「12. 久宝寺遺跡第28次調査 (K H99-28)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会の 原田昌則・西村公財・岡田清一 2000 「13. 久宝寺遺跡第30次調査 (K H99-30)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会 原田昌則・西村公財・岡田清一 2000 「13. 久宝寺遺跡第30次調査 (K H99-30)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会報告5](財)八尾市文化財調査研究会報告5](財)八尾市文化財調査研究会報告5](財)八尾市文化財調査研究会報告5](財)八尾市文化財調査研究会報告65](財)八尾市文化財調査研究会 兼報告3 (財)八尾市文化財調査研究会 成海佳子・樋口 薫・金報演夫 2001 「4. 久宝寺遺跡第33次調査 (K H2000-33)『平成12年度(財)八尾市文化財調査研究会 方本のぐみ 2001 「5. 久宝寺遺跡第32次調査 (K H2000-34)」『平成12年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会 森本のぐみ 2001 「6. 久宝寺遺跡第35次調査 (K H2000-35)』『平成12年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会 森本のぐみ 2001 「6. 久宝寺遺跡第35次調査(K H2000-35)』『平成12年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会申業和報刊。「989 「1983 「11. 跡部遺跡第24編]を研究会 西村公財 1983 「11. 跡部遺跡 『昭和57年度における埋蔵文化財発掘調査 その成果と概要 「財)八尾市文化財調査研究会報告25 安井良三他 1991 「診部遺跡第24編]を報告39 原田昌則 1993 「11跡部遺跡第24編]を報告30「原田名則 1993 「11跡部遺跡第24編]を報告30「原田名則 1993 「11跡部遺跡第24編]を報告30「原田名則 1993 「11跡部遺跡第24編]を報告30「原田名則 1993 「11跡部遺跡第24編]を報告30「財)八尾市文化財調査研究会報告30「原田名則 1993 「11跡部遺跡第24編]を報告30「財)八尾市文化財調査研究会報告30「原田名則 1997 「2. 跡部遺跡第14次調査 (A T93-14)」「財)八尾市文化財調査研究会報告31「財)八尾市文化財調査研究会報告31「財)八尾市文化財調査研究会報告31「財)八尾市文化財調査研究会報告31「財)八尾市文化財調査研究会報告31「財)八尾市文化財調査研究会報告31「財)八尾市文化財調査研究会報告31「財)八尾市文化財調査研究会報告31「財)八尾市文化財調査研究会報告31「財)八尾市文化財調査研究会報告31「財)八尾市文化財調査研究会報告31「財)八尾市文化財調査研究会報告31「財)八尾市文化財調査研究会報告31「財)八尾市文化財調査研究会報告31「財)八尾市文化財調査研究会報告31「財)八尾市文化財調査研究会会報告31「財)八尾市文化財調査研究会報告31「財)八尾市文化財調査研究会会報告31「財)八尾市文化財調査研究会会報告31「財)八尾市文化財調査研究会会報告32「財)八尾市文化財調査研究会会報告32「財)八尾市文化財調査研究会会報告32「財)八尾市文化財調査研究会会報告32「財)八尾市文化財産工程のはよりに対は対は対は対は対は対は対は対は対は対は対は対は対は対は対は対は対は対は対は
27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45		か か か か か か の (財)大文研セ (財)八文研 か か か か か か か か か か か の の の の の の の の の の の の の	北	8/20 H11/5/17- 7/21 H11/9/17- H12/3/10 H11/9/17- H12/3/10 H12/3/20 3/17 H12/2/20 3/17 H12/2/20 12/24 H12/3/13- 6/8 H112/7/18- 11/25 H12/10/16 -11/14 -11/16 -11/16 -11/16 -11/16 -11/10/16 -11/10 H6/9/16- 11/18 H5/11/18- 11/18 H5/11/18- 11/18 H6/9/16- 11/18 H6/9/16- 11/18 H6/9/16- 11/18 H10/6/20- 7/6 -	岡田清一・樋口 薫 2000 「9. 久宝寺遺跡第26次調産 (K H99-26)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会 画村公助 2000 「10. 久宝寺遺跡第27次調査 (K H99-27)] 「平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会 画村公助・岡田清一 2000 「11. 久宝寺遺跡第28次調査 (K H99-28)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会 原田昌則・西村公助・岡田清一 2000 「13. 久宝寺遺跡第30次調査 (K H99-29)」『平成11年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会事業報告] (財)八尾市文化財調査研究会 原田昌則・西村公助・岡田清一 2000 「13. 久宝寺遺跡第31次調査 (K H99-31)」『「財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会 素本のぐみ 2000 「15. 久宝寺遺跡第31次調査 (K H99-31)」『「財)八尾市文化財調査研究会報告5] (財)八尾市文化財調査研究会事業報告201 「4. 欠宝寺遺跡第33次調査 (K H2000-33) 『平成12年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会 第 2001 「5. 久宝寺遺跡第33次調査 (K H2000-34)] 「平成12年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会業本のぐみ 2001 「6. 久宝寺遺跡第35次調査 (K H2000-34)] 「平成12年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』「財)八尾市文化財調査研究会事業報告』「財)八尾市文化財調査研究会事業報告』「内尾市理蔵文化財発掘調査報報 1980・1981」「八尾市教育委員会 同村公財 1983 「11、跡部遺跡・発掘調査帳要報告」「八尾市理蔵文化財発掘調査報告」(財)八尾市文化財調査研究会報告39 原田昌則 1993 「15部部遺跡第(和 1792-9)第9次調査 「八尾市理蔵文化財発掘調査報告」(財)八尾市文化財調査研究会報告39 原田昌則 1993 「15部遺跡第(A T92-7)第7次調査 「人尾市理蔵文化財発掘調査報告」(財)八尾市文化財調査研究会報告39 原田昌則 1993 「15部遺跡第(A T92-9)第9次調査 「八尾市中文化財調査研究会報告2 (財)八尾市文化財調査研究会報告3 (A T96-23)第23次調査「「財)八尾市文化財調査研究会報告5 (B H)八尾市文化財調査研究会事業報告】「以)八尾市文化財調査研究会事業報告」(財)八尾市文化財調査研究会事業報告)「以)八尾市文化財調査研究会事業報告)「以)八尾市文化財調査研究会事業報告)「以)八尾市文化財調査研究会事業報告)「以)八尾市文化財調査研究会事業報告)「以)八尾市文化財調査研究会事業報告)「以)八尾市文化財調査研究会事業報告)「以)八尾市文化財調査研究会等業報告)「以)八尾市文化財調査研究会等業報告)「以)八尾市文化財調査研究会等等報告)「以)八尾市文化財調査研究会等等報告)「以)八尾市文化財調査研究会等等報告)「以)八尾市文化財調査研究会報告39 第23次間査」「対)八尾市文化財調査研究会等第23次間査」「対)八尾市文化財預査研究会等第23次間査」「対)八尾市文化財預査研究会等第23次間査工程度(財)八尾市文化財預査研究会等第23次間査工程度(財)八尾市文化財預査研究会等第23次間査工程度(財)八尾市文化財預査研究会等第23次間査工程度(財)「15財、15財、15財、15財、15財、15財、15財、15財、15財、15財、

第3章 調査概要

第1節 調査の方法と経過

今回の発掘調査は、旧国鉄の竜華操車場跡地で計画された「八尾都市計画事業大阪竜華都市拠点土地区画整理事業」に伴うもので、平成9年度以降、基盤整備事業の一環として、主に道路部分を中心とした発掘調査が継続して実施されている。平成10年度については、久宝寺遺跡第24次調査(KH98-24)として竜華東西線道路の延べ339.2mを調査対象とした。

調査地はJR久宝寺駅から南約170mの地点で、地番は八尾市大字亀井・渋川にあたる。東西方向に設定された新設道路予定地の延べ339.2mを鋼矢板打設により8調査区に分割し、西から久宝寺遺跡第24次-1調査区(KH98-24-1)~第24次-8調査区(KH98-24-8)と呼称した。各調査区の規模は、下記の第2表にまとめた。総調査面積は6268.8㎡を測る。調査では、現地表下1.0~2.3m迄を対象とした調査を上部調査とし、以下、雨水管および汚水管の敷設部分を対象とした調査を下部調査と呼称した。

調査方法は、埋蔵文化財調査指示書に示された試掘調査の結果や管路部分の構築深度の違いにより、各調査区によって異なるが、上部調査では現地表下0.6~1.5mまでを機械掘削とし、以下0.6~0.9mについては人力掘削を行った。下部調査では、土質の違いにより2.6~3.0mを人力のみで掘削した調査区と、人力・機械を併用して行った調査がある。また、各調査区の四方には土層観察用のセクション(幅0.6m)を設定した。

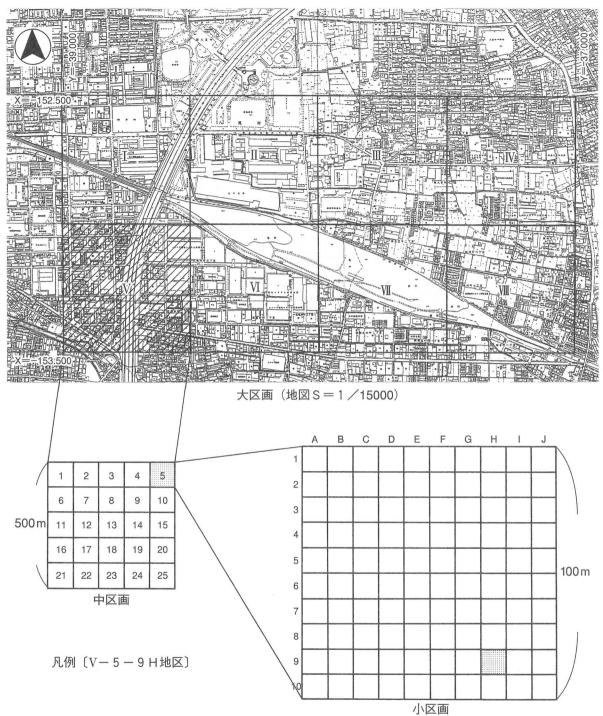
調査区全体の地区割については、平成9年度以降継続する調査に対応するため、旧国鉄竜華操車場跡地全域を含む地域の東西2km・南北1kmについて、国土座標第NI系(原点 東経136°00′北緯36°00′・福井県越前岬付近)に準拠して大区画・中区画・小区画を設定した。大区画は500m四方で全体を8区(I~W)に区分し、区分内の北西隅をIとし南東隅をWと呼称した。中区画は大区画を100m単位に25区(1~25)に区分し、区画内の北西隅を1とし南東隅を25と呼称した。小区画は中区画を10m単位に区分した。小区画の呼称については、北西隅を起点として東西方向はアルファベット

(西からA~J)、南北方向は算用数字(北から1~10)で示し、1A区~10 J区と表記した。以上の区分法を使用して、個々の地区表記においては、第3図の凡例で示したような表示方法を取った。

なお、小区画内の地点表示については、国土座標値を入れる方法を取った。調査面の呼称については、人

第2表 各調査区一覧表

	東西幅(m)	南北幅(m)	面積(m²)	調査期間	調査担当者
1調査区	38.8	20.0	776.0	H10/7/28~11/5	渞・樋口
2調査区	38.8	20.0	776.0	H10/11/4~H11/1/20	原田・樋口
3調査区	38.8	20.0	776.0	H10/6/15~9/10	渞・樋口
4調査区	38.8	20.0	776.0	H10/10/13~H11/1/28	坪田
5調査区	46.0	17.2	791.2	H10/6/8~9/24	原田
6調査区	46.0	17.2	791.2	H10/10/23~12/22	渞・古川
7調査区	46.0	17.2	791.2	H10/7/10~8/25	坪田・古川
8調査区	46.0	17.2	791.2	H10/9/16~11/18	原田・古川



第3図 調査地地区割り模式図

力による調査で検出された面を上部より「第1面」とした。但し、1面のみ存在する場合は「第 \bigcirc 面」と表記するが、同一層内で「上層」「下層」に分けられる場合や層が違うものの時期的に近い場合には「第1-1面」のように枝番号を付けて呼称した。

なお、本調査では近世初頭以降に構築された島畑が随所で確認されており、島畑に付随する水田を構築する際に大規模な削平を受けた箇所が認められた。このような地点では、調査面と時期との整合を困難にしており、同一面で時期幅のある遺構を検出する結果となった。

遺構番号については、報告書作成段階に各調査区の調査面を統一した後、第1調査区から順番

に遺構略号の後に 2 桁の面番号を付与し 3 桁の遺構番号と合わせて 5 桁で表記した。 [凡例第 1-1 面の溝001は S D11001と表記した]。

現地調査での面ごとの平面図の作成は、航空測量($1/20 \cdot 1/100$)と平板測量($1/50 \cdot 1/100$)を併用した。地層断面図は(1/20)、主な遺構については、($1/10 \cdot 1/20$)に統一した。方位は座標北を採用した。高さの基準は東京湾標準潮位(T.P.)を適用した。

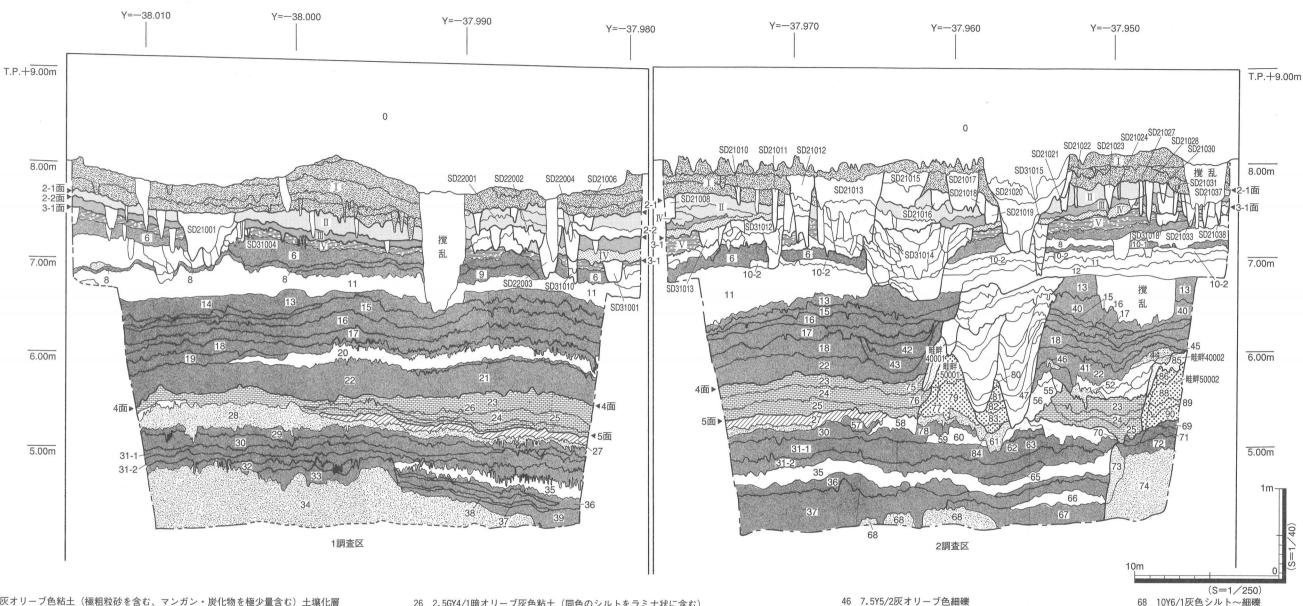
調査の結果、上部調査では古墳時代中期~後期・飛鳥時代・奈良時代・平安時代前期・平安時代後期・鎌倉時代・室町時代・近世・近代に比定される遺構・遺物の他、地震痕跡が4調査区以東の調査区で検出されている。下部調査では、1調査区~3調査区で古墳時代初頭後半~前期前半(庄内式期新相~布留式期古相)に比定される水田遺構を検出している。遺物は、遺構内および包含層から出土しており、総数はコンテナ箱に約120箱である

第2節 基本層序

本調査は、東西方向に延べ339.2mを8調査区に分割して実施したもので、上部調査では、中世末期以降のものと推定される島畑構築による地層の改変が随所で認められた。下部調査では、3調査区の東部以東で古墳時代前期後半(布留式期新相)~古墳時代中期初頭の間に埋没した3条の自然河川(NR31001~NR31003)に起因した洪水砂層の広がりが、3調査区の東部から7調査区間で確認された。

ここでは、上部調査の範囲で普遍的に存在が認められた6層(第0層~第V層)を基本層序とし、基本層序以外と下部調査で確認された地層については、1調査区から順に算用数字で示した。第0層:竜華操車場設置(昭和13年10月操業)に伴う客土層で、層厚0.7~1.3mを測る。上面の標高はT.P.+9.0~9.2mを測る。

- 第 I 層:竜華操車場造成直前の作土層である。島畑および水田面で確認された。島畑部では $2 \sim 3$ 層程度に分層が可能で、色調は灰色ないしは灰オリーブ色で、粗粒砂〜細礫を含む締りの良い地層である。島畑間の水田域は、グライ化が顕著で砂質シルト〜粘土質シルトの層相である。層厚は島畑部分で $0.2\sim0.5$ m、水田部分で $0.1\sim0.3$ mを測る。 $3\cdot4$ 調査区では第 I 層上面で、竜華操車場造成直前まで機能を果たした畝溝が検出されている(第 1-1 面)。 $4\cdot7$ 調査区では第 I 層中で第 1-2 面を検出している。
- 第 \blacksquare 層:砂質シルトを主体とするが、 $4\cdot 5$ 調査区では粗粒砂〜細礫を多く含む。灰黄色系の色調で、マンガン斑・酸化鉄の管状斑点が顕著である。比較的安定しており全調査区で存在が認められた。そのうち、6 調査区の中央部がT.P.+8.5mで最も高く、そこから西に低くなっており、1 調査区の西部ではT.P.+7.5mを測る。なお、一部、島畑に付随する水田部分では削平され欠如した部分がある。層厚 $0.1\sim 0.4$ mを測る。中世〜近世の遺物を含む。第 \blacksquare 層上面では、 $1\cdot 2$ 調査区で第 2-1 面、 $5\cdot 6\cdot 8$ 調査区で第 1-2 面を検出している。
- 第Ⅲ層:5・6調査区では、粗粒砂〜細礫を含むがその他は粘土質シルトないしはシルト質粘土の層相である。3調査区では、近世の水田構築により本層が欠損している。酸化鉄・マンガン斑が顕著で、色調は灰色〜灰黄色である。層厚は0.1~0.3mを測る。古墳時代後期〜鎌倉時代の遺物を含む。第Ⅲ層上面では、1調査区で第2-2面、4~8調査区で



- 6 5Y5/2灰オリーブ色粘土(極粗粒砂を含む、マンガン・炭化物を極少量含む)土壌化層
- 7 2.5Y4/2暗灰黄色粘土 (シルト混、鉄分・マンガン斑、炭化物を極少量含む)
- 8 7.5Y4/1灰色粘土 (シルト混、グライ化、鉄分を多量含む)
- 9 2.5GY7/1明オリーブ灰色極細粒砂
- 10-1 2.5GY8/1灰白色シルト~極細粒砂
- 10-2 N5/0灰色粘土質シルト
- 11 10GY4/1暗緑灰色~7.5GY4/1緑灰色シルト~細礫(植物遺体を含む)
- 12 7.5Y6/1灰色シルト
- 13 5Y4/1灰色粘土~粘土質シルト(マンガン斑、粘土とシルトのラミナ、水成堆積層)
- 14 10Y4/1灰色粘土 (炭化物を含む、水成堆積層)
- 15 2.5Y4/2暗灰黄色粘土~7.5Y6/1灰色シルト (弱流水層)
- 16 10Y4/1灰色粘土 (粘土と炭化物のラミナ)
- 17 10Y4/1灰色粘土
- 18 10Y4/1灰色粘土 (10Y4/1灰色シルト、植物遺体・炭化物の互層)
- 19 10Y4/1灰色粘土(2.5Y4/1暗オリーブ灰色シルト・7.5Y4/2灰オリーブ色シルトのラミナ、植物遺体)
- 20 7.5Y4/1灰色粘土
- 21 10GY4/1暗緑灰色粘土 (7.5GY5/1緑灰色シルト〜細礫ラミナ層)
- 22 7.5Y4/1灰色粘土(植物遺体をラミナ状に含む、炭酸鉄・ビビアンナイトあり)
- 23 10Y4/1灰色粘土 (粗粒砂・炭化物を含む)
- 24 5GY4/1暗オリーブ灰色粘土
- 25 5GY4/1暗オリーブ灰色粘土 (炭化物を含む)

- 26 2.5GY4/1暗オリーブ灰色粘土 (同色のシルトをラミナ状に含む)
- 27 2.5GY4/1暗オリーブ灰色粘土 (同色のラミナ)
- 28 5GY4/1暗オリーブ灰色シルト〜細礫 (炭化物のラミナ)
- 29 5Y4/1灰色粘土 (10Y4/1灰色シルト、植物遺体のラミナ)
- 30 10Y4/1灰色粘土(植物遺体を多量に含むラミナ)
- 31-1 5Y3/1オリーブ黒色粘土 (粗粒砂を含む)
- 31-2 7.5Y3/1オリーブ黒色粘土 (細礫を含む)
- 32 5GY4/1暗オリーブ灰色粘土 (細礫を含む)
- 33 7.5GY4/1暗緑灰色粘土 (細礫、7.5Y3/1オリーブ黒色シルトをブロック状に含む)
- 34 5GY4/1暗オリーブ灰色シルト(7.5GY4/1暗緑灰色シルト粘土、5GY5/1オリーブ灰色細礫層)
- 35 7.5GY4/1暗緑灰色シルト (2.5GY3/1暗オリーブ灰色粘土をブロック状に含む)
- 36 7.5GY4/1暗緑灰色粘土~5GY4/1暗オリーブ灰色粘土
- 37 7.5GY4/1暗緑灰色粘土質シルト (シルトのラミナあり)
- 38 5GY4/1暗オリーブ灰色粘土 (シルトのラミナあり)
- 39 5GY4/1暗オリーブ灰色粘土 (細礫を含む)

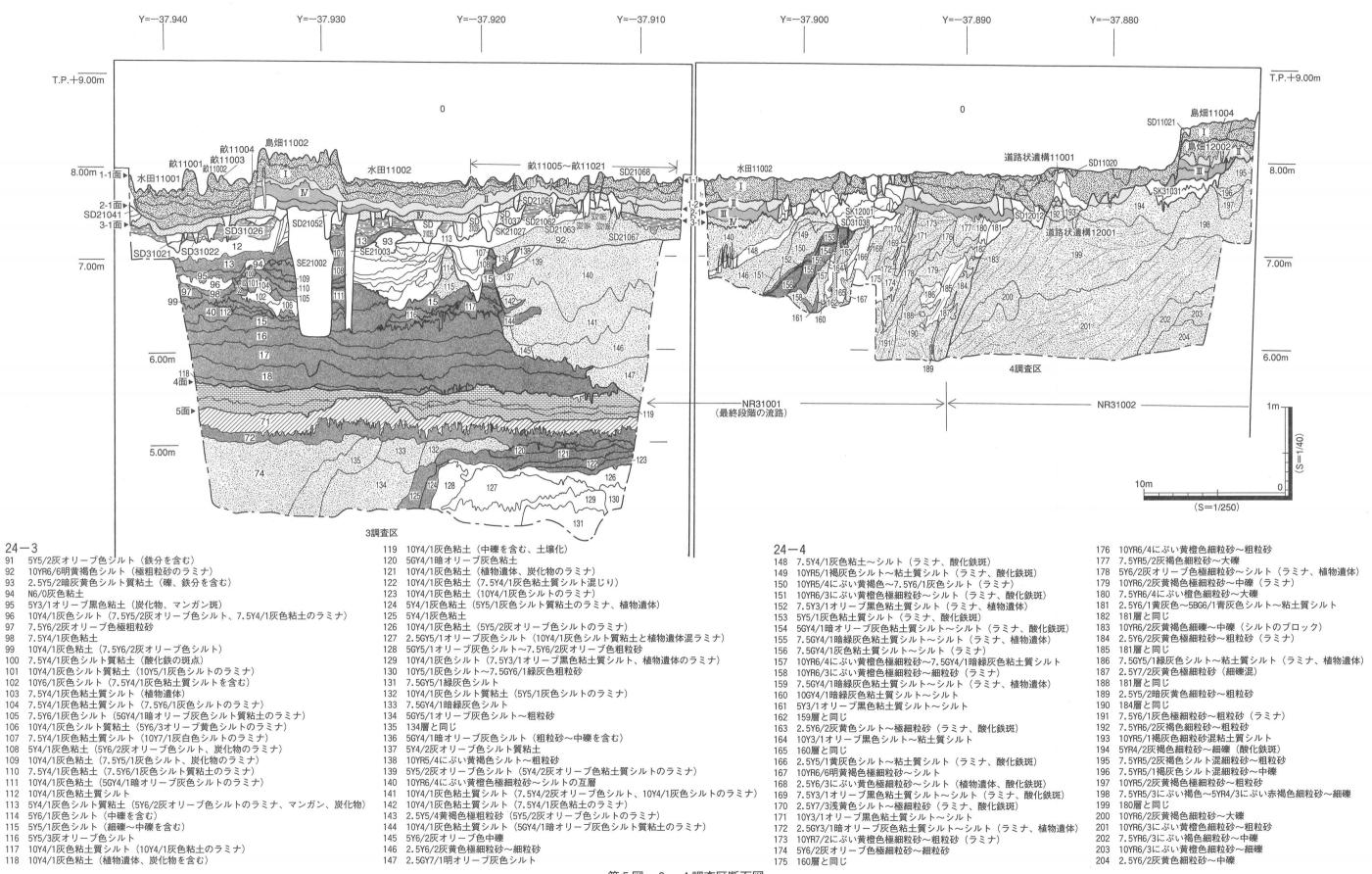
24 - 2

- 40 10Y4/1灰色粘土
- 41 10Y4/1灰色粘土~シルト
- 42 10Y4/1灰色粘土
- 43 7.5Y4/1灰色粘土
- 44 7.5Y5/1灰色シルト (細礫を含む)
- 45 7.5Y5/2灰オリーブ色極粗粒砂

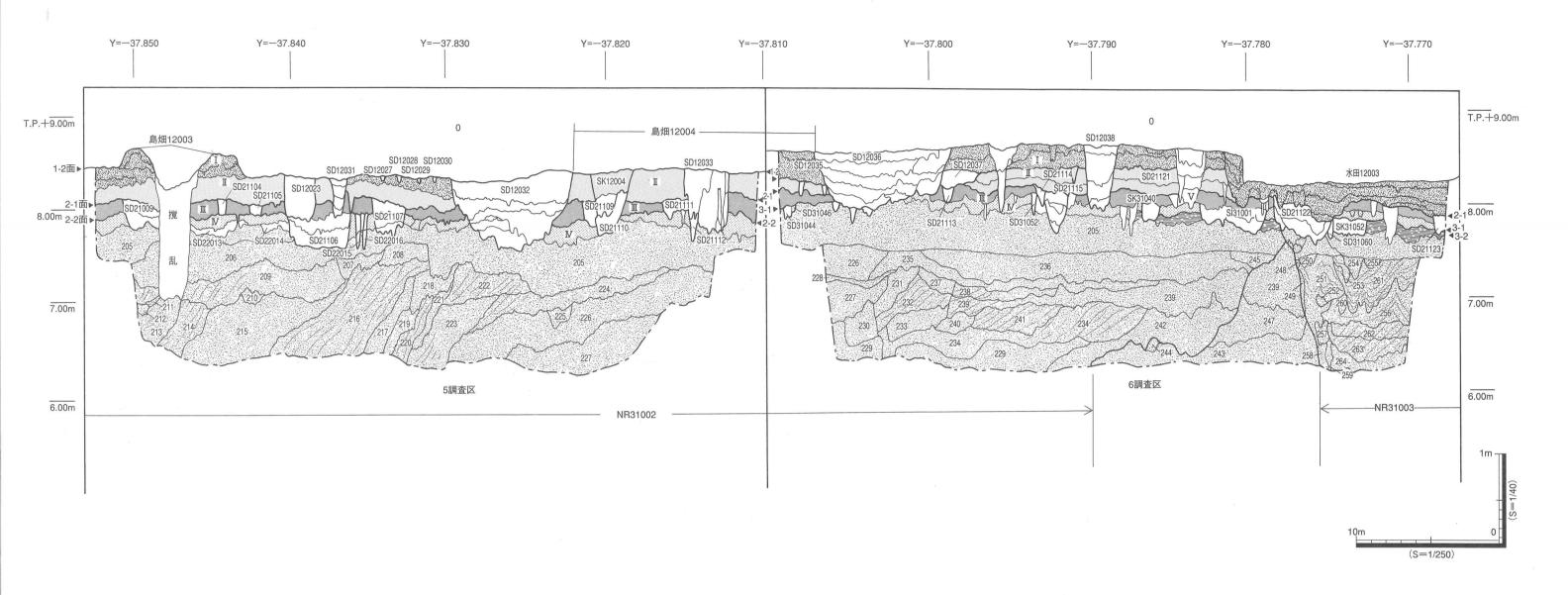
第4回 1・2調査区断面図

- 47 10Y4/1灰色シルト質粘土
- 48 10Y5/1灰色シルト~5Y4/1灰色シルト質粘土のラミナ
- 49 7.5Y4/1灰色粘土質シルト~10Y5/1灰色シルト
- 50 7.5Y4/1灰色粘土
- 51 7.5Y5/1灰色シルト
- 52 5GY5/1オリーブ灰色極粗粒砂
- 53 10Y4/1灰色粘土
- 54 5Y6/3オリーブ黄色シルト
- 55 7.5Y5/1灰色シルト
- 56 10Y3/1オリーブ黒色粘土
- 57 5Y4/1灰色粘土
- 58 10Y4/1灰色粘土 (7.5Y6/2灰オリーブ色シルトのラミナ)
- 59 5Y5/2灰オリーブ色シルト〜細礫
- 60 5Y4/1灰色粘土
- 61 10Y5/1灰色シルト〜細礫
- 62 5Y4/1灰色粘土
- 63 5Y3/1オリーブ黒色粘土
- 64 10Y4/1灰色粘土
- 65 5GY4/1暗オリーブ灰色シルト質粘土
- 66 7.5Y5/1灰色シルトと10Y6/1灰色シルト(植物遺体)
- 67 5Y4/1灰色粘土と2.5GY5/1オリーブ灰色シルト(植物遺体)

- 69 5Y3/1オリーブ黒色粘土
- 70 5Y3/1オリーブ黒色粘土
- 71 10Y3/1オリーブ黒色粘土
- 72 7.5Y3/1オリーブ黒色粘土~5Y4/1灰色シルト
- 73 7.5Y5/1灰色シルト
- 74 5Y6/2灰オリーブ色シルト
- 75 10Y4/1灰色粘土
- 76 7.5Y4/1灰色粘土
- 77 7.5Y5/3灰オリーブ色シルト
- 78 7.5Y4/1灰色シルト質粘土
- 79 10Y4/1灰色シルト質粘土
- 80 10Y4/1灰色シルト質粘土
- 81 7.5Y5/1灰色シルト
- 82 7.5Y4/1灰色シルト質粘土
- 83 5Y4/1灰色シルト質粘土
- 84 10Y4/1灰色シルト質粘土
- 85 10Y4/1灰色粘土
- 86 10Y4/1灰色シルト
- 87 86層と同じ
- 88 7.5GY5/1緑灰色シルト 89 10Y4/1灰色シルト〜細礫
- 90 5Y4/1灰色粘土



第5図 3・4調査区断面図



24-	-5
205	10YR4/2灰褐色中粒砂~細礫
206	10YR5/2灰黄褐色粗粒砂~中礫(布留式新相遺物出土)
207	10YR6/3にぶい黄橙色粗粒砂~中礫
208	206層と同じ
209	10YR6/6明黄褐色粗粒砂~中礫
210	7.5YR4/2灰褐色粗粒砂
211	10BG7/1明青灰色シルト
212	N8/0灰白色細粒砂~極粗粒砂
213	N7/0灰白色中粒砂~細礫(粗粒砂中心、淘汰不良)
214	10YR8/6黄橙色中粒砂~極粗粒砂
215	5Y7/4浅黄色粗粒砂~中礫(淘汰不良)
216	7.5Y8/1灰白色中粒砂〜細礫(ラミナ)
217	10BG7/1明青灰色極細粒砂〜粗粒砂(植物遺体を含む)
218	2.5Y7/4浅黄色粗粒砂~中礫
219	10BG7/1明青灰色極細粒砂〜粗粒砂(植物遺体を含む)

222 209層と同じ
223 5Y7/3浅黄色中礫混細粒砂〜粗粒砂
224 10YR7/6明黄褐色中粒砂〜極粗粒砂
225 2.5GY8/1灰白色粗粒砂〜中礫
226 N8/0灰白色細粒砂〜中礫混中粒砂
227 5GY8/1灰白色中粒砂〜粗粒砂

24 — 6
228 5YR4/6赤褐色粗粒砂(細礫を含む)
229 2.5Y6/2灰黄褐色細粒砂(細礫を含む)
230 2.5Y6/3にぶい黄色細粒砂(細礫を含む)
231 10YR7/4にぶい黄色極粗粒砂〜細礫
232 2.5Y7/4浅黄色細粒砂(細礫を含む)
233 2.5Y7/3浅黄色細粒砂(細礫を含む)

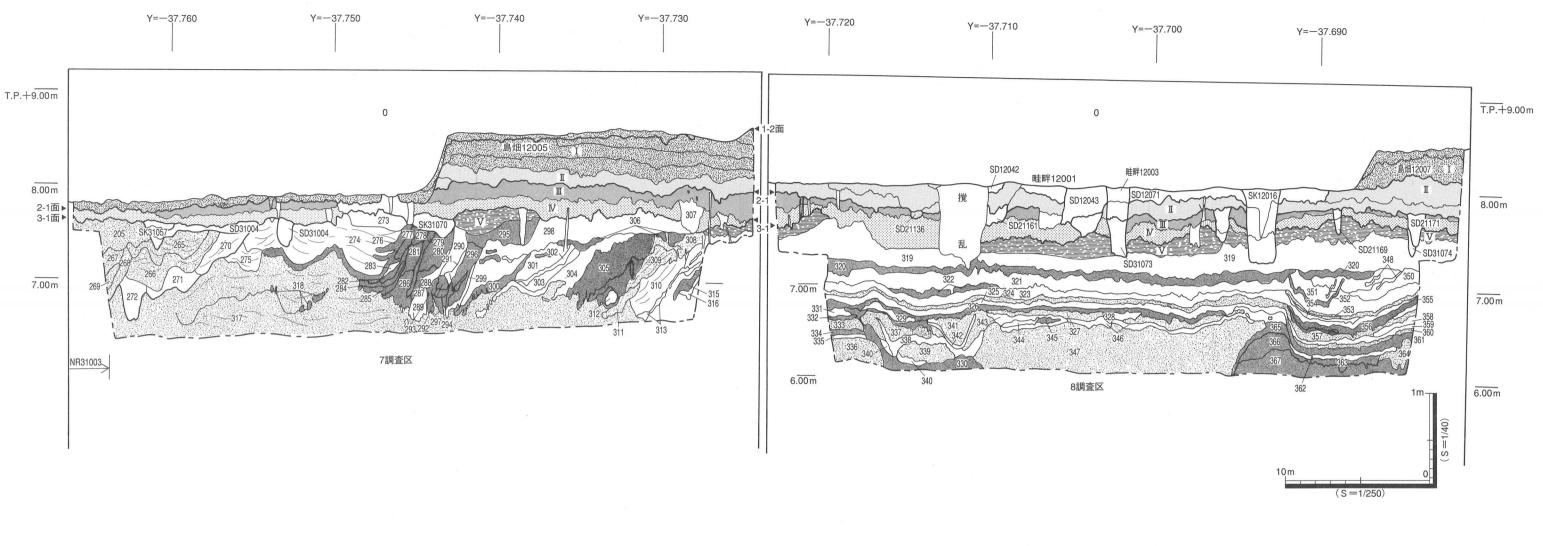
220 5Y7/4浅黄色~10GY8/1明緑灰色細粒砂~細礫

221 10BG7/1明青灰色極細粒砂(植物遺体)

236 10YR3/3暗褐色細粒砂 237 7.5YR5/4にぶい褐色細粒砂(細礫を含む) 238 10YR5/3にぶい黄褐色細粒砂 239 2.5Y6/2灰黄色細粒砂 240 2.5Y6/3にぶい黄色細粒砂(細礫を含む) 241 2.5Y5/4黄褐色細粒砂~10YR5/3にぶい黄褐色粗粒砂(ラミナ) 242 2.5Y6/4にぶい黄色細粒砂 243 2.5Y7/2灰黄色~5Y7/1灰白色細粒砂(中礫、ラミナ、酸化鉄斑) 244 2.5Y8/2灰白色細粒砂 245 2.5Y3/2暗赤褐色粗粒砂(土壌化層) 246 5Y5/1灰色粗粒砂 247 2.5Y7/1灰白色細粒砂 248 2.5Y4/2暗灰黄色粘土質シルト(マンガン斑) 249 5Y4/1灰色粘土質シルト 250 2.5Y5/4黄褐色シルト~5Y5/2灰オリーブ色シルト
251 5Y5/1灰色シルト~2.5Y7/1灰白色極細粒砂(酸化鉄斑)
252 2.5Y6/2灰黄色細粒砂
253 2.5Y8/1灰白色極細粒砂
254 2.5Y6/3にぶい黄色極細粒砂(ラミナ)
255 2.5Y7/2灰黄色極細粒砂
256 5Y7/1灰白色細粒砂
257 2.5Y5/4黄褐色粗粒砂
258 2.5Y5/2暗灰黄色細粒砂~中礫
259 2.5Y7/2灰黄色細粒砂~中礫
260 2.5Y7/3浅黄色細粒砂
261 5Y7/1灰白色極細粒砂
262 2.5Y6/3にぶい黄色細粒砂
263 10YR7/6明黄褐色粗粒砂
264 5Y7/1灰白色細粒砂~粗粒砂
264 5Y7/1灰白色細粒砂~粗粒砂

234 2.5Y7/2灰黄色細粒砂

235 5YR3/2暗赤褐色粗粒砂



24-	-7	
265	2.5Y5/2暗灰黄色中粒砂~粗粒砂	
266	2.5Y6/2灰黄色極細粒砂	
267	2.5Y7/2灰黄色中粒砂~粗粒砂	
268	2.5Y6/3にぶい黄色中粒砂~粗粒砂	
269	5Y6/2灰オリーブ色細粒砂~中粒砂	
270	5Y7/2灰白色中粒砂混シルト	
271	5Y6/2灰オリーブ色中粒砂混シルト	
272	10YR5/3にぶい黄褐色シルト	
273	5B6/1青灰色シルト	
274	2.5Y7/1灰白色細粒砂混シルト	
275	7.5Y6/2灰オリーブ色細粒砂混シルト	
276	10YR6/1褐色極細粒砂混粘土質シルト	
277	10Y6/1灰色粘土質シルト	
278	5Y7/3浅黄色極細粒砂混粘土質シルト	
279	7.5Y4/1灰色極細粒砂混粘土質シルト	
280	10Y5/1灰色粘土質シルト	
201	7 FVC /1 FE A VE L FF 2 . II L /45 90 V5 TACE	

- 281 7.5 Y6/1灰色粘土質シルト (極細粒砂混、酸化鉄斑) 282 5Y5/1灰色粘土質シルト (ラミナ) 283 10YR6/6明黄褐色シルト (ラミナ)
- 285 5B5/1青灰色粘土(極細粒砂を含む) 286 284層と同じ 287 7.5Y5/1灰色~5G5/1緑灰色粘土質シルト(植物遺体)

284 N6/0灰色粘土 (極細粒砂と植物遺体のラミナ)

- 288 5G6/1緑灰色シルト〜N5/0灰色粘土 289 2.5Y6/4にぶい黄色シルト〜N6/0灰色シルト 290 2.5Y7/3浅黄色シルト〜2.5Y6/1黄灰色粘土質シルト
- 291 5PB6/1 青灰色粘土 292 N5/0灰色粘土

293 N4/0灰色粘土 294 7.5Y5/1灰色粘土質シルト 10Y4/1灰色粘土質シルト~7.5Y6/1灰色シルト(植物遺体) 296 294層と同じ 297 293層と同じ 298 5B6/1青灰色シルト 299 N5/0灰色粘土 300 2.5GY5/1オリーブ灰色粘土(植物遺体) 301 5Y6/2灰オリーブ色シルトと5Y4/2灰オリーブ色粘土の互層 302 300層と同じ 303 7.5Y5/2灰オリーブ色シルトと5Y4/1灰色粘土の互層 304 N5/0灰色粘土~2.5GY6/1オリーブ灰色極粗粒砂 5Y6/1灰色シルトと5Y4/1灰色粘土の互層(下部) 5Y7/2灰白色粘土質シルト 308 5Y7/2灰白色粘土と7.5Y6/1灰色粘土の互層

318 5B5/1青灰色粘土~N5/0灰色粘土(極細粒砂を含む、植物遺体)

- 305 5Y4/1灰色粘土質シルトと2.5Y6/1オリーブ灰色シルトの互層 (上部) 5Y6/1灰色粗粒砂混粘土質シルト~2.5Y5/1黄灰色極細粒砂混粘土質シルト 308層と同じ 310 2.5Y7/3浅黄色シルトと2.5Y5/1黄灰色粘土の互層 2.5Y7/2灰黄色中礫 312 2.5Y7/3浅黄色シルト 313 2.5Y7/2灰黄色シルトと2.5Y5/1黄灰色シルトの互層 314 2.5Y7/2灰黄色シルト 315 10Y4/1灰色粘土質シルト 316 7.5Y6/2灰オリーブ色シルトと7.5Y5/1灰色粘土の互層 317 5Y6/3オリーブ黄色細粒砂〜粗粒砂
- 319 5YR5/6明褐色シルト~極細粒砂(酸化鉄斑、マンガン斑) 320 5B6/1青灰色粘土質シルト (酸化鉄斑) 321 2.5GY6/1オリーブ灰色シルトとN4/0灰色粘土の互層 322 7.5Y7/1灰白色シルト質粘土 323 7.5 (1灰色シルト質粘土 (植物遺体) 324 5GY7/1明オリーブ灰色粘土質シルトと5Y5/1灰色シルト質粘土の互層 325 5B5/1青灰色シルト質粘土と7.5Y5/1灰色シルト質粘土の互層 326 N5/0灰色粘土 327 10YR5/1褐灰色中粒砂 328 5G5/1緑灰色粘土(植物遺体) 329 326層と同じ 2.5Y4/1黄灰色粘土質シルトと10Y6/1灰色極細粒砂の互層 331 5Y6/1灰オリーブ色シルト N6/0灰色粘土質シルト 333 5Y7/2灰白色極細粒砂~シルト (7.5Y5/2灰オリーブ色粘土質シルトを含む) 332層と同じ 335 N5/0灰色シルト質粘土 2.5Y7/1灰白色極細粒砂~シルトと7.5Y5/1灰色粘土の互層 (ラミナ) 337 333層と同じ 7.5Y4/1灰色シルト質粘土 2.5Y7/2灰黄色極細粒砂~シルト (7.5Y5/2灰オリーブ色粘土質シルトを含む)

5G6/1緑灰色極細粒砂(植物遺体)

2.5Y8/1灰白色シルト (5Y5/1灰色粘土質シルトを含む)

343 2.5Y4/1黄灰色シルト質粘土と2.5Y7/1灰白色シルトの互層

345 5B6/1青灰色粘土質シルト(極細粒砂を含む) 346 343層と同じ 347 336層と同じ 348 5Y6/1灰色シルト質粘土 (極細粒砂を含む、酸化鉄斑) 349 2.5Y7/4浅黄色砂質シルト (極細粒砂を含む) 350 349層と同じ 351 321層と同じ 352 7.5Y4/1灰色シルト質粘土と7.5GY5/1緑灰色粘土質シルトの互層 353 348層と同じ 354 5Y4/1灰色シルト質粘土(植物遺体を含む) 355 323層と同じ 356 348層と同じ 357 324層と同じ 5Y5/1灰色シルト質粘土と2.5GY7/1明オリーブ灰色極細粒砂の互層 359 N5/0灰色粘土(植物遺体を含む) 360 5GY7/1明オリーブ灰色極細粒砂 N5/0灰色粘土(植物遺体を含む) 2.5GY4/1明オリーブ灰色シルト質粘土 7.5Y4/1灰色粘土(炭酸鉄の結核) 7.5Y7/1灰白色細粒砂~シルト 365 7.5GY6/1緑灰色粘土とN5/0灰色粘土の互層(植物遺体を含む) 366 N4/0灰色粘土 (極細粒砂を含む) 367 10Y5/1灰色粘土 (炭酸鉄の結核)

第7図 7・8調査区断面図

341 333層と同じ

344 342層と同じ

第2-1面を検出した。

第 \mathbb{N} 層:調査地全域で確認した。シルト〜シルト質粘土の層相で、灰色〜黄褐色の色調を呈する。酸化鉄・マンガンの斑点が認められる。層厚は $0.1\sim0.45$ mを測る。古墳時代中期〜後期の遺物を含む。第 \mathbb{N} 層上面では、3調査区で第2-1面、第5調査区で第2-2面を検出している。

第V層: $1 \sim 3$ 調査区では、土壌化したシルト〜粘土で、色調はオリーブ灰色〜黒褐色である。 $4 \cdot 5$ 調査区では認められず、下部調査で検出した埋没自然河川(NR31002)の上部 にあたり、灰白色〜灰色の色調のシルト〜粗粒砂を中心とする水成層である。層厚は $0.1 \sim 0.3$ mを測る。古墳時代中期の遺物を含む。第V層上面では、 $4 \cdot 5$ 調査区を除く 各調査区で第3-1 面を検出している。6 調査区で検出した第3-2 面は第V層中から 検出されている。

第 V 層以下については、 $1 \sim 3$ 調査区の東部迄では、比較的安定したシルト〜粘土の堆積が認められ、沼沢地に特有な静水域が展開する環境下であったことが想定される。 $1 \sim 3$ 調査区では T.P. +5.7 m付近の23~25層を作土とする古墳時代初頭後半(庄内式期新相)~古墳時代前期前半(布留式期古相)の水田(第 4 面)と T.P. +5.4 m 前後の27層を作土とする古墳時代初頭後半(庄内式期新相)以前の水田(第 5 面)が断面観察で確認されている。 3 調査区の東部~7 調査区にかけては、NR31001~NR31003に起因した洪水砂の広がりと、それら河川群により形成され、5 世紀初頭以降の集落の形成に影響を与えた自然堤防等の微地形が確認されている。

第3節 検出遺構と出土遺物

1) 各調査面の概要

- 第1-1面(近世~近代)(第8図、図版二)
- 3・4調査区の現地表下1.2~1.4m前後(T.P.+8.0~7.7m)の第 I 層上面で捉えた遺構面である。近世初頭~近代に比定される農耕に関連した遺構を多数検出した。検出した遺構は、島畑4 基(島畑11001~島畑11004)、水田3 筆(水田11001~水田11003)、畝32条(畝11001~畝11032)、溝21条(SD11001~SD11021)、道路状遺構1条(道路状遺構11001)である。

島畑は4基(島畑11001~島畑11004)検出した。構築方向は座標北から約6度程度東に振っている。3筆検出した水田は、3基の島畑(島畑11001~島畑11003)と道路状遺構11001により区画されているが、小畦畔による区画や水口などの水利関連施設は検出されなかった。水田内では島畑に並行して伸びる畝群を多数検出した。この畝群は、秋から冬に水田を畑として利用する二毛作に関連するもので、農閑期における水田の有効利用の一端を示している。溝は一部を除けば、島畑上で検出されたものが大半である。なお、SD11020については、道路状遺構11001の東側に沿っており、道路に付随した側溝の役割を果たしたもの考えられる。4調査区で検出した南北方向に伸びる道路状遺構11001については、竜華操車場の設置で寸断された当時の久宝寺村と竜華町を結ぶ道路と考えられる。

島畑(島畑)

島畑11001

3調査区のW─11─2F~4F地区で検出した。南一北に伸びる島畑である。検出部分で、東西上幅4.1m、下幅4.3m、南北長16.5mを測る。断面形状は低い台形状で上層が灰色粘土、下層が暗灰黄色粘土質シルトの2層から成る。水田11001との高低差は、検出面で0.12mを測る。

島畑11002

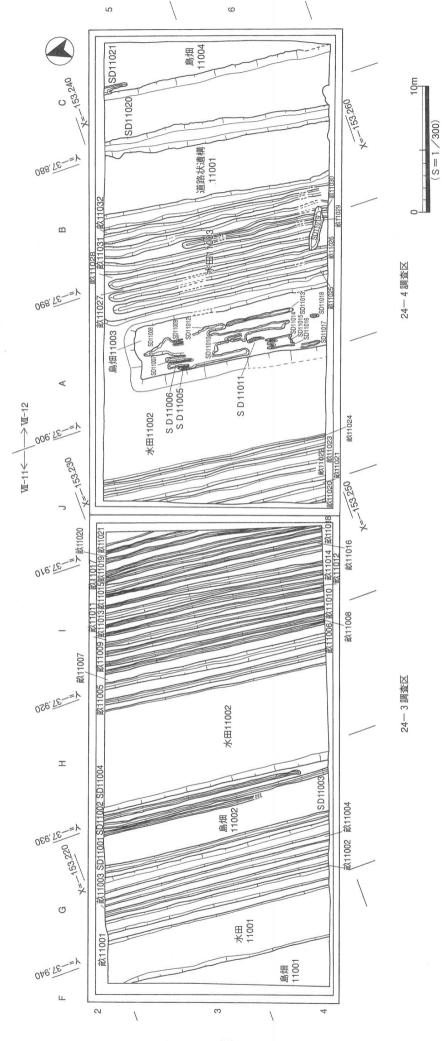
3調査区の $W-11-3\sim5$ G、3 H地区で検出した。南ー北に細長い島畑である。検出部分で東西上幅5.0m、下幅5.8m、南北長18.3mを測る。断面形状は低い台形状で、暗灰黄色粘土質シルトが盛られている。水田11002の耕作面との高低差は0.16mを測る。島畑上面において溝 4 条 (SD11001~SD11004)を検出した。

島畑11003

4調査区のⅦ-12-4~6 A地区で検出したもので、平面形状は南-北に長軸を持つ長方形を呈し、南は調査区外に続いている。主軸は座標北から東に約6度振っている。検出部分で、東西上幅4.0m、下幅5.5m、南北長18mを測る。断面形状は低い台形状で、高さ0.3m前後を測る。上面では、島畑の構築方向に沿って伸びる小溝14条(SD11005~SD11018)を検出した。

島畑11004

4 調査区東部の $W-12-5\sim7$ C地区で島畑の西辺の一部を検出した。西辺の方向は座標北から東に約6度振っており、島畑11003とほぼ同じである。上面の標高は約T.P.+8.5m、規模は検出部分で東西上幅4.0m、下幅4.5m、南北長18.3m、高さ約0.5mを測る。シルト〜細粒砂多量に含む層相の地層で構築されている。北部西辺際では耕作に伴うと考えられる溝 1 条(SD11021)を検出した。上部の作土層からは中世頃までの土器の小片が出土している。なお、北接する位置で平成10年度に(財)大阪府文化財調査研究センターにより実施された調査(98-1トレ



第8図 第1-1面平面図 (24-3調査区・24-4調査区)

ンチ)では、古墳時代後期中葉の『七ツ門古墳』が検出されており、本遺構はその墳丘を利用したものであることが確認されている。

水田 (水田)

水田11001

3 調査区西部の $W-11-2\sim4$ F、 $2\sim5$ G地区で検出した。西側を島畑11001に、東側を島畑11002に区画されている。検出部分で、東西幅8.2m、南北幅18m、面積147.6㎡の規模を測る。耕作土は、細礫 \sim 中礫混粘土質シルトである。水田内で、畝 4 条(畝11001 \sim 畝11004)を検出した。

水田11002

3 調査区の中央部から 4 調査区西部の $W-11-3\sim5$ H \sim J、 $W-12-4\sim6$ A地区で検出した。西側を島畑11002、東側を島畑11003に区画されている。検出部分で、東西幅32m、南北幅18m、面積576m2以上を測る。上面の標高は $T.P.+7.8m\sim7.9m$ で、島畑11003との比高差は $0.2\sim0.3m$ を測る。耕作土は細礫 \sim 中礫混粘土質シルトである。水田内で、畝20条(畝11005 \sim 畝11024)を検出した。

水田11003

島畑11003と道路状遺構11001との間の水田で、東西幅は8.4m、南北幅は18.0mを測る。上面の標高はT.P.+7.9m~8.1mを測り、水田11002よりも高い。水田内で畝8条(畝11025~畝11032)を検出した。作土層からは近世までの土器が出土している。

畝(畝)

畝11001~畝11032

畝は、3調査区西部で検出した水田11001で4条(畝11001~畝11004)、3調査区中央部から4調査区西部で検出した水田11002で20条(畝11005~畝11024)、4調査区の中央部で検出した水田11003で8条(畝11025~畝11032)の総数32条を検出した。これらの畝群は、概ね、南北長18m以上、幅0.6~0.9mの規模を有す。断面形状は低い蒲鉾形を呈し、高さは0.1~0.5mを測る。各畝は約0.4mの間隔を空けて南北方向に並行に伸びる。これら畝溝群は、秋から冬に水田を畑として利用する二毛作に関連する畝立て溝と推定される。

溝 (SD)

S D11001~S D11021

3調査区で検出されたSD11001~SD11004は、島畑11002上面に構築された南北方向に直線的に伸びる小溝群である。各溝の規模は、概ね南北長18m以上、幅0.2~0.5mである。断面形状は浅い逆蒲鉾形を呈し、深さは0.03~0.09mを測る。埋土は灰色砂質シルトの単一層である。牛馬耕による犂溝と推定される。4調査区で検出したSD11005~SD11018は、島畑11003の上面で検出した溝群で、島畑の構築方向である南北方向に沿って伸びている。規模は南北長0.65~11.8m、幅0.2~2.0m、深さ0.03~0.06mを測る。埋土は細粒砂を含むシルトを主体としている。SD11020は道路状遺構11001に付随する側溝の性格を持つもので、規模は幅1.2~2.0m、深さ約0.3mを測る。断面形状は逆台形に近く、底部には樹皮の敷かれている部分がみられる。埋土は下部が褐灰色粘土質シルト~極細粒砂の互層、上部は竜華操車場構築時の客土が堆積しており、竜華操車場の整地直前(昭和10年代前半)まで機能を果たしていたことがわかる。

道路状遺構(道路状遺構)

道路状遺構11001

4調査区東部の $WI-12-4\sim6$ B地区で検出した。直線的に伸びる道路状遺構で、方向は座標北より東に約15度振っており、島畑11003・島畑11004とはわずかに異なっている。調査時の上面の標高は約T.P.+8.1mを測るが、機械掘削時に上部を10cm程度削平しており、本来は約T.P.+8.2mであった。規模は検出長約18.1m、上幅約4.3m、下幅約5.0mで、側溝である SD11020の底部からの高さは $0.2\sim0.4$ mを測る。盛土によって構築されており、上面は非常に固く叩き締められている。盛土からは近代までの土器が出土している。この道路は竜華操車場の設置で寸断された久宝寺村と竜華町を結ぶ道路と考えられ、北側の続きが(財)大阪府文化財調査研究センターにより平成 $8\cdot9$ 年度($1996\cdot1997$ 年)に実施された96-1トレンチ、97-1トレンチでも検出されており、それらによれば初現は鎌倉時代に遡るものとされている。

第1-2面(平安~近世)(第9・10図、図版三~九)

4調査区~8調査区で検出した。T.P.+8.1~7.6mの第Ⅰ層中および第Ⅱ層上面で捉えた遺構面である。一部、平安時代後期の遺構を除けば、大半が中世末期以降の農耕に関連した遺構群が中心で、島畑上面が畑作、島畑ないしは畦畔で区画された部分が水田として利用されていたようである。6調査区・8調査区で検出した平安時代後期の遺構については、一部を除けば大半が島畑部分から検出されている。本調査区で検出された島畑については、周辺を削り下げた土を盛ることにより構築された島畑であるため、島畑部分の平安時代後期以降の遺構は削平されず残されたものと推定される。

検出された遺構には、島畑 7 基 (島畑12001〜島畑12007)、水田 4 筆 (水田12001〜水田12004)、 畦畔 3 条 (畦畔12001〜畦畔12003)、道路状遺構 2 条 (道路状遺構12001・道路状遺構12002)、井戸 4 基 (SE12001〜SE12004)、土坑22基 (SK12001〜SK12022)、落ち込み 2 箇所 (SO12001・SO12002)、溝79条 (SD12001〜SD12079)、小穴74個 (SP12001〜SP12074) がある。

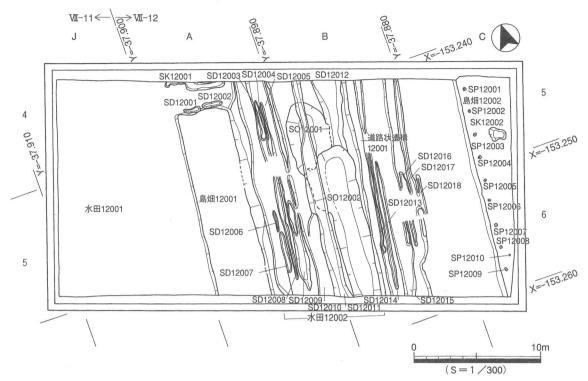
島畑(島畑)

島畑12001

4 調査区西部の $M-12-4\sim6$ A・B地区で検出した。南一北に伸びるもので、水田12001と水田12002を区画している。検出長15.8m、幅5.3m、高さ0.1mを測る。上面の標高は約T.P.+7.9mで水田12002との標高差は0.4mを測る。作土層は鉄分を多く含み土壌化が著しくよく締まる。上面では溝等の耕作に関連する遺構は認められない。作土からは近世までの土器が出土している。

島畑12002 (図版七)

4 調査区東部の $WI-12-5 \cdot 6$ 地区で検出した。東部は調査区外に至る。南ー北に伸びるもので、西側に水田12002が位置している。検出長18.3m、幅4.5m、高さ0.2m前後を測る。上面の標高は約T.P.+8.2mで水田12002との標高差は0.6mを測る。作土層は島畑12001と同様よく締まる。作土からは近世までの土器が出土している他、混入品ではあるが、上面から古墳時代中期の滑石製有孔円板の小片が出土している。上面では土坑(SK12002)・小穴($SP12001 \sim SP12010$)が検出された。小穴群は島畑西辺に沿って直線的に並ぶもので杭列と考えられる。小穴の規模は径約0.2m、深さ $0.07\sim0.24m$ を測り、約1.8m間隔で並んでいる。



第9図 第1-2面平面図 (24-4調査区)

島畑12003

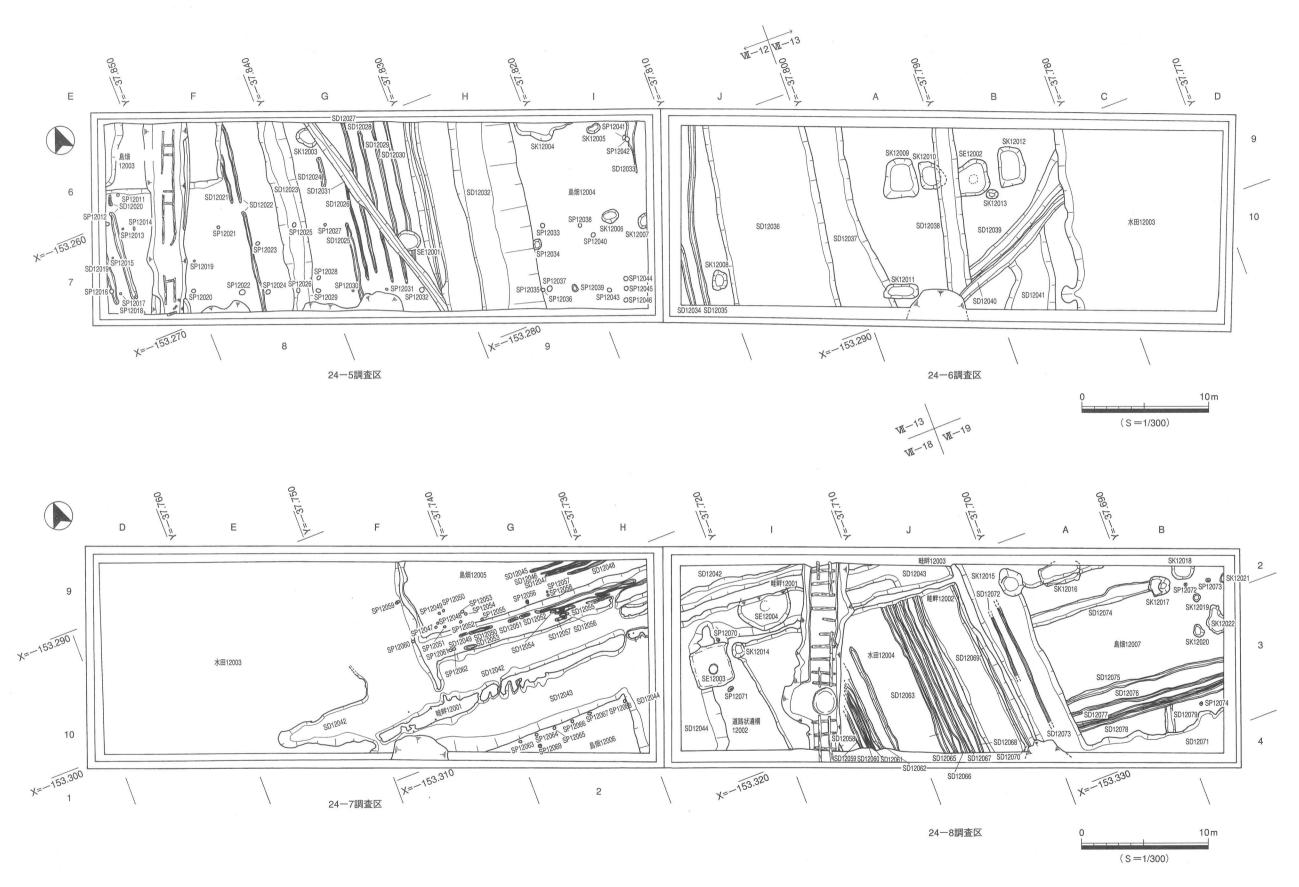
5調査区北西隅のWI-12-6 E・F地区で検出した。北部および西部が調査区外に至る他、検出部分のほぼ中央部に南北方向に管路敷設による撹乱を受けている。検出部分で東西幅9.2m、南北幅5.3m、高さ0.2m前後を測る。構築方法は第II層上面から砂質シルトを主体とする4層が盛られている。

島畑12004

5調査区の東部から 6 調査区の西部の $WI-12-7\sim9$ H·I 地区で検出した。西側をSD12032、東側をSD12036に区画されている。検出部分で東西幅15.0m、南北幅15.0mを測る。砂質シルトを主体とする 2 層が盛られている。付随する 2 条の溝底との高低差は SD12032が0.8m、SD12036が0.7mを測る。上面からは土坑(SK12004~SK12007)、溝(SD12033)、小穴(SP12033~SP12046)が検出されており、近代の構築物に伴う小穴群以外の遺構は農耕に関連したものと考えられる。

島畑12005 (図版五)

7調査区の北東端のW-13-10F~H、W-18-1F~H地区で検出した。東-西に伸びる島畑の南西隅を検出したが、その他は調査区外に伸びており全容は不明である。南端は幅1.5m程度のテラス状となって東-西に伸びている。検出部分の下幅で東西長20.0m、南北長8.7m、高さ0.15mを測る。断面形状は、テラス部分を除けば台形状をしている。作土と盛土は3~4層に分かれ、細粒砂~粗粒砂混じりの粘土質シルトが水平方向に堆積している。上面で、溝4条(SD12045~SD12048)、小穴12個(SP12047~SP12058)を検出した。島畑12005の下端とSD12042間のテラス状部分からは、溝9条(SD12049~SD12057)、小穴2個(SP12061・SP12062)を検出している。なお、西側に付随する水田12003との高低差は0.7mを測る。



第10図 第1-2面平面図 (24-5調査区~24-8調査区)

島畑12006

7調査区南東端のWI-18-1F、2F・G地区で検出した。北側をSD12043、東側をSD12044に区画されている。東一西に伸びており、平面形状は方形で北東隅のみ検出したが、その他は、調査区外に伸びている。検出部分の下幅で東西長15.5m、南北長4.5m、高さ0.20mを測る。断面形状は、島畑12005の断面形状よりもやや急で傾斜角25度の台形状を呈している。作土と盛土は、2~3層に分かれ、細粒砂~粗粒砂混じりの粘土質シルトの水平堆積である。上面で小穴を7個(SP12063~SP12069)検出しており、SP12069を除く小穴は北端部で列状に並んでいる。

島畑12007

8調査区東部のWI-19-2・3 A・B地区で検出した。上面は機械掘削時に削平されている。 北部・西部および南部がSD12071に区画されている。平面形状は方形とみられ、北西、南西隅 を確認したが東側は調査区外に至る。検出部分の下幅で東西長16.0m、南北長14.0m、高さ約0.4 mを測る。断面形状は、ゆるい台形を呈しており、盛土により構築されている。上面で、土坑8基 (SK12015~SK12022)、溝6条(SD12074~SD12079)、小穴3個(SP12072~SP12074) を確認している。盛土内より土師器、須恵器、瓦器、瓦質土器、平瓦、磁器が多く出土した。

水田12001

4 調査区の西部の $W-11-4\sim6$ J、 $W-12-4\sim6$ A地区で検出した。**島畑12001**の西側に広がるもので、検出部分で東西幅11m、南北幅18mを測る。水田面の標高は $T.P.+7.5\sim7.6$ mを測る。作土は褐灰色極細粒砂混シルトである。作土中からは近世までの土器が出土している。なお、島畑12001の北部で島畑が切れる部分があり、その部分に $SD12001\cdot SD12002$ が存在しており、これらの遺構は水田12001に関連した灌漑施設の一部と考えられる。

水田12002

4 調査区の $W-12-4\sim6$ A~C地区で検出した。島畑12001と道路状遺構12001の間に存在するもので、検出部分で東西幅 8 m、南北幅18mを測る。上面の標高は $T.P.+7.5\sim7.7$ mを測る。作土中からは近世までの土器が出土している。上面では耕作に関連すると考えられる平行する溝群($SD12003\sim SD12012$)、落ち込み 2 基($SO12001\cdot SO12002$)が検出された。溝群からは近世までの土器が出土している。 $SO12001\cdot SO12002$ は同一面で検出したが、水田構築以前の遺構である。

水田12003

6 調査区東部から 7 調査区の中央部にかけての $\Pi-13-9\sim11$ B~F地区で検出した。東側で島畑12005に区画され一部 SD12042に切られている他、西側では SD12039・SD12040を切っている。東西幅40.0m、南北幅15.5mを測る。水田面の標高は $T.P.+7.7\sim7.8$ mである。作土はオリーブ灰色極細粒砂混砂質シルトである。近世時期の陶磁器片が少量出土している。

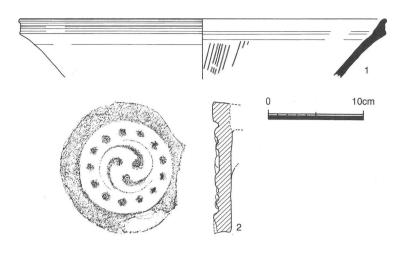
水田12004

8調査区の $W-18-2\cdot 3$ H~ J 地区で検出した。東を**畦畔12003**、西を**道路状遺構12002**、北を**畦畔12002**に区画される水田で、南部は調査区外に至る他、西部では管路敷設の際に削平を受けている。検出部分で東西幅17.0m、南北幅12.0mで上面の標高は $T.P.+7.7\sim7.55$ mを測るもので、西から東に向かって低くなっている。作土は灰色砂質シルトである。上面では犂溝と考えられる小溝12条($SD12058\sim SD12068\cdot SD12070$)とやや幅の広いSD12069を検出した。

畦畔 (畦畔)

畦畔12001 (第11図)

7調査区中央部から8調査 区北部で検出した。東一西に伸びており島畑12005・島畑 12006に並行して造られている。検出部分で、東西長42.0 m、南北幅2.5m(最大)、高さ0.2mを測る。盛土で構築されており、断面形状は、ゆるい台形を呈する。畦畔の3箇所で、SD12042・SD12043



第11図 畦畔12001出土遺物実測図

を結ぶ水口状の施設が認められた。畦畔内から土師器、国産陶磁器(肥前焼・信楽焼)、屋瓦(軒丸瓦-巴文・平瓦)の小片が出土した。うち2点(1・2)を図化した。1は陶器摺鉢である。胎土中に大粒の長石粒が散見されることから信楽焼と推定される。2は三巴文軒丸瓦である。巴は巴頭から巴尾にかけて幅を漸減して約半周する。珠文は大粒で隆起が大きく全体で13個配されている。外縁は幅広で低い特徴をもっている。構築時期は、江戸時代中期以降が推定される。

畦畔12002

8調査区のWI-18-2H~J地区で検出した。東一西に伸びて西で**道路状遺構12002**、東で畦畔12003に取り付く。SD12043と水田12004を区画している。検出部分で、長さ18.5m、幅0.2~0.6m、高さ0.15m前後を測る。断面形状は台形をしており、盛土で構築されている。遺物は土師器、須恵器、瓦器、瓦質土器、平瓦、国産陶磁器の小片が出土した。

畦畔12003

8調査区の $W-18-2\cdot3$ J 地区で検出した。南一北に伸びるもので、**畦畔12002**と接続している。水田12004と S D12071を区画している。検出部分で、長さ15.3m、幅 $0.2\sim0.8m$ 、高さ0.15m前後を測る。断面形状は台形をしており、盛土で構築されている。**畦畔12003**内より土師器、須恵器、瓦器、瓦質土器、平瓦、国産陶磁器の小片が出土した。

道路状遺構 (道路状遺構)

道路状遺構12001

4調査区の東部で検出した。構築に際しては砂礫層を削り出しており、その上面に粘土・シルト等を盛土して叩き締めている。規模は検出長17.6m、幅 $0.3\sim0.7m$ 、高さ0.15m、上面の標高はT.P.+7.8mを測る。規模からみて『あぜ道』のような小道であったと考えられる。

道路状遺構12002

8調査区南西端の〒-18-1・2 H地区で検出した。道路状遺構の北端は、S E 12003・S K 12014により一部切られている。道路状遺構は主軸方向が磁北方向を向いており、南北方向に伸びて北端で畦畔12002につながっている。検出長10.4m、幅4.0m、高さ0.15mを測る。道路状遺構は、盛土で構築されている。道路状遺構内より土師器、須恵器、瓦質土器、平瓦、国産陶磁器の小片が出土した。

井戸 (SE)

S E 12001

5調査区のWI-12-7・8 G地区で検出した。桶枠+瓦枠を井戸側に持つもので、西端がSD12031に切られ、SD12030を切っている。掘方は円形状で、長径1.5m、短径1.4m、深さ2.18m以上を測る。井戸側は下部が径0.73m、高さ0.9mを測る桶の上に、縦28.0cm、横25.6cm、厚さ2.5cmを測る井戸側用瓦7枚を使用して径0.74mを測る上部井戸側を形成している。調査時点では2段分が確認されたが、本来は4段であった可能性が高い。掘方内の埋土は3層から成る。井戸側内の埋土は青灰色粘土質シルトの単一層である。遺物は肥前系磁器碗、井戸側用瓦が出土している。構築時期は江戸時代中期(18世紀前半)と考えられる。

S E 12002

6調査区のWI-13-9 B地区で検出した。西端掘方ラインが S D12038によって切られている。不整円形を呈するもので、検出部分で、東西幅2.3m、南北幅3.0m、深さ0.33mを測る。検出面で、直径約1.0mを測る井戸側の痕跡を示す土層を確認した。掘方内の埋土は2層からなる。井戸側内の埋土は4層である。遺物は、土師器、須恵器の小片が少量出土した。

S E 12003 (写真 2、図版七・八)

8調査区のWI-18-2 H地区で検出した。客土を取り除いた段階で瓦枠の上端を確認している。 掘方の平面形状は、方形で一辺3.0m前後、深さ2.0m以上を測る。井戸側は掘方のほぼ中央に設置されており、直径0.8mの瓦枠4段と桶枠2段以上で構築されている。瓦枠は、いわゆる井戸側

用瓦(縦28cm・横25cm・厚さ4cm)を9枚円形に連ねて瓦枠1段分としている。桶枠は、板材(縦90cm・横14cm・厚さ3cm)を27枚桶状に組み合わせて外側2箇所に箍をめぐらしている。掘方の断面形状は、垂直に近い角度に掘られており、埋土は9層から成る。井戸枠内の埋土は、細粒砂混じりの粘土質シルトで幅0.15m前後(最大)の粘土ブロックを多く含む。遺物は、掘方内埋土から土師器、須恵器、瓦質土器、平瓦、国産陶磁器(肥前焼)が出土した。井戸枠内埋土から土師器、国産陶磁器(肥前焼)、板材が出土した。構築時期は江戸時代中期(18世紀前半)と推定される。

S E 12004 (写真 3、図版七)

8調査区のWI-18-1 I地区で検出した。掘方の 北部上面には**畦畔12001**が構築されている。円形を 呈するもので、検出部分で長径4.5m、短径4.3m、 深さ1.35mを測る。断面形状は、逆台形を呈してい る。埋土は、7層から成り極細粒砂を多く含んだ粘 土質シルトを主体としている。井戸側の構造は、掘 方の中央で直径0.8mを測る箍の一部が確認されて



写真 2 8調査区 S E 12003検出状況(南から)



写真3 8調査区 S E 12004検出状況(東から)

いることから、井戸側に桶枠が使用されたようでSE12003と同じ構造をもつとみられる。掘方 内の埋土から土師器、須恵器、屋瓦(軒丸瓦・平瓦)、国産陶磁器(唐津焼・肥前焼)、土製品 (土錘)、井戸側用瓦が出土した。構築時期は江戸時代中期(18世紀前半)が推定される。

土坑(SK)

S K 12001

4調査区北部のⅢ-12-4 A地区で検出した。東-西に溝状に伸びるもので、検出部分で東西 幅4.7m、南北幅0.66m、深さ0.2mを測る。埋土は3層から成る。遺物は出土していない。

S K 12002

4調査区東部のⅢ-12-5 C地区で検出した。島畑12002の上面で検出したもので、不定形を 呈し、東西幅1.2m、南北幅1.1m、深さ0.06mを測る。埋土はにぶい黄褐色小礫混粘土質シルト の単一層である。遺物は出土していない。島畑上面で検出されたものであるため、農耕に関連し たものと推定される。

S K 12003

5調査区のW-12-6・7G地区で検出した。東部の一部がSD12031に切られているが、掘 方の形状は楕円形を呈するものと推定される。検出部分で長径1.65m、短径1.1m、深さ0.15m を測る。埋土は3層から成る。遺物は出土していない。

S K 12004

5調査区のⅢ-12-7 H・Ⅰ地区で検出した。北部が調査区外に至る。検出部分では、東西方 向に長い不整形を呈するもので、東西幅4.89m、南北幅1.5m、深さ0.23mを測る。埋土は3層 から成る。遺物は土師器、須恵器の小片が極少量出土している。

S K 12005

5調査区のWI-12-7 I地区で検出した。東-西に長軸を持つ不整楕円形で、長径1.1m、短 径0.9m、深さ0.17mを測る。埋土は緑灰色砂質シルトの単一層である。遺物は出土していない。

S K 12006

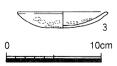
5調査区のⅦ-12-8Ⅰ地区で検出した。東-西に長軸を持つ楕円形を呈するもので、長径 1.4m、短径1.1m、深さ1.7mを測る。埋土は3層から成る。遺物は出土していない。

S K 12007

5調査区のW-12-8Ⅰ地区で検出した。東部が調査区外に至る。検出部分で東西幅0.7m、 南北幅1.2m、深さ0.06mを測る。埋土は不均質な灰黄褐色砂質シルトの単一層である。遺物は 土師器、須恵器の小片が極少量出土しているが時期を明確に出来たものはない。

S K 12008

6調査区のWI-12-9 I・J地区で検出した。島畑12004の盛土を約0.2m取り除いた状況で検 出した。南-北に長軸を持つ楕円形で、長径1.5m、短径1.1m、深さ0.12 mを測る。埋土は砂質シルトを主体とする2層がレンズ状に堆積している。 遺物は土師器、瓦器椀、中国製青磁碗の小片が出土した。構築時期は中世 後半が推定される。



第12図 SK12009 出土遺物実測図

SK12009 (第12図、図版九)

6調査区のⅦ-13-8・9A地区で検出した。不整方形を呈するもので、

長辺3.1m、短辺2.1m、深さ0.27mを測る。埋土はほぼ水平方向に堆積する5層から成る。遺物は土師器、須恵器、黒色土器(A類)が出土した。そのなかで土師器小皿1点(3)を図化した。3は1/2程度が残存している。口径9.3cm、器高1.7cmを測る。平安時代後期(12世紀前半~中葉)に比定されよう。

S K 12010

6 調査区の $W-13-8\cdot 9$ A地区で検出した。東側はS D12038に切られている。不定形を呈するもので、検出部分で東西幅2.1m、南北幅2.3m、深さ0.38mを測る。埋土は5 層から成る。遺物は土師器、須恵器の小片が少量出土した。

S K 12011

6 調査区のW-13-9 A地区で検出した。SD12037を切っている。東一西に長軸を持つ隅丸方形で、長辺2.8m、短辺1.1m、深さ0.21mを測る。埋土は2層の水平堆積である。遺物は土師器、須恵器の小片が多く出土した。

SK12012 (図版九)

6 調査区のW-13-9 B地区で検出した。南一北にやや長い隅丸方形を呈するもので、長辺 3.0m、短辺2.0m、深さ0.19mを測る。埋土は2 層が水平に堆積している。遺物は土師器、須恵器、黒色土器、平瓦が出土した。

S K 12013

6 調査区のWI-13-9 B地区で検出した。楕円形を呈するもので、長径0.9m、短径0.7m、深さ0.18mを測る。埋土は砂質シルトを主体とする 2 層が水平に堆積している。遺物は土師器の小片が極少量出土している。

S K 12014

8 調査区西部のWI-18-2 H地区で検出した。水田12004の北西隅に位置し**道路状遺構12002**および**畦畔12002**を切っている。不整円形で長径1.2m、短径1.0m、深さ0.42mを測る。埋土は粘土質シルトを主体とする 3 層から成る。遺物は出土していない。

S K 12015~S K 12022 (写真 4)

8調査区の東部で検出した島畑12007上面とその周辺で合計8基検出している。土坑の埋土は、粗粒砂混じりの粘土質シルトを中心に1~2層が断面形状に沿ってレンズ状に堆積している。

遺物は土師器、須恵器、瓦器、瓦質土器等が出土している。構築時期は概ね中世後半~近世に比定される。なお、桶の箍が一部残っていたSK12015については肥溜に利用されていた可能性が高い。SK12015や島畑12007を切るSK12016については近世段階に構築された農耕に関連した遺構であった可能性が高い。各土坑の法量・詳細については、次頁の第3表にまとめた。

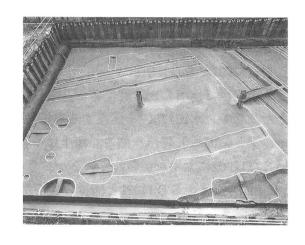


写真 4 8 調査区 S K 12016~ S K 12022検出 状況(北から)

遺構番号	地 区	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	平面形状	出土遺物			
S K 12015	VII - 19 - 2A	2.3	1.8	0.48	不定形	須恵器、瓦			
S K 12016	"	3.3	1.6	0.40	方形	土師器、須恵器、瓦質			
S K 12017	VII - 19 - 2B	1.8	1.4	0.17	不定形	土師器			
S K 12018	"	1.8	1.0	0.31	楕円形	土師器、須恵器、瓦			
S K 12019	"	0.6	0.5	0.04	円形	土師器			
S K 12020	VII −19 − 3 B	1.0	0.6	0.10	不定形				
S K 12021	VII - 19 - 2B	0.8	0.4	0.03	"				
S K 12022	M - 19 - 3B	2.2	0.8	0.10	"	土師器、瓦器			

第3表 8調査区 第1-2面 SK12015~SK12022法量表

落ち込み (SO)

S O 12001 · S O 12002 (写真 5、第13図)

4調査区の中央部で検出した。SO12001は南一北に長軸を持つ楕円形を呈し、長径5.9m、短径3.3m、深さ0.8mを測る。SO12002は、一部SD12012の南部を切り南一北に溝状に伸びる。検出長12.5m、幅2.5m、深さ0.8mを測る。いずれも断面逆台形を呈し、埋土はシルトのブロックを多量に含む砂層を基調とするもので、掘削後の比較的早い段階に埋め戻しが実施されたことが窺われる。近世までの土器の他、SO12001からは中国製白磁小鉢、

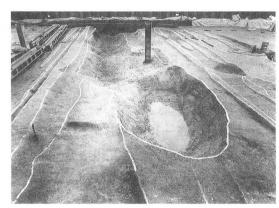


写真 5 4 調査区 S O12001・S O12002検出状況(北から)

SO12002からは銅製蓋が出土している。遺物は1点(4)を図化した。 4はSO12001から出土した中国製白磁小鉢である。口縁部の一部を欠く以外は完存している。口径6.8cm、器高4.0cm、底径3.0cmを測る。体部から口縁部にかけて大きくラッパ状に開く器形で、高台は低く端部は尖り気味である。釉は灰白色で全体に薄く施釉されているが、高台の内外面は釉が欠き取られている。室町時代後期(16世紀代)の所産と考えられる。



第13図 S O 12001 出土遺物実測図

溝 (SD)

S D12001~S D12018

4 調査区で検出した溝群である。 $SD12003 \sim SD12012$ については、水田12002の下位面で捉えた犂溝で、水田12002を区画する島畑12001の構築方向に沿って開削されている。幅 $0.2 \sim 2.26$ m、深さ $0.05 \sim 0.43$ mを測る。埋土は細粒砂混じりの粘土質シルトの単一層である。SD12012 はSD12002に大半が切られているがおそらく道路状遺構12001の西側に付随した溝にあたり、第1-1 面で捉えたSD11020と同様の性格が想定される。 $SD12014 \sim SD12018$ は耕作に関連する犂溝と考えられる。

S D12019~ S D12033

5 調査区で検出した溝群である。調査区の西部から中央部で検出した $SD12019 \sim SD12022$ および $SD12024 \sim SD12030$ は、幅 $0.22 \sim 0.5$ m、深さ $0.06 \sim 0.22$ mを測る。埋土は灰黄褐色砂質シルトである。これらの溝群は、方向性や形状が類似しており、一筆耕地内における牛馬耕による

第4表	5調査区	第1-2面	S D12019~S D12033法量表

遺構番号	地区	全長(検出長)(m)	幅 (m)	深さ(m)	断面形状	出土遺物
S D 12019						
	VII −12−7E	2.50	0.50	0.06	U字形	土師器、須恵器、瓦器、国産磁器
S D 12020	VII −12−6 · 7E	8.40	0.50	0.06	11	土師器、瓦器椀
S D 12021	VII −12−6 · 7F	3.60	0.22	0.22	"	
S D 12022	VII −12−6∼8F	15.50	0.24	0.05	"	土師器、須恵器、瓦器椀
S D 12023	$VII - 12 - 6 \sim 8F, 6.7G$	14.90	2.08	0.43	"	土師器、須恵器、平瓦
S D 12024	VII -12-7G	2.40	0.30	0.05	"	
S D 12025	VII -12-7·8G	6.16	0.35	0.08	11	
S D 12026	"	7.84	0.22	0.06	半円形	
S D 12027	"	12.25	0.25	0.07	不定形	
S D 12028	"	12.40	0.30	0.06	半円形	土師器、須恵器、瓦器椀
S D 12029	"	13.15	0.30	0.06	U字形	
S D 12030	"	11.25	0.25	0.04	11	
S D 12031	VII-12-6∼8G	18.00	0.80	0.35	11	土師器、須恵器、国産磁器
S D 12032	VII-12-7⋅8G⋅H	15.20	8.58	0.85	"	土師器、須恵器、瓦器椀
S D 12033	WI-12-7⋅8I	4.20	0.50	0.09	不定形	土師器、須恵器、サヌカイト

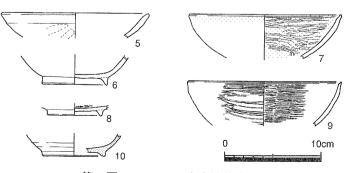
犂溝と考えられる。SD12023は前述の溝群と方向が同じであるため、一筆耕地を区画する溝と考えられる。調査区の東部で検出したSD12032は幅8.58m、深さ0.85mを測る規模の大きいもので、東側の島畑12004に付随する関係から溝の機能の他、水田の役割を果たした可能性が高い。SD12033については、島畑12004の上面で検出されているため、農耕に関連した性格が推定される。調査区の中央部で検出したSD12031は南東一北西に伸びるもので、SD12026~SD12030を切っており、一筆耕地の区画概念が消失した後のものと考えられる。構築時期は概ね、近世~近代に比定されよう。以下、各溝の数値、断面形状、出土遺物については、第4表で明示する。

S D12034 (第14図)

6調査区の $\Pi-12-8\cdot 9$ I 地区で検出した。南一北に伸びて、調査区外に至る。検出長5.1 m、幅0.5m、深さ0.13mを測る。埋土は、灰色極粗粒砂混じりシルト質粘土の単一層である。遺物は、土師器、須恵器、黒色土器(A類)、瓦器、緑釉陶器が出土した。そのうち 6 点(5~10)を図化した。内訳は土師器中 Π 1点(5)・椀 1点(6)、黒色土器 A 類椀 1点(7)、瓦器椀 2点(8・9)、緑釉陶器椀 1点(10)である。

5は土師器中皿で口縁部の1/4程度が残存している。精良な胎土が使用されており、色調は灰白色である。6は土師器椀で高台部は完存している。高台径7.0cm、高台高0.8cmを測る。7は黒色土器A類椀である。口縁端部内面に沈線が巡る。内面の炭素付着は良好で一部口縁外面におよぶ。体部内面のヘラミガキは密であるが、外面は風化のため調整が不明瞭である。11世紀中~後半の所産と推定される。8は瓦器椀の底部である。高台部は完存しており、高台径5.7cm、高台高

0.5cmを測る。9は大和型に分類される瓦器椀である。口縁部の1/8程度が残存する小片である。口縁端部内側に沈線が巡る他、体部外面は密なヘラミガキで分割されている。川越編年の第Ⅱ段階A型式(12世紀前半)に比定される。10は緑釉陶器椀の小片である。貼り付け高台の端面



第14図 S D 12034出土遺物実測図

の内端に凹線が1条巡ることや、底部外面に回転糸切り痕が残る等の特徴から近江系の緑釉陶器 椀と推定される。胎土は硬質でやや青味を帯びた灰色である。釉薬は刷毛塗りされており、濃緑色に発色している。10世紀後半の所産と考えられる。出土遺物には時期幅があるが、最も新しい遺物の特徴から平安時代後期前半(12世紀前半)迄はその機能を果たしていたようである。

S D 1203F

6 調査区の $W-12-7\sim9$ I・J地区で検出した。南一北に伸びて、調査区外に至る。検出長 14.5m、幅 $0.4\sim0.6$ m、深さ0.12mを測る。埋土はSD12034と同じである。遺物は土師器、須恵器、平瓦が出土した。

S D 12036

6調査区のW-12-8・9 J、W-13-8 A地区で検出した。南-北に伸びるもので南北端が調査区外に至る。島畑12004の東側を区画するもので、検出長14.7m、幅8.4m、深さ0.2mを測る。埋土は5層で、水平方向に堆積しており、この部分の上部が水田として利用されていた可能性が高い。遺物は弥生土器、土師器、須恵器、国産陶器(備前焼)、平瓦、銭貨(銅銭−種類不明)が出土した。

S D 12037

6調査区の $W-12-8\cdot9$ J、 $W-13-8\cdot9$ A地区で検出した。南一北に伸びるもので、西肩はSD12036に切られている。検出長15.0m、幅 $2.5\sim4.4$ m、深さ0.23mを測る。埋土は、灰オリーブ色極粗粒砂混じり砂質シルトの単一層である。遺物は土師器、須恵器の小片が少量出土したが、時期を明確に出来たものはない。

S D 12038

6調査区の $\Pi-13-8\cdot 9$ A・B地区で検出した。SD12040に切られている。南-北に伸びている。断面観察において、本遺構は第 I 層上面より切り込まれているのを確認した。検出長 13.5 m、幅2.8 m、深さ0.3 mを測る。埋土は3 層で、水平方向に堆積している。遺物は土師器、須恵器、瓦器、黒色土器の小片が出土しているが、構築面からみて近世のものと推定される。

S D 12039

6調査区の $W-13-9\cdot 10$ A・B地区で検出した。 $SD12038\cdot 水田12003$ により切られている。 北東-南西に伸びている。検出長11.7m、幅 $0.9\sim 2.2$ m、深さ $0.21\sim 0.33$ mを測る。埋土は灰黄褐色粗粒砂混じり砂質シルトの単一層である。遺物は土師器、須恵器、瓦器、瓦質土器、平瓦が出土した。遺構の構築時期は、中世末期頃と考えられる。

S D 12040

6 調査区の $W-13-9\cdot 10$ A・B地区で検出した。 $SD12038\cdot SD12041$ を切っている。SD12039と同じ方向に伸びている。検出長11.5m、幅 $0.6\sim 1.0$ m、深さ0.12mを測る。埋土はSD12039と同じである。遺物は、土師器、須恵器、瓦質土器が少量出土したが、本遺構により切られる SD12041から近世前半 (17世紀代)の遺物が出土していることから構築時期はそれ以降である。

S D 12041 (第15図)

6調査区の $W-13-9\cdot 10$ B地区で検出した。SD12040に切られている。南ー北に伸びており、検出長6.7m、幅 $3.1\sim 4.0$ m、深さ0.44mを測る。埋土は7層から成る。遺物は土師器、須恵器、平瓦、国産磁器(肥前焼)、土人形が出土した。土人形1点(11)を図化した。11は福助

の坐像で、裃の肩衣と袂の一部が欠損する以外は完存している。高さ4.9cm、前幅3.4cm、横幅2.3cmを測る。意匠の特徴としては、頭部の占める比率が大きく、特に前頭部については前方に張り出す形に誇張した表現が行われている。型抜きによるバリ状の痕跡が側面・裏面に残る他、裏面に焼成前に穿たれた孔がある。遺構の構築時期は、近世前半(17世紀代)と推定される。

0 5cm (S = 1/2)

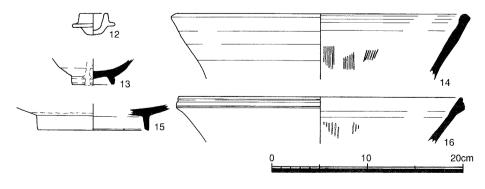
第15図 S D 12041出土遺物実測図

S D 12042 (第16図)

7調査区南西部から8調査区北東部にかけて、東一西に伸びる。島畑12005と畦畔12001間に位置している。検出長44.4m、幅3.5m、深さ0.2mを測る。断面形状は、逆台形を呈している。埋土は2層で粗粒砂混じりの粘土質シルトである。グライ化が著しい。遺物は、土師器、須恵器、瓦質土器、屋瓦(丸瓦・平瓦)、国産陶磁器(備前焼・肥前焼・唐津焼)が多量に出土した。溝として捉えているが、水田耕作がおこなわれていた可能性がある。遺物は3点(12~14)を図化した。12はいわゆる土人形に分類されるミニチュアの茶釜である。口径3.0cm、器高2.3cmを測る。13は唐津焼の碗の小片である。釉は光沢のある褐灰色の鉄釉で、体部外面の下位以下を除く部分に施釉している。14は丹波焼の摺鉢の小片である。遺構の構築時期は、近世前半(17世紀代)と推定される。

S D 12043 (第16図)

7調査区のⅢ-18-1 Eから 8調査区の 2 J地区で検出した。S D12042と並行しており、畦畔12001と島畑12006間に位置している。検出長24.0m、幅4.0~8.0m、深さ0.25mを測る。断面形状は、皿形を呈している。埋土はS D12042とよく似ており、水平方向に粗粒砂混じりの粘土質シルトが 2 層堆積している。グライ化が著しい。S D12043も S D12042と同じく水田耕作が行われた可能性がある。遺物は土師器、須恵器、黒色土器(A 類)、瓦質土器、屋瓦(丸瓦・平瓦)、国産陶磁器(備前焼・肥前焼・唐津焼・丹波焼)が多量に出土した。2点(15・16)を図化した。15は高い高台を有する京焼風陶器の大型鉢の小片である。釉は黄灰色で光沢があり細かい貫入が入る。見込み部分に発色の悪い呉須で模様が描かれているが、小片のため意匠は不明である。16は内傾する口縁外面に 1 条の沈線が巡る丹波焼摺鉢である。遺構の構築時期は、近世前半(17世



第16図 SD12042 (12~14)、SD12043 (15·16) 出土遺物実測図

紀代)と推定される。

S D 12044

7調査区の南東部から8調査区の南西部で検出した。島畑12006と道路状遺構12002に区画されて南ー北に伸びるもので、北部でSD12043と合流している。 検出長6.5m、幅7.0mで、島畑12006との高低差は0.42mを測る。

S D 12045~S D 12057 (写真 6)

7調査区で検出した。島畑12005上面と島畑12005から南に伸びるテラス状の上面において合計13条検出した。東一西に直線的に伸びており、農耕に伴う小溝とみられる。溝の埋土は細粒砂混じり粘土質シルトの単一層が多い。各溝の法量は、下記の第5表にまとめた。

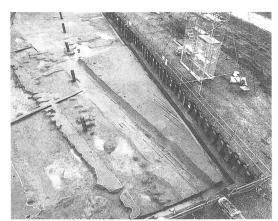


写真 6 7 調査区 S D12045~S D12057 検出状況(東から)

第5表 7調査区 第1-2面 SD12045~SD12057法量表

遺構番号	地区	全長 (検出長) (m)	幅(最大)(m)	深さ (m)	断面形状		出土遺	量物	
S D 12045	VII -13-10G	2.9	0.20	0.07	皿形	土師器、	須恵器、	瓦器、	陶磁器
S D 12046	"	3.6	0.15	0.05	U字形		"		
S D 12047	VII-13-10G⋅H	3.9	0.15	0.05	"				
S D 12048	VII −18−1G•H	3.2	0.30	0.05	"				
S D 12049	WI-18-1F	0.6	0.20	0.05	"				
S D 12050	VII −18− 1 F • G	2.0	0.30	0.07	"				
S D 12051	VII −18− 1 G	0.8	0.20	0.07	11				
S D 12052	"	0.9	0.20	0.05	11				
S D 12053	WI-18-1F	1.0	0.30	0.10	"				
S D 12054	VII −18− 1 G	0.4	0.15	0.10	"				
S D 12055	"	1.8	0.40	0.10	"				
S D 12056	"	0.8	0.25	0.10	"	if.			
S D 12057	"	0.9	0.20	0.08	"				

S D12058~S D12079(写真7)

SD12058~SD12070は、8調査区で検出した水田12004の下位面で検出したもので、南一北に伸びている。畦畔12003に付随するSD12069以外は犂溝と推定される。SD12071は島畑12007を区画する溝。SD12072・SD12073はSD12071の底部で検出された小溝。SD12074~SD12079は島畑12007上で検出した。SD12079が南一北に伸びる以外は東一西に伸びる溝群で、農耕に関連したものと考えられる。各溝の法量は、次頁の第6表にまとめた。

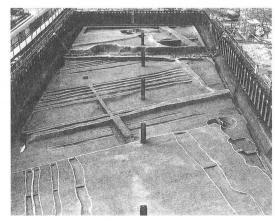


写真7 8調査区 SD12058~SD12079 検出状況(東から)

第6表 8調査区 第1-2面 SD12058~SD12079法量表

遺構番号	地区	全長(検出長)(m)	幅(最大)(m)	深さ(m)	断面形状	出土遺物
S D 12058	VII-18-3I	11.3	0.40	0.85	U字形	
S D 12059	VII-18-2 · 3I	3.1	0.30	0.90	"	
S D 12060	"	4.5	0.30	0.10	"	
S D 12061	"	5.3	0.30	0.10	"	土師器、須恵器
S D 12062	"	6.8	0.60	0.10	"	
S D 12063	11	9.0	0.50	0.10	"	土師器、須恵器、平瓦
S D 12064	VII-18-2 ⋅ 3J	12.6	0.50	0.06	11	土師器、須恵器、磁器 (肥前焼)
S D 12065	"	12.8	0.60	0.11	11	土師器、須恵器、平瓦
S D 12066	"	13.0	0.50	0.11	11	土師器、須恵器、平瓦(2次焼成)
S D12067	"	13.3	0.40	0.09	"	須恵器
S D12068	"	13.4	0.50	0.08	11	土師器、須恵器、瓦、瓦質土器
S D12069	"	13.9	2.70	0.34	椀形	土師器、須恵器、磁器、伏見土人形
S D 12070	"	14.4	0.80	0.28	U字形	土師器、須恵器、瓦質土器、瓦、 磁器
S D 12071	VII −18−2⋅3J、 VII − 19−2∼4A、3⋅4B	16.4	3.40	0.40	椀形	土師器、須恵器、瓦、瓦器、陶 磁器
S D 12072	VII −18−2J 、 VII −19−2⋅3A	4.4	0.20	0.06	U字形	
S D 12073	"	9.8	0.25	0.05	11	
S D12074	VII −19−2A•B	9.7	1.30	0.07	11	土師器、須恵器、瓦器
S D 12075	VII-19-3A⋅B	13.0	0.50	0.08	11	土師器、須恵器、瓦器
S D 12076	"	12.5	0.30	0.05	11	
S D 12077	"	12.2	0.30	0.06	11	
S D 12078	"	12.0	0.40	0.08	"	
S D 12079	VII - 19 - 3 A	2.1	0.80	0.04	11	磁器(備前焼)

小穴(SP)

S P 12001~ S P 12010

4調査区の島畑12002の上面で10個(SP12001~SP12010)を検出した。上面形状は全て円形状で径 $0.13\sim0.25$ m、深さ $0.07\sim0.24$ mを測る。埋土は小礫が混じる粘土質シルトを主体とした単一層である。遺物は出土していない。これらの小穴は島畑12002の西端を島畑の構築方向に沿って列状に伸びるもので、農耕に関連したものと推定される。小穴の法量は、下記の第7表にまとめた。

第7表 4調査区 第1-2面 SP12001~SP12010法量表

遺構番号	地区	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	平面形状	出土遺物
S P 12001	VII -12-5C	0.25	0.23	0.22	円形	
S P 12002	"	0.22	0.16	0.17	"	
S P 12003	"	0.23	0.18	0.20	"	
S P 12004	"	0.22	0.20	0.17	"	
S P 12005	VII -12-6C	0.19	0.15	0.18	"	
S P 12006	"	0.20	0.15	0.09	"	
S P 12007	"	0.25	0.22	0.24	"	
S P 12008	"	0.22	0.20	0.11	11	
S P 12009	"	0.25	0.20	0.08	11	
S P 12010	"	0.13	0.10	0.07	11	

S P 12011~S P 12046

5調査区全域で36個の小穴(SP12011~SP12046)を検出した。分布の範囲は一部を除けば、調査区の中央部より南部にかけて集中している。平面の形状には、円形・楕円形がある。規模は

径 $0.1\sim0.84$ m、深さ $0.03\sim0.32$ mを測る。埋土はSP12038~SP12042が灰黄褐色砂質シルトである以外は緑灰色砂質シルトの単一層である。遺物はSP12014・SP12034・SP12042から土師器の小片が極少量出土しているが、時期を明確に出来たものはない。SP12041・SP12042以外の小穴群は東西方向に列状に展開しており、近代の鉄道に関連した遺構の可能性が高い。各小穴の法量は、下記の第8表にまとめた。

第8表 5調査区 第1-2面 SP12011~SP12046法量表

遺構番号	地区	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	平面形状	出土遺物
S P 12011	VII -12-6E	0.20	0.20	0.04	円形	
S P 12012	VII −12−6 · 7E	0.28	0.24	0.07	不明	
S P 12013	VII −12−7E	0.15	0.12	0.03	円形	
S P 12014	"	0.20	0.14	0.10	楕円形	土師器
S P 12015	"	0.10	0.10	0.17	円形	
S P 12016	"	0.40	0.30	0.22	楕円形	
S P 12017	"	0.20	0.20	0.14	円形	
S P 12018	"	0.26	0.24	0.11	不明	
S P 12019	VII -12-7F	0.13	0.13	0.10	円形	,
S P 12020	VII −12−7E • F	0.34	0.30	0.08	"	
S P 12021	VII −12−7F	0.22	0.22	0.10	11	
S P 12022	"	0.45	0.45	0.23	"	
S P 12023	"	0.30	0.26	0.04	楕円形	
S P 12024	"	0.40	0.40	0.16	円形	
S P 12025	"	0.20	0.18	0.07	11	
S P 12026	VII-12-8F	0.16	0.16	0.07	11	
S P 12027	VII −12−7G	0.20	0.18	0.06	11	
S P 12028	VII−12−8F	0.32	0.24	0.19	楕円形	
S P 12029	"	0.32	0.30	0.10	円形	
S P 12030	VII-12-8G	0.20	0.20	0.10	11	
S P 12031	"	0.14	0.14	0.08	"	
S P 12032	11	0.40	0.40	0.21	11	
S P 12033	VII −12−8H	0.32	0.28	0.11	"	
S P 12034	"	0.84	0.69	0.11	楕円形	土師器
S P 12035	"	0.24	0.15	0.06	11	
S P 12036	"	0.30	0.26	0.04	円形	
S P 12037	"	0.40	0.40	0.32	"	
S P 12038	VII-12-8I	0.24	0.24	0.10	"	
S P 12039	VII -12-8H	0.65	0.50	0.15	楕円形	
S P 12040	VII -12-8I	0.34	0.34	0.10	円形	
S P 12041	VII-12-7I	0.30	0.38	0.09	楕円形	
S P 12042	//	0.34	0.26	0.14	"	土師器
S P 12043	VII-12-8I	0.32	0.32	0.03	円形	
S P 12044	"	0.36	0.34	0.21	"	
S P 12045	VII-12-9I	0.32	0.30	0.13	"	
S P 12046	"	0.30	0.30	0.10	"	

S P 12047~ S P 12069

7調査区では、島畑12005、島畑12006の上面を中心に合計23個の小穴を検出した。島畑12005上の小穴(SP12047~SP12058)は、規則的な配列はみられないが南辺に集中している。島畑が機能していた時期に、何らかの形で木杭を打設した時にできたものとみられる。島畑12006上の小穴群(SP12063~SP12067)は、北辺に東西方向に1.5mごとに位置しており、規則的な配列がみられた。これらも島畑12006に関係する小穴とみられる。構築時は近世中頃以降のものと考えられる。各小穴の法量は、次頁の第9表にまとめた。

第9表 7調査区 第1-2面 SP12047~SP12069法量表

遺構番号	地 区	長径 (m)	短径(m)	深さ(m)	平面形状	出土遺物
S P 12047	VII -18-1F	0.20	0.15	0.10	楕円形	
S P 12048	VII −13−10F	0.15	0.15	0.08	円形	
S P 12049	"	0.20	0.20	0.08	"	
S P 12050	"	0.20	0.20	0.09	"	
S P 12051	VII −18−1F	0.15	0.15	0.11	"	
S P 12052	"	0.20	0.15	0.10	"	
S P 12053	VII −13−10F	0.30	0.15	0.07	楕円形	
S P 12054	"	0.20	0.15	0.11	"	
S P 12055	VII −18−1G	0.20	0.15	0.07	11	
S P 12056	"	0.35	0.20	0.08	11	土師器、須恵器
S P 12057	"	0.15	0.10	0.08	円形	
S P 12058	"	0.20	0.15	0.10	11	
S P 12059	VII −13−10F	0.30	0.15	0.10	楕円形	
S P 12060	VII −18−1F	0.20	0.15	0.10	11	
S P 12061	"	0.20	0.18	0.12	円形	
S P 12062	"	0.20	0.20	0.06	"	
S P 12063	VII -18-2G	0.20	0.15	0.14	楕円形	
S P 12064	"	0.20	0.18	0.14	円形	
S P 12065	"	0.20	0.18	0.15	"	
S P 12066	"	0.30	0.20	0.18	楕円形	
S P 12067	"	0.30	0.14	0.25	11	
S P 12068	"	0.25	0.20	0.12	11	
S P 12069	"	0.30	0.25	0.06	"	

S P 12070~S P 12074(写真8)

8調査区では、SE12003付近と島畑12007上面で合計5個の小穴を検出した。SE12003の周辺で検出したSP12070・SP12071については、前者が深さ0.2m、後者が深さ0.03mで後者がやや浅いものである。なおSP12070についてはSE12003の井戸側に近接する位置にあることから、井戸の水を汲む時に用いた「撥ね釣瓶」の主柱を設置した小穴であった可能性がある。各小穴の法量は下記の第10表にまとめた。

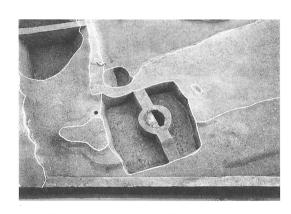


写真8 S E 12003の周辺で検出された S P 12070 (左側) と S P 12071 (右側)

第10表 8調査区 第1-2面 SP12070~SP12074法量表

	遺構番号	地 区	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	平面形状	出土遺物
Г	S P 12070	VII −18−1H	0.20	0.20	0.20	円形	
	S P 12071	VII −18−2H	0.50	0.20	0.03	楕円形	
	S P 12072	VII −19−2B	0.25	0.20	0.08	"	
	S P 12073	"	0.30	0.20	0.09	"	
	S P 12074	VII−19−3B	0.20	0.20	0.04	円形	

・第2-1面(古墳時代後期~室町時代後期)(第18・19図、図版一〇~二二)

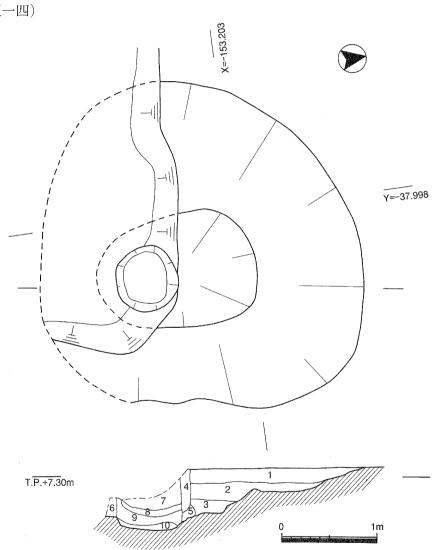
各調査区で検出した。T.P. +8.1~7.6mの第Ⅱ層上面および第Ⅲ層上面(但し、3調査区は水田構築で第Ⅲ層が削平されており第Ⅳ層上面で検出)で捉えた遺構面である。検出された遺構の帰属時期は、古墳時代後期~室町時代後期におよんでいる。同一面で長期間の遺構が検出されたことについては、古墳時代後期以降、沖積作用が緩慢であったことや、中世後半以降、調査地全域が耕作地として継続的に利用されるなかで撹拌を受けていたことに起因するものと考えられる。

検出された遺構は、井戸6基(SE21001~SE21006)、土坑53基(SK21001~SK21053)、 溝177条(SD21001~SD21177)、落ち込み1箇所(SO21001)、小穴46個(SP21001~SP 21046)、畦畔1条(畦畔21001)である。

井戸(SE)

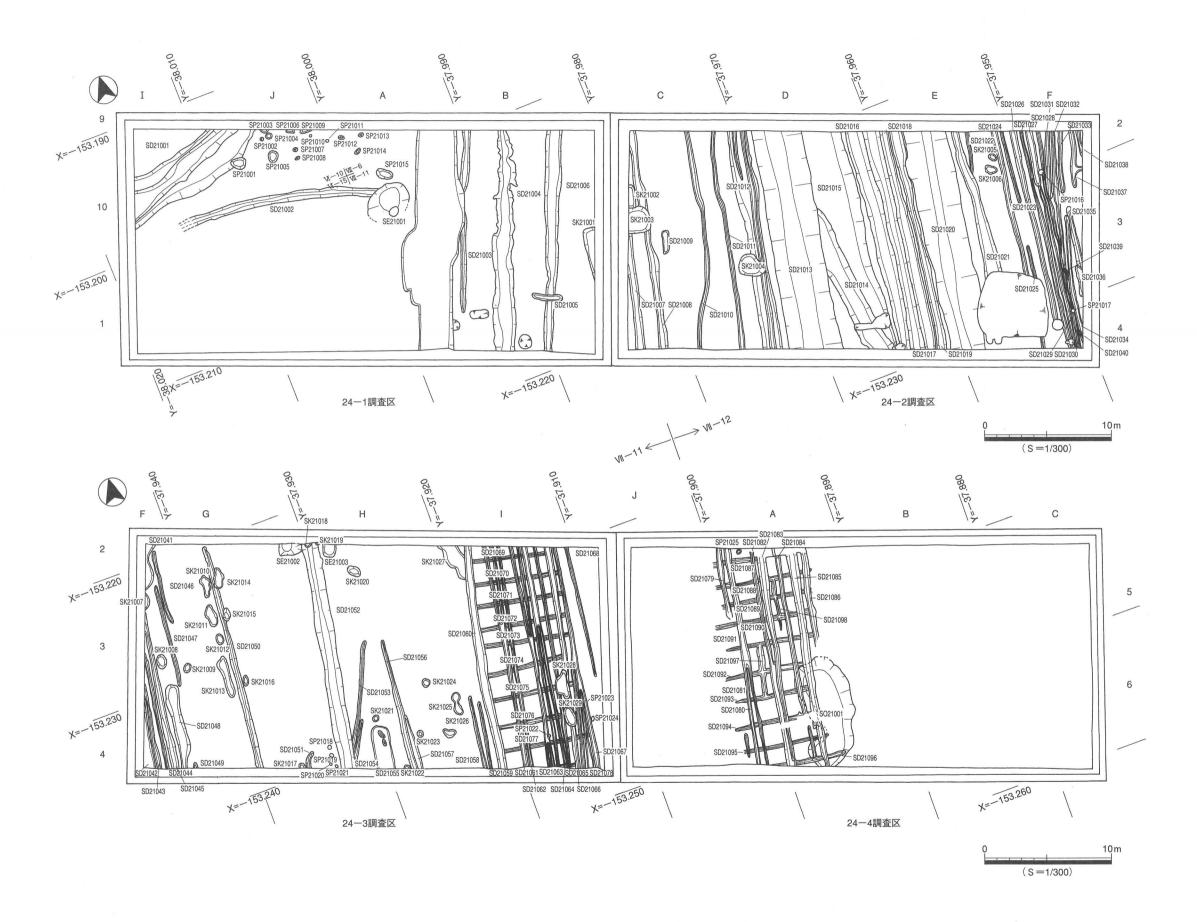
S E 21001 (第17図、図版一四)

1調査区のⅦ-11-1 A地区で検出した。井戸 側部分より南側が削平を 受けている。検出部分で 半円形を呈するもので、 東西幅3.4m、南北幅2.6 mを測る。井戸側は上部 が削られているが、プラ ンはほぼ円形で東西幅 0.64m、南北幅0.7m、深 さ0.65m以上を測る。内 部に木片の痕跡が残って いたことから曲物あるい は桶が井戸側として用い られていたものと推定さ れる。掘方内の埋土は、 ほぼ水平堆積を持つ1~ 3層と井戸側を固定する ための4~6層がある。 一方、井戸側内の埋土は 7~10層でシルト質粘土 を主体としている。遺物 は、掘方内から土師器及 び須恵器の細片と丸瓦片、 木片等の小片が極少量出 土している。遺物からは 時期を限定できるものは

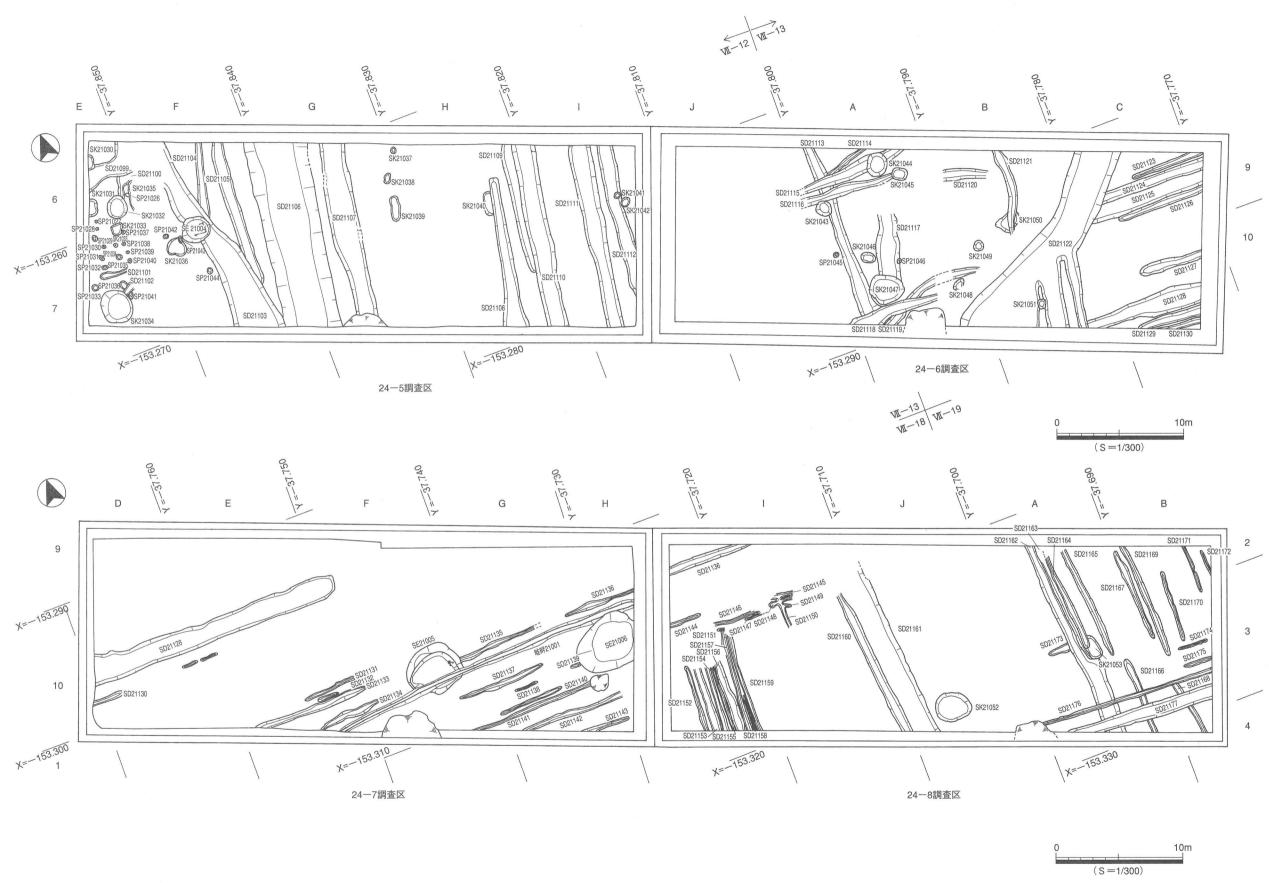


- 1 5Y3/2 オリーブ黒色砂質シルト
- 2 7.5Y5/2 灰オリーブ色粘土質シルト
- 3 7.5Y3/2 オリーブ黒色粘土
- 4 7.5Y4/2 灰オリーブ色極細粒砂 (7.5YB4/4 褐色粘土質シルトのブロック
- 5 5GY4/1 暗オリーブ灰色シルト質粘土
- 6 10Y4/2 オリーブ灰色粘土質シルト
- 7 5Y4/2 灰オリーブ色粘土質シルト (10Y4/2 オリーブ灰色粘土質シルトのブロック)
- 8 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色シルト質粘土
- (7.5YR4/4 褐色粘土質シルトのブロック) 9 10Y3/2 オリーブ黒色シルト質粘土
 - 10 7.5Y3/2 オリーブ黒色シルト質粘土

第17図 S E 21001平断面図



第18図 第2-1面平面図 (24-1調査区~24-4調査区)



第19図 第2-1面平面図 (24-5調査区~24-8調査区)

ないが、本遺構に付随する S D 21002からは平安時代後期に比定される遺物が出土しており、本遺構の存続時期もそれに近いものと推定される。

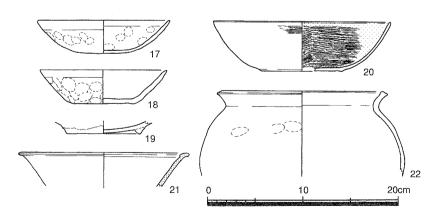
S E 21002 (第20~22図、図版一五・一六・五〇)

3調査区のW-11-3 G地区で検出した。掘方の東部がSD21052に切られている他、北部が調査区外に至るため全容は不明であるが、検出部分からみて掘方の平面形状は円形を呈するものと推定される。検出部分で東西幅2.65m、南北幅2.0mを測る。掘方の断面形状は、逆台形状に全体を1m前後掘り下げた後、さらに中央部から西肩にかけて0.7m前後を掘り込む2段構造で、東部に幅0.5m前後のテラス部分を有する。井戸側は、掘方の中央部から西側で良好な状態で検出された。井戸側は、上部には木組井戸側(縦板組横桟どめ)、下部には土器を転用した井戸側の2段が遺存していたが、井戸側内上部の埋土の堆積状況からみて、もう一段上部に井戸側が存在していた可能性が高い。上部の木組井戸側は、一辺0.85mを測る方形で、長さ約0.9m、幅約0.2m、厚さ約0.01m規模の板を1面に4枚、合計で16枚を縦方向に組み2段の横桟で保持している。内側に設けられた2段の桟木の法量は、幅0.08m、厚さ0.05m、長さ約0.8mで、両端には枘が設けられている。枘には凹状のものと凸状のものがある。下部の土器井戸側は、須恵器大甕の体部以下を転用したもので、残存高0.7m、体部最大径0.94mで底部には径約0.25mの穴が開けられている。埋土は掘方内が1~12層、井戸側内が13~16層である。

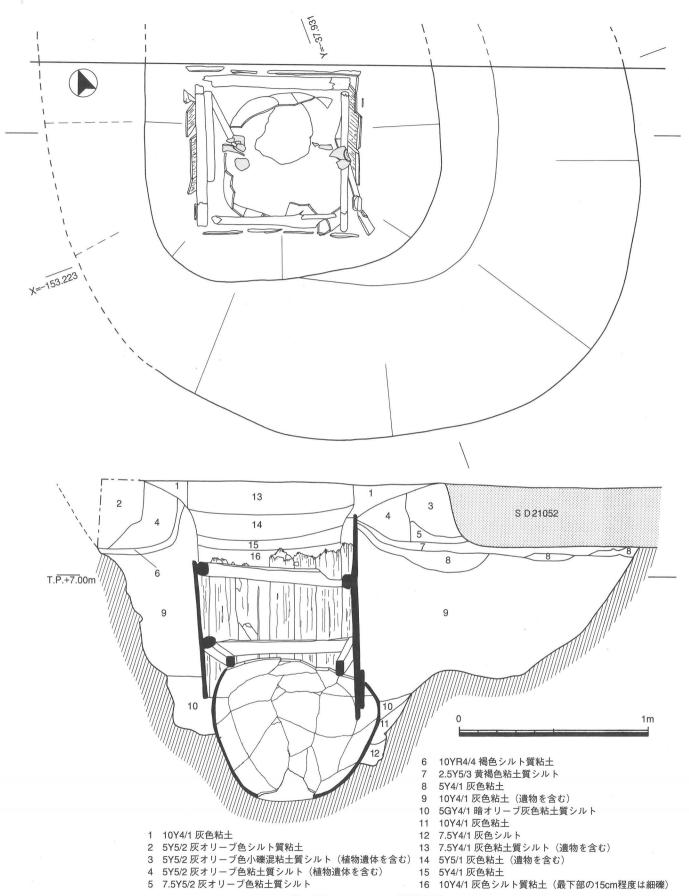
遺物は井戸側内および掘方内から出土しているが、一部を除き小破片が大半で量も少ない。実測した遺物は下部井戸側に使用された須恵器大甕を含めて7点(17~23)で、そのうち、17・19・20・22が上部井戸側、18・21が下部井戸側内から出土している。その内訳は、土師器杯2点(17・18)・椀1点(19)・甕1点(22)、黒色土器A類椀1点(20)、須恵器甕1点(23)、灰釉陶器椀1点(21)である。17・18の土師器杯は口縁部の上半が丁寧なヨコナデ、以下体部に指頭圧成形による指頭圧痕が残る。18は完形品で口径13.3cm、器高3.6cm、底径6.4cmを測る。19は高台部が完存しており高台径7.6cm、高台高0.6cmを測る。20は幅狭でわずかに突出する程度の高台を有する黒色土器A類椀である。22は土師器甕で内傾する口縁部端面に1条の凹線を施す。21は灰釉陶器の小破片である。口縁端部が強く外反する形態で、口縁部内面縁灰色、体部内面に白灰

色の自然釉が認められる。東 海地方からの搬入品と考えら れる。23は下部井戸側に使用 された須恵器の大形甕で口縁 部と底部を欠く。体部外面は 格子状のタタキ、内面は同心 円文タタキの後、ヘラ状工具 により水平方向にナデで消し ている。

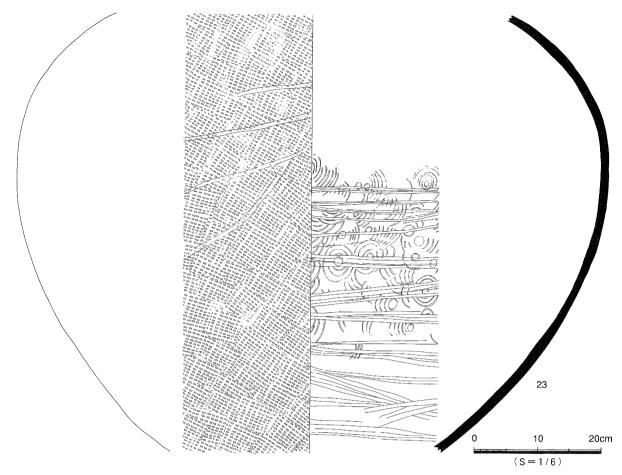
出土した土器類はいずれも 平安時代前期後半(9世紀末 ~10世紀初頭)の所産と推定 される。



第20図 S E 21002出土遺物実測図



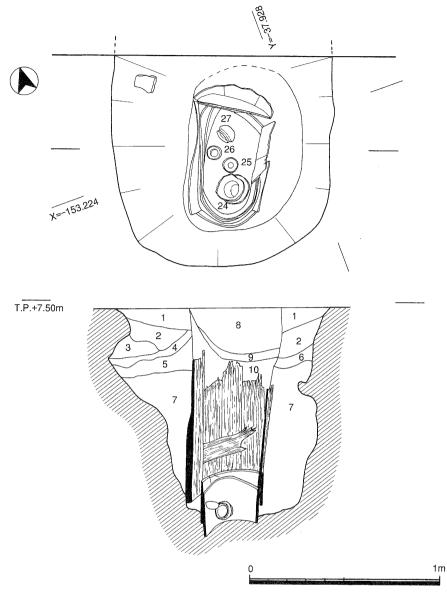
第21図 S E 21002平断面図



第22図 SE21002下部井戸側(23)実測図(S=1/6)

S E 21003 (第23・24図、図版一七・五〇・五一)

SE21002の東約2.0mの地点で検出した。遺構の北部分が調査区外へ至るため全容は不明であるが、検出部分からみて掘方上面の形状は南北方向に長い楕円形を呈するものと推定される。検出部分で東西幅1.14m、南北幅1.12mを測る。据方の形状は不定形で急角度に掘られており、最深部で約1.2mを測る。井戸側は掘方のほぼ中央から検出された。上下2段構造を有する井戸側で、上部井戸側は、長さ0.8m以上、幅約0.2m、厚さ約0.01mを測る板材を7枚縦位に立てることにより井戸側を形成しており、その平面形状は下部井戸側の形状である小判形に沿っている(東西幅約0.45m・南北幅約0.75m)。縦板の内側には、縦板が内側に倒れ込まないように桟木が1段設置されていた。下部井戸側は南北に長い小判形の曲物を2段重ねる構造で、上段の曲物の法量は、東西幅0.3m、南北幅0.6m、高さ0.22m、厚さ0.01mを測る。下部井戸側の遺存状況は比較的良好であるが、上段の曲物側については、綴じがはずれ、広がりながら下方に落ち込んでいた。井戸側内埋土は、8~10層が堆積しており、上部では掘方内埋土と明確に区別されることから、上部の井戸側は長さ1.04m以上であったことが推定される。遺物は掘方内からは土師器甕、製塩土器、屋瓦の小片が出土した。一方、井戸側内下部の曲物井戸側内からは、土師器皿・壷・竈、須恵器壷・杯など完形を含む良好な資料が出土している。8点(24~31)を図化した。内訳は、土師器壷1点(27)・甕1点(28)・竈1点(31)、須恵器壷1点(24)・杯身1点(26)・皿1点(25)、土間器壷1点(27)・甕1点(28)・竈1点(31)、須恵器壷1点(24)・杯身1点(26)・皿1点(25)、



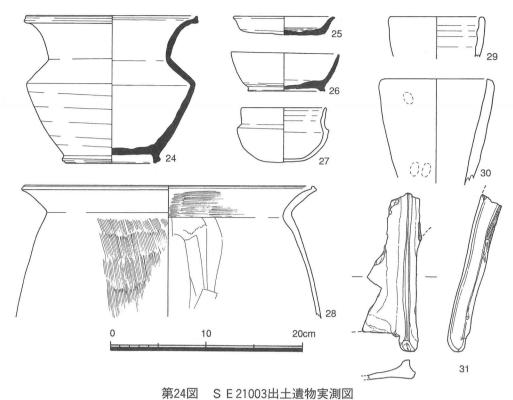
- 1 2.5Y4/1 黄灰色粘土質シルト
- 2 5Y5/2 灰オリーブ色シルト質粘土
- 3 5Y5/2 灰オリーブ色粘土質シルト
- 4 2.5Y5/8 黄褐色粘土質シルト
- 5 7.5Y4/1 灰色粘土 (7.5Y6/2 灰オリーブ色シルトのブロック)

井戸側内

- 6 10Y5/1 灰色粘土質シルト 10Y4/1 灰色粘土(10Y5/1 灰色シルトのブロック)
- 8 2.5Y4/1 黄灰色粘土質シルト
- 9 5Y4/1 灰色粘土質シルト
- 10 5Y4/1 灰色粘土

製塩土器 2 点 (29・30) である。そのうち、28~30以外は下部井戸側内から出土している。24は 肩部が稜角を成す須恵器広口壷で、口縁部の一部を欠く以外は完存している。平城宮分類の壷Q にあたる。口径17.7cm、器高15.6cm、体部最大径17.7cm、底径9.4cmを測る。口縁部内外面から肩部 外面に濃緑色の自然釉が厚く降着している。25は須恵器皿で完形品である。口径10.2cm、器高 1.9cmを測る。灯明皿に使用されたもので、口縁部の約半分にわたって灯芯の痕跡が残る。26は低 い高台を有する須恵器杯身である。完形品で口径11.1cm、器高4.1cm、高台径7.9cm、高台高

第23図 S E 21003平断面図



0.5cmを測る。27は半円形の体部に直上方に伸びる口縁部が付く小形の土師器壷である。完形品で口径8.7cm、器高5.8cmを測る。28は土師器の大形甕で、復元口径30cmを測る。口縁端面が内傾して上方に摘み上げられている。体部外面には、縦方向の密なハケメ調整が施されている。29・30は製塩土器と推定される。30の内面には細かい布目痕が残る。31は小形の移動式竈の小片である。出土した遺物は、平城宮土器編年のVI期の略年代とされる800年前後の時期が想定される。

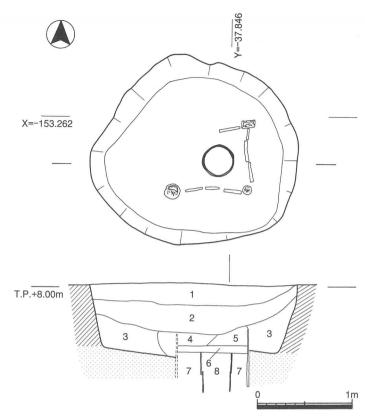
S E 21004 (第25·26図、図版一八·五一)

5調査区のW-12-7F地区で検出した。北部でSD21103を切っている。不整円形を呈するもので、長径2.17m、短径2.03m、深さ1.15mを測る。掘方のほぼ中央部に下部井戸側として曲物を二段(下段-径30cm・高さ22cm、上段-径33cm・高さ24cm)埋置し、さらにその上に平面方形を呈する木組井戸側(縦板組隅柱横桟どめ)で構成される上部井戸側を設けている。上部井戸側のうち、北西部分の隅柱が鋼材打ち込みにより欠損している他、西側の板材を欠く。検出部分で、東西幅0.66m、南北幅0.61m、高さ0.6mを測る。上部井戸側を構成する隅柱は欠損する北西部分を除けば、南東・南西が円柱で北東は長方形を呈する。井戸側内の埋土は上部井戸側内が4層~7層、下部井戸側内が8層である。掘方内の埋土は1層~3層(一部4層を含む)から成るが、上部については井戸側の存在が想定される堆積状況が認められないことから、井戸廃絶後に土坑等に再利用されていた可能性が高い。遺物は井戸側内から土師器杯、黒色土器椀、緑釉陶器皿、掘方内から土師器杯・高杯・土釜、黒色土器椀、須恵器鉢等の小片が少量出土している。

8点 $(32\sim39)$ を図化した。内訳は土師器杯 3点 $(32\sim34)$ ・甕 2点 $(35\cdot36)$ ・土釜 1点 (37)、須恵器鉢 1点 (38)、緑釉陶器皿 1点 (39) である。 $32\sim34$ は土師器杯でいずれも底部を欠く小破

片である。復元口径14cm、器高 3.5cm程度を測る。35・36は土 師器甕である。35が外反する口 縁部、36が内傾する口縁端部を 有する。37は土師器土釜で体部 上位に鍔を有する。復元口径 25.5cmを測る。菅原正明氏分類 の摂津 C2型 (10世紀) にあた る。38は口縁端部が左右に広が り玉縁状の口縁を形成する須恵 器鉢で、京都府亀岡市の篠窯産 のものと推定される。39は緑釉 陶器の底部で高台径 6 cmから推 定して器種は皿と推定される。 高台は削り出しによるもので、 高台裏面はあげ底を呈する。胎 土は緻密で、白色を呈する。釉 はやや黄色を帯びた緑色で全体 に施釉されている。その特徴か ら、京都市近郊で9世紀前半~ 中頃に生産された京都系の緑釉 陶器と推定される。

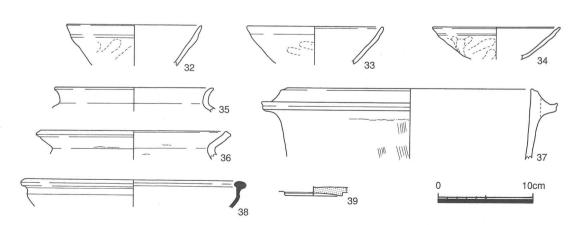
井戸側内から出土した遺物については、39の緑釉陶器皿を除けば10世紀前半、掘方内1層・2層出土遺物については10世紀前半~中葉が推定される。



- 10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト
- 2 10YR4/1 褐灰色砂質シルト (中礫を含む)
- 3 2.5Y7/3 浅黄色細粒砂~中粒砂と N5/0 灰色砂質シルトの互層
- 4 10YR4/1 褐灰色粗粒砂混砂質シルト
- 5 N5/0 灰色中粒砂混砂質シルト
- 6 N5/0 灰色粘土
- 7 N8/0 灰白色細礫混中粒砂
- 8 N8/0 灰白色中粒砂

井戸側内

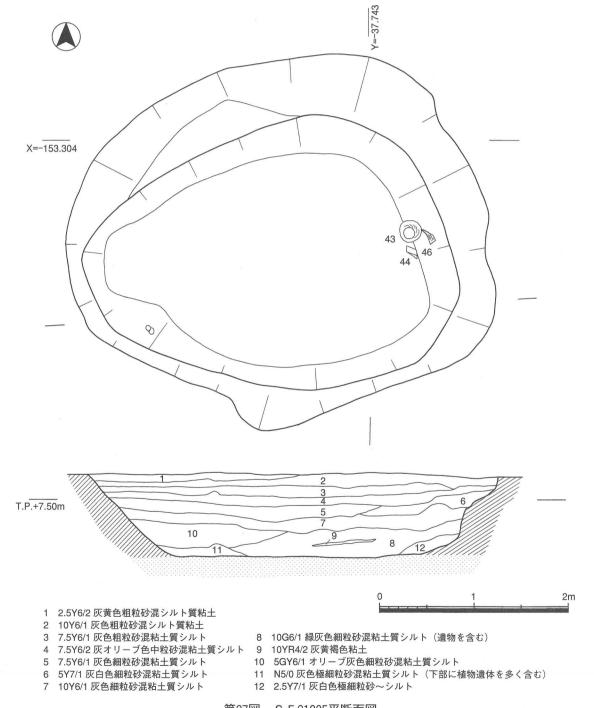
第25図 S E 21004平断面図



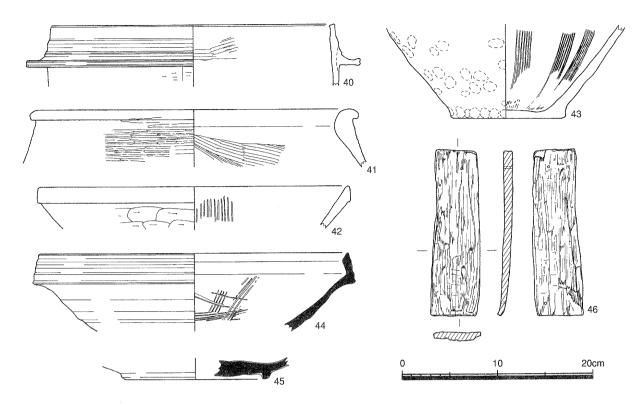
第26図 S E 21004出土遺物実測図

S E 21005 (第27·28図、図版一八·五一)

7調査区中央のWI-18-1 F地区で検出した。掘方の平面形状は、東-西に長軸を持つ不整な 楕円形で長径4.46m、短径3.9m、深さ0.87mを測る。断面形状は、概ね摺鉢状を呈しているが、 北部には三日月状を呈する幅の狭いテラスがある。埋土は12層に分けられ、細粒砂が多く混じる 粘土質シルト層を主体としている。井戸側材がないことや土層断面からも井戸側の痕跡または抜 き取り跡を示す堆積がみられないことから、素掘り井戸と推定される。遺物は8層から土師器摺 鉢、瓦質土器摺鉢・甕・土釜、備前焼摺鉢、中国製青磁皿、丸瓦、不明木製品が出土した。7点



第27図 S E 21005平断面図

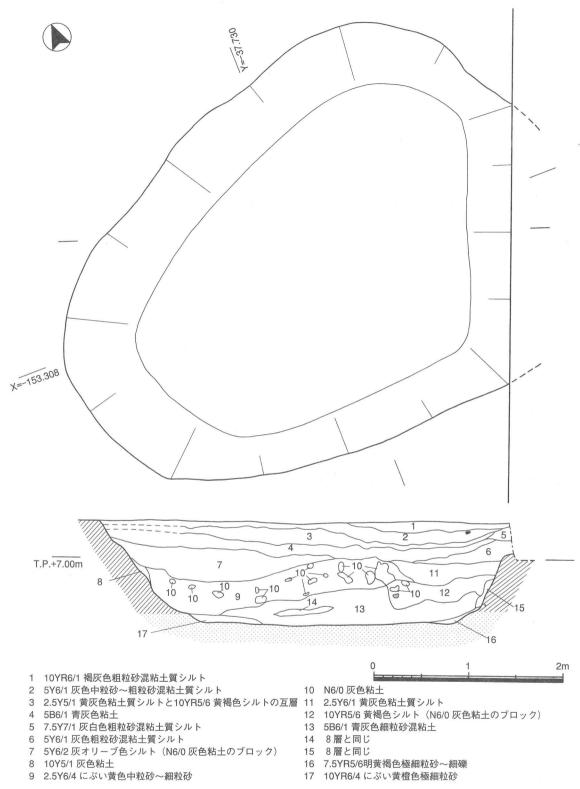


第28図 S E 21005出土遺物実測図

(40~46) を図化した。その内訳は、土師器摺鉢1点(42)、瓦質土器3点(40・41・43)、備前焼摺鉢1点(44)、中国製青磁皿1点(45)、板1点(46)である。そのうち43・44・46については、一箇所から集中して出土している。40は瓦質土釜である。直立気味に立ち上がる口頸部外面にヨコナデ調整により稜線のやや不明瞭な段を形成する。焼成は良好なものの全体に炭素付着が不良である。15世紀後半に比定される。41は瓦質の中形甕である。口縁部は外折し玉縁状の口縁端部を形成する。炭素付着は不良である。15世紀後半に比定される。42~44は摺鉢で、42が土師器、43が瓦質、44が陶器(備前焼)である。42は口縁外面に幅広の端面を有する。43は体部中位以下が完存している。河内地域で製作されたものである。44は口縁端面が内傾して大きく拡張する面を持つもので、間壁編年のV期に比定される。16世紀後半の所産と考えられる。45は龍泉窯系の青磁皿である。釉色はくすんだ青灰色で、高台裏面の一部で欠き取られている他は全面に厚く施釉されている。46は長方形を呈する小形の板で幅4.4~5.0cm、長さ17.7cm、厚さ0.5~0.9cmを測る。表面が平滑にされているが、裏面は未加工で、上下の2箇所に径2mm程度の孔が穿たれている。荷札等に使用されたものと推定される。出土した遺物は15世紀後半から16世紀後半に比定される。

S E 21006 (第29図、図版一九)

7調査区東端のW-18-1 G・H地区で検出した。北端で**畦畔21001**を切っている。東部が調査区外に至るが、検出状況からみて平面形状は、東一西に長軸を持つ楕円形が想定される。検出部分で東西幅4.9m、南北幅4.0m、深さ0.8mを測る。断面形状は、逆台形である。埋土は17層に分層が可能で、特に下部には粘土ブロック(長さ0.05 \sim 0.1m)を多く含む部分が認められ、人為的な埋め戻しが短時間に行われたことが窺われる。遺物は出土していない。



第29図 S E 21006平断面図

土坑 (SK)

S K 21001

1 調査区の $\Pi-11-2$ B地区で検出した。東部が調査区に至る。検出部分で東西幅0.7m、南北幅3.5m、深さ0.17mを測る。埋土は灰オリーブ色シルト質粘土の単一層である。遺物は出土

していない。

S K 21002

2調査区の $WI-11-1\cdot 2$ C地区で検出した。南端でS K 21003を切り、東端でS D 21008に接するが、西部は調査区外に至るため全容は不明である。検出部分で東西幅0.5m、南北幅1.68m、深さ0.18mを測る。埋土は粘土を主体とする2 層から成る。遺物は出土していない。

S K 21003

2調査区の調査区西端のW-11-2B・C地区で検出した。西端は調査区外に至る。南側でSD21007、東側でSD21008を切り、北側でSK21002に切られている。検出部分で東西幅1.64m、南北幅1.98mを測る。底部はほぼ水平で、深さ0.24mを測る。埋土は断面形状に沿って下層の灰色シルト質粘土と上層の灰色粘土の2層が堆積している。遺物は土師器、須恵器、瓦器椀の小片が極少量出土しているが、時期を明確に確定できるものはない。

S K 21004

2調査区のW-11-2 C地区で検出した。東側でSD21012を切っている。東-西に長軸を持つ不整楕円形を呈するもので、長径2.1m、短径1.6m、深さ0.24mを測る。埋土は逆台形を呈する断面の両肩部分に灰色シルト質粘土が堆積した後、灰色シルト質粘土~粘土を主体とする3層が概ね水平に堆積している。遺物は土師器、須恵器、瓦質土器の小片が極少量出土している。

S K 21005

2 調査区北東部のW-11-2 E地区で検出した。東-西に長軸を持つ楕円形で、長径0.5m、短径0.35m、深さ0.05mを測る。埋土は暗灰黄色シルト質粘土の単一層である。遺物は極少量出土している。

S K 21006

S K 21005の南側に近接している。東-西に長軸を持つ楕円形で、長径0.75m、短径0.5m、深さ0.04mを測る。埋土は黄褐色シルト質粘土の単一層である。遺物は出土していない。

S K 21007

3調査区のWI-11-3F地区で検出した。西部は調査区外に至る。検出部分で、東西幅1.1m以上、南北幅0.4mを測る。断面形状は浅い皿状を呈し、深さ0.08mを測る。埋土は灰色極細粒砂混シルトの単一層である。遺物は出土していない。

S K 21008

3調査区のW-11-3 F地区で検出した。南一北に長軸を持つ楕円形で、長径1.1m、短径1.0 mを測る。断面形状は浅い皿状で、深さ0.06mを測る。埋土は黄褐色極細粒砂混シルトの単一層である。遺構内からは土師器や須恵器が少量出土したが、いずれも小片であるため時期は明確でない。

S K 21009

SK21008の南東側約1.5mに位置する遺構である。南西—北東に長軸を持つ楕円形で、長径0.8m、短径0.56mを測る。断面形状は浅い皿状で、深さ0.06mを測る。埋土は灰オリーブ色粘土質シルトの単一層である。遺物は出土していない。

S K 21010

3調査区のⅢ-11-3G地区で検出した。南-北に長軸を持つ不定形で、東西幅0.5m、南北

幅1.8mを測る。断面形状は浅い皿状で0.06mを測る。埋土は灰色極細粒砂~中粒砂混粘土質シルトの単一層である。遺物は出土していない。

S K 21011

SK21010の南側約0.7mの地点で検出した。南一北に長軸を持つ不定形で、東西幅0.8m、南北幅1.8mを測る。断面形状は浅い皿状を呈し、深さは0.09mを測る。埋土は灰オリーブ色粘土質シルトの単一層である。遺物は出土していない。

S K 21012

SK21011の南側約0.7mの地点で検出した。南-北に長軸を持つ楕円形で、長径0.9m、短径0.5mを測る。断面形状は浅い半円形で、深さ0.07mを測る。埋土は灰オリーブ色粘土質シルトの単一層である。遺物は出土していない。

S K 21013

3調査区西部の $\Pi-11-3\cdot 4$ G地区で検出した。南一北に溝状に伸びるもので、東西幅0.5 m、南北幅3.3mを測る。断面形状は浅い皿状で、深さ0.06mである。埋土は灰オリーブ色粘土質シルトの単一層である。遺物は出土していない。

S K 21014

SK21010の東側約0.5mの地点で検出した。SD21050を切っている。南-北に長軸を持つ不定形で、東西幅0.7m、南北幅1.7mを測る。断面形状は浅い不整逆台形を呈し、深さ0.07mを測る。埋土は灰オリーブ色粘土質シルトの単一層である。遺物は出土していない。

S K 21015

S K 21016

S K 21017

WI-11-4 G地区で検出した。遺構の南部分が調査区外に至る。検出部分で東西幅0.4m、南北幅0.5m以上を測る。断面形状は浅い逆三角形を呈し、深さ0.05mを測る。埋土は黄灰色粘土質シルトの単一層である。出土遺物は須恵器の小片が1点である。

S K 21018

 $\mathbb{W}-11-3$ G・H地区で検出した。SD21052の一部を切っている。遺構の北部分は調査区外に至る。検出部分で東西幅0.45 m、南北幅0.3 mを測る。断面形状は浅い逆台形を呈し、深さ0.06 mを測る。埋土は灰色粘土質シルトの単一層である。遺物は出土していない。

S K 21019

 浅い皿状を呈し、深さ0.04mを測る。埋土は灰色粘土質シルトの単一層である。遺物は出土していない。

S K 21020

S K 21021

W-11-4 H地区で検出した。円形を呈するもので、長径0.6m、短径0.55mを測る。断面形状は浅い皿状で、深さ0.05mを測る。埋土はオリーブ黒色粘土質シルトの単一層である。遺物は出土していない。

S K 21022

Ⅲ-11-5 H地区で検出した。遺構の南部が調査区外に至る。検出部分で東西幅0.55m、南北幅0.3mを測る。掘方断面は不整逆台形の形状を呈し、深さは0.1mを測る。埋土は灰色極粗粒砂混シルトの単一層である。遺物は出土していない。

S K 21023

S K 21024

〒11-4 H地区で検出した。円形を呈するもので、径0.65mを測る。掘方断面は浅い皿状で、深さ0.08mを測る。埋土は灰色極粗粒砂~中粒砂混粘土質シルトの単一層である。遺構内からは 須恵器の小片が少量出土したが時期は明確でない。

S K 21025

〒11-4 H地区で検出した。不定形を呈するもので、東西幅0.5~1.4m、南北幅1.8mを測る。断面形状は逆台形を呈し、深さ約0.1mを測る。埋土は灰色粘土質シルトの単一層である。遺構内からは土師器や須恵器の小片が少量出土したが時期は明確でない。

S K 21026

Ⅲ-11-5 H地区で検出した。S K 21023の東南東側約1.6m、S K 21025の南西側約1.5mの所に位置する。不定形を呈するもので、東西幅1.0m、南北幅0.6mを測る。断面形状は浅く少し歪んだ逆台形で、深さ0.06mを測る。埋土は灰色極粗粒砂~中粒砂混粘土質シルトの単一層である。埋土には土師器や須恵器の小片が少量含まれていたが時期を明確にできたものはない。

S K 21027

 $WI-11-3H\cdot I$ 地区で検出した。北部は調査区外へ続き、また東部はSD21060に切られるため全容は不明である。検出長2.5m、幅1.5mを測る。断面形状は概ね逆台形を呈する。深さ0.2m前後であるが、本遺構は第3-1 面で検出した古墳時代中期に比定される溝(SD31036)の上方に位置し、また深さ0.1mで古墳時代中期の須恵器杯蓋が出土しており、それがSD31036出土のものと接合関係にあることから、本遺構の本来の深さは0.1m未満であったと推定される。

3調査区東部のⅦ-11-4・5 I地区で検出した。SD21065・SD21066・SD21075の一部 をそれぞれ切っている。南-北に長軸を持つ不定形で、東西幅1.0m、南北幅2.3mを測る。断面 形状は皿状で、深さ0.08mを測る。埋土は灰色粘土質シルトの単一層である。遺構内からは土師 器や須恵器の小片が少量出土したが、時期は明確でない。

S K 21029

SK21028の南側約0.7mの地点で検出した。SD21065·SD21066·SD21076の一部をそれ ぞれ切っている。南一北に長軸を持つ楕円形で、長径1.7m、短径0.95mを測る。掘方断面は浅 い逆台形を呈し、深さ0.12mを測る。埋土は2層から成り、上層が暗オリーブ灰色極細粒砂混シ ルト質粘土、下層が黄灰色極細粒砂混シルトである。遺物は上層から土師器片が出土したが、時 期を決定するには至らない。

S K 21030

5調査区北西部のⅢ-12-6 E地区で検出した。南部でSD21099を切っているが、西部は調 査区外に至るため全容は不明である。検出部分で東西幅0.4m、南北幅 1.1m、深さ0.17mを測 る。埋土はにぶい黄褐色粗粒砂混砂質シルトの単一層である。遺物は土師器、須恵器の小片が少 量出土したのみで時期を明確にし難いが、本遺構が切るSD21099が12世紀中葉に比定されるこ とから、それ以降であることは確実である。

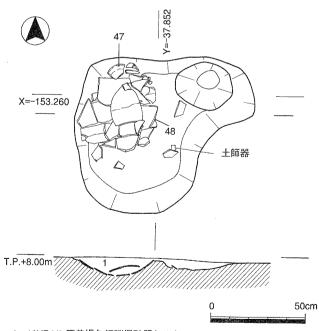
S K 21031

5調査区北西部のⅢ-12-6 E地区で検出した。西部は調査区外に至る。検出部分で、東西幅 0.6m、南北幅1.3m、深さ0.24mを測る。埋土は2層から成る。遺物は土師器、須恵器の小片が 出土しているが時期は明確でない。

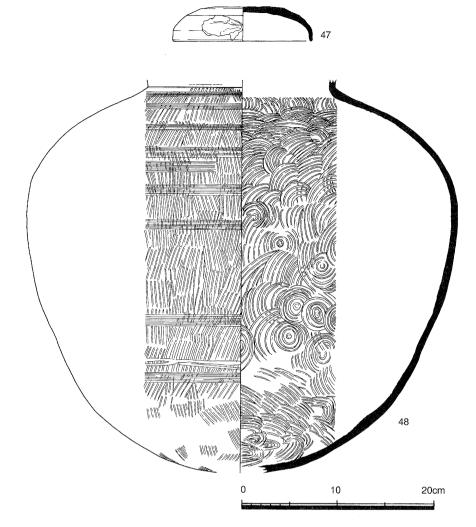
S K 21032

S K 21031の東側0.8mで検出した。円形 を呈するもので、北東部はSD21100を切っ ている。長径2.4m、短径0.25m、深さ0.12 mを測る。埋土は皿状を呈する断面形状に 沿って2層が堆積している。遺物は平安時 代前期に比定される土師器、須恵器、黒色 土器椀の小片が少量出土しているが図化可 能なものはない。

S K 21033 (第30·31図、図版一九·五一) 5調査区北西部のⅦ-12-6・7 E地区 で検出した。南一北に長軸を持つ不整楕円 形の北東部が東に広がる形状を呈するもの T.P.+8.00m? で、長径0.91m、短径0.82m、深さ0.1mを 測る。埋土は灰黄褐色細礫混砂質シルトの 単一層である。遺物は、掘方の北西部に沿 1 10YR6/2 灰黄褐色細礫混砂質シルト って埋置された須恵器甕が検出された他、



第30図 S K 21033平断面図



第31図 SK21033出土遺物実測図

須恵器杯蓋・壷の小片が出土している。西部から出土した須恵器甕については、頸部より上部を欠くもので、底部を北に向けて横位に埋置されており、検出時点では約半分が残存していた。なお、上層包含層の出土遺物と接合関係が認められることから、古い段階に上部が削平を受けたようである。このような遺物の出土状況からみて、土器棺墓であった可能性も考えられる。2点(47・48)を図化した。47は須恵器杯蓋で48の須恵器甕内の北端部分で検出した。2/3程度が残存しており、口縁部外面に焼成時に付着した須恵器片が認められる。MT85型式に比定される。48は中形の須恵器甕で頸部から底部の約1/2が残存している。残存高41.8cm、体部最大径45.0cmを測る。2点共に、古墳時代後期後半(6世紀後半)の所産と推定される。

S K 21034

5調査区の南西部のⅢ-12-7 E地区で検出した。円形を呈するもので、長径2.5m、短径2.3 m、深さ0.43mを測る。埋土は3層から成る。遺物は弥生時代前期、古墳時代前期~後期、平安時代後期に比定される土器類が混在して出土しているが、遺構の構築時期は平安時代後期が推定される。

SK21032の東側で検出した。東部は撹乱により削平を受けており、全容は不明である。検出部分で、東西幅0.25m、南北幅2.4m、深さ0.12mを測る。埋土は2層から成る。遺物は土師器、須恵器の小片が極少量出土しているが、時期は明確でない。

S K 21036

5調査区のWI-12-7F地区で検出した。円形を呈するもので、北端部分はSP21043に切られている。長径1.5m、短径1.3m、深さ0.3mを測る。埋土は3層から成る。遺物は土師器高杯・土釜、須恵器杯身、緑釉陶器の小片が極少量出土している。構築時期は平安時代前期であろう。

S K 21037

5調査区の中央部北のⅢ-12-7 H地区で検出した。円形を呈するもので、長径0.45m、短径0.4m、深さ0.04mを測る。埋土は灰黄褐色極粗粒砂混砂質シルトの単一層である。遺物は出土していない。

S K 21038

SK21037の南側で検出した。南-北に長軸を持つ楕円形で、長径0.8m、短径0.4m、深さ0.04mを測る。埋土は灰黄褐色極粗粒砂混砂質シルトの単一層である。遺物は出土していない。

S K 21039

SK21038の南側で検出した。南-北に長軸を持つ楕円形で、長径1.9m、短径0.7m、深さ0.05mを測る。埋土は灰黄褐色極粗粒砂混砂質シルトの単一層である。遺物は出土していない。

S K 21040

5 調査区のW-12-7 H地区で検出した。南一北に長軸を持つ楕円形で、東肩はSD21108に切られている。検出部分で東西幅0.6m、南北幅1.9m、深さ0.07mを測る。埋土は灰黄褐色極粗粒砂混砂質シルトの単一層である。遺物は出土していない。

S K 21041

5 調査区東端のWI-12-8 I 地区で検出した。円形を呈するもので、SD21112を切っている。径0.45m、深さ0.15mを測る。埋土は2層から成る。遺物は須恵器杯蓋の小片が出土したが、時期は明確でない。

S K 21042

SK21041の南東側で検出した。円形を呈するものでSD21112の東部を切っている。長径0.7m、短径0.65m、深さ0.13mを測る。埋土は2層から成る。遺物は6世紀末~7世紀前半に比定される土師器、須恵器の小片が極少量出土している。

S K 21043

6調査区のW-13-8 A地区で検出した。SD21113を切っている。円形で、長径1.25m、短径1.2m、深さ0.05mを測る。埋土は4 層から成る。遺物は古墳時代後期(6 世紀前半)とみられる土師器、須恵器杯身の小片が少量出土した。

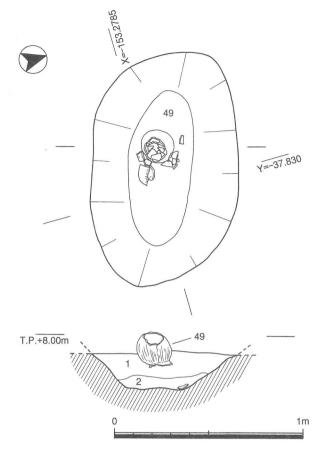
S K 21044

6 調査区のW-13-8 A地区で検出した。SD21115を切っている。円形で、長径1.9m、短径1.6m、深さ0.1mを測る。埋土は3層から成る。遺物は出土していない。

6調査区のW-13-8A地区で検出した。SD21116の東部に位置する。隅丸方形を呈するもので長辺1.2m、短辺0.9m、深さ0.15mを測る。埋土は3層から成る。遺物は、古墳時代後期の土師器が極少量出土したが、遺構の切り合い関係からみて平安時代後期以降のものと考えられる。

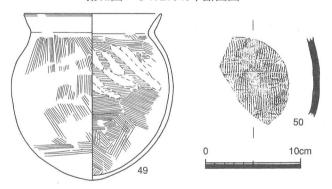
S K 21046(第32·33図、図版二〇· 五二)

6調査区のⅢ-13-9 A地区で検出し た。東-西に長軸を持つ楕円形で、検出 面で長径1.28m、短径0.77m、深さ0.2m を測る。埋土は2層がほぼ水平に堆積し ているが、検出時点で遺構の中央付近で 逆位の状態で置かれていた土師器甕(49) が検出面より上部にあることから、本来 の構築面はさらに上部にあったようであ る。遺物は1層・2層から土師器甕、韓 式系土器の小片が出土している。 2点 (49・50) を図化した。49は土師器甕で1 層から出土した。底部を欠く以外は完存 している。50は硬質の韓式系土器の体部 片で、49と同様1層中から出土した。体 部外面に鳥足文状のタタキの後、沈線が巡 る。50については、5世紀前半に遡る可 能性があるものの、49からみて遺構の帰 属時期は古墳時代後期後半(6世紀後半) が推定される。



- 1 5Y6/2灰オリーブ色極細粒砂混粘土質シルト
- 2 10YR4/2灰黄褐色極細粒砂

第32図 S K 21046平断面図



第33図 SK21046出土遺物実測図

S K 21047 (第34·35図、図版二〇·五二)

6調査区のW-13-9A地区で検出した。不整円形で、長径2.41m、短径2.84m、深さ0.27m を測る。断面形状は皿状で、埋土は砂質〜粘土質シルトを中心とする10層である。そのうち、1層・2層・7~9層からは炭化物とともに二次焼成を受けた土器片が出土している。遺物は、古墳時代後期(6世紀前半)に比定される須恵器甕・杯蓋・杯身と土師器の小片が出土した。3点(51~53)を図化した。51は須恵器甕で頸部より上部は完存している。口径15.3cmを測る。MT15型式(6世紀前半)に比定される。52は須恵器杯蓋、53は須恵器杯身で共に小片であるが51よりは古い様相を呈している。遺物はやや時期差が認められるものの廃絶時期は古墳時代後期前半(6世紀前半)が想定される。

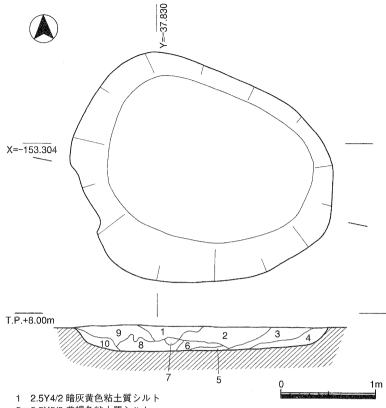
6調査区のW-13-9A地区 で検出した。SK21048は、南端 が第1-2面の遺構により切ら れている。検出部分は、楕円形 を呈するもので東西幅1.0m、南 北幅0.7m、深さ0.15mを測る。 X=-153.304 埋土は2層で水平方向の堆積で ある。遺物は、時期不明の土師 器、須恵器が出土している。

S K 21049

6調査区のⅦ-13-9 В地区 で検出した。不整円形を呈する もので、短径0.9m、長径0.8m、_{T.P.+8.00m} 深さ0.18mを測る。埋土は粘質 シルトの4層である。遺物は、 時期不明の土師器小片が出土し ている。

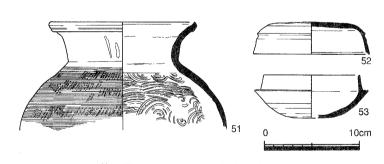
S K 21050 (第36·37図、図版 二一·五二)

6調査区のⅦ-13-9 В地区 で検出した。東部上面がSD 21121により切られている。不整 長方形で、検出部分で東西幅 1.95m、南北幅1.22m、深さ 0.17mを測る。埋土は砂質~粘 土質シルトを主体とする5層か ら成る。遺物は、古墳時代中期 後半に比定される土師器高杯・



- 2 2.5Y5/3 黄褐色粘土質シルト
- 3 5Y5/1 灰色粘土質シルト
- 4 2.5Y5/2 暗灰黄色粘土質シルト
- 5 7.5YR3/3 暗褐色細粒砂混粘土質シルト
- 6 2.5YR5/2 暗灰黄色粘土質シルト
- 2.5Y5/3 黄褐色砂質シルト
- 5Y5/1 灰色細粒砂混粘土質シルト
- 9 2.5Y5/2 暗灰黄色砂質シルト
- 10 10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルト

第34図 S K 21047平断面図

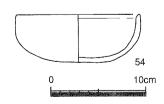


第35図 SK21047出土遺物実測図

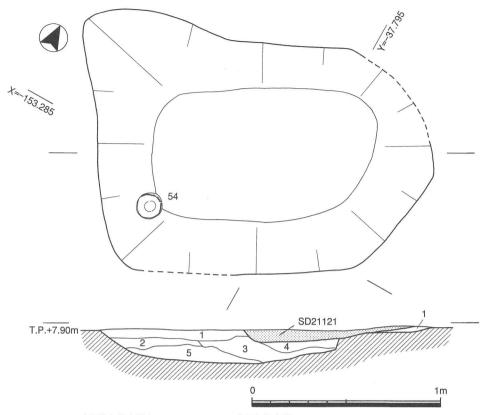
杯の小片が出土した。1点(54)を図化した。54は土師器杯である。 口縁部の一部を欠く以外は完存している。口径13.0cm、器高5.1cm、 底径6.0cmを測る。古墳時代中期後半(5世紀後半)の所産と考えら れる。

S K 21051

6調査区のⅦ-13-10B地区で検出した。隅丸方形を呈するもの で、長辺0.75m、短辺0.6m、深さ0.12mを測る。埋土は粘質シルト の3層である。遺物は江戸時代前期(17世紀)に比定される土師器、 平瓦、唐津焼(三島手)が出土した。



第36図 S K 21050出十遺物 実測図



- 1 2.5Y4/2暗灰黄色粘土質シルト 4 2.5Y5/1黄灰色粘土質シルト
- 2 10YR5/1褐灰色砂質シルト
- 5 2.5Y4/1黄灰色粘土質シルト
- 3 2.5Y5/2暗灰黄色粘土質シルト

第37図 S K 21050平断面図

8調査区南部の $\Pi-18-3$ J地区で検出した。東一西に長軸を持つ楕円形で、長径2.8m、短径2.3m、深さ0.1mを測る。断面形状は、浅い皿形をしている。埋土は炭化物を含む細粒砂混砂質シルトの単一層である。遺物は出土していない。

S K 21053

8調査区東部のⅢ-19-3 A地区で検出した。北部がSD21164に切られている。隅丸方形をしており、長辺1.9m、短辺1.1m、深さ0.1mを測る。断面形状は、浅い逆台形をしている。埋土は灰色細粒砂混シルト質粘土の単一層である。時期不明の土師器、須恵器の小片が極少量出土した。

落ち込み (SO)

S O 21001

4調査区の $W-12-5\cdot6$ A地区で検出した。平面形状は不定形を呈するもので、南北幅8.9 m、東西幅2.3~3.9m、深さ約0.7mを測る。断面形状は逆台形を呈し、埋土はシルトブロックを多く含む細粒砂~粗粒砂を基調とするもので、一気に埋められたような状況である。第1-3面 S O13001・S O13002と類似する点が多く、同様の性格の遺構かもしれない。遺物は12世紀頃の中国製白磁碗や5世紀代の須恵器の他、時期不明の丸瓦が出土している。なお、溝群は当遺構埋没後に掘削されている。

溝 (SD)

S D 21001

1調査区のVI-10-10I・J地区にかけて東一西に伸びる溝である。検出長9.5m、幅3.5m、深さ0.43mを測る。断面形状は逆台形を呈する。埋土は中層から下層には極細粒砂混シルト〜細砂が堆積し、上層には砂礫混じりのシルトが堆積する。上層で唯一古墳時代後期の須恵器甕片が出土しているが、遺物はこれ1点のため時期を確定することはできない。なお、調査区の西側で平成11年度に(財)大阪府文化財調査研究センターが実施した調査の99-1トレンチでは、この溝が西側に伸びて飛鳥時代の水田を切ることが確認されている。

S D 21002

1調査区のVI-10-10I-VII-11-1 A地区にかけて東一西に伸びる溝である。東端が井戸 S E 21001に接し、西側は削平を受けている。検出長14.7m、幅0.7m、深さ0.12mを測り、断面形状はレンズ状を呈する。埋土はにぶい黄褐色粗砂粒混粘土質シルトで、土師器、瓦器椀の小片と須恵器甕及び壺の小片が出土している。 S E 21001の西側から伸びており、井戸に伴う排水溝であったことが考えられる。

S D 21003

1調査区のW-11-1 A・B~2 A地区で検出した。南-北に伸びる溝で、中央部は撹乱に切られている。検出長14.5m、幅0.2m、深さ0.1~0.15mを測り、断面形状は逆台形状を呈する。埋土はにぶい黄褐色系のシルト質粘土が 3~5層に分層される。土師器及び瓦器椀、瓦の細片が出土している。

S D 21004

1調査区のW-11-2 A~W-11-1 B地区にかけて南一北に伸びる。検出長17.5m、幅0.6~1.8m、深さ0.1~0.24mを測り、断面形状は皿状を呈する。埋土の黄褐色粘土質シルトは大きくは2層に分けられ、上部は粗粒砂を、下部は細粒砂を含んでいる。北側でラインが乱れ、埋土にブロックが混じることから人為的に埋められたものと推定される。遺物は土師器、須恵器、瓦器椀、瓦質土器等の小片が混在して出土している。最も新しい遺物である瓦質土器の特徴から、構築時期は室町時代後半と考えられる。

S D 21005

1調査区のW-11-2 B地区で検出した。東一西に伸びる溝で、SD21006を切っている。長さ2.4m、幅0.4m、深さ0.08mを測る。断面形状は逆台形で、埋土は灰オリーブ色シルト質粘土の単一層である。

S D 21006

1調査区のWI-11-2 A・B~WI-11-1 B地区にかけて南-北に伸びる溝で、一部 S D 21005に切られている。検出長17.5m、幅0.6~1.2m、深さ0.12mを測り、断面形状は皿状を呈する。埋土は粗粒砂を含むシルト~シルト質粘土で、土師器、須恵器、瓦器椀、陶器(備前焼)、平瓦の細片の他に土錘が出土している。構築時期は室町時代後期である。

S D 21007

2調査区西部のW-11-2・3 B地区で検出した。北北東-南南西に伸びるもので、北端はSK21003に切られている。検出長9.2m、幅0.6m前後、深さ0.23mを測る。埋土はU字形を呈す

る断面形状に沿って2層が堆積している。遺物は土師器の小片が極少量出土している。

S D 21008

2調査区西部のW-11-1 C、2 B・C、3 B地区で検出した。北北東-南南西に伸びるもので、S K 21003に切られている。検出長17.5m、幅0.4~0.75m、深さ0.22mを測る。埋土はU字形を呈する断面形状に沿って 2 層が堆積している。遺物は土師器、瓦器椀、白磁碗の小片が極少量出土している。

S D 21009

2調査区西部のW-11-2 C地区で検出した。北北東-南南西に伸びるもので、全長1.8m、幅0.45m、深さ0.04mを測る。断面形状は逆台形を呈する。埋土は灰オリーブ色シルト質粘土の単一層である。遺物は瓦器椀の小片が極少量出土している。

S D 21010 (図版二一)

2調査区西部の $\Pi-11-1\sim3$ C地区で検出した。北北東-南南西に蛇行気味に伸びるもので、検出長17.3m、幅 $0.2\sim0.3$ m、深さ0.05mを測る。断面形状は逆台形を呈する。埋土は暗灰黄色シルト質粘土の単一層である。遺物は土師器小皿、瓦質土器甕等の小片が極少量出土している。

S D 21011 (図版二一)

2調査区西部の $W-11-1\sim3$ C地区で検出した。北北東-南南西に伸びるもので、検出長 17.5m、幅 $0.25\sim0.3$ m、深さ0.21mを測る。埋土はV字状を呈する断面形状に沿って2層が堆積している。遺物は土師器、須恵器、瓦質土器、屋瓦類等の小片が出土している。

S D 21012 (図版二一)

S D 21011の東側で検出した。北北東-南南西に伸びるもので、一部 S K 21004に切られている。 検出長17.5m、幅1.13~1.8m、深さ0.49mを測る。溝底には北部で2条、南部で1条の溝状遺 構が確認され、この部分については、本遺構構築以前の遺構であった可能性がある。埋土は8層 が断面形状に沿ってレンズ状に堆積している。遺物は瓦質土器鉢、陶器甕・唐津焼碗、肥前焼系 磁器碗、屋瓦類の小片が少量出土している。本来の構築面は第1-2面上面である。時期的には 江戸時代後期に比定される。

S D 21013 (図版二一)

S D21012の東側約 $0.2\sim0.6$ mの間隔を開けてほぼ並行して伸びる。S D21014を切っている。 検出長17.5m、幅 $3.8\sim4.3$ m、深さ0.58mを測る。埋土は浅い椀形の断面形状に沿って12層が堆積している。遺物は土師器炮烙、須恵器、陶器、肥前系磁器碗の他、煙管の吸い口等が少量出土している。構築面はS D21012同様、第1-2 面上面で、時期的にもS D21012と同様、江戸時代後期に比定されよう。

S D 21014 (図版二一)

2調査区中央部の $W-11-2\cdot 3$ D地区で検出した。ほぼ南-北に伸びるもので、北端はSD 21013に切られている。検出長12.5m、幅1.6 \sim 1.9m、深さ3.3mを測る。埋土は半球形の断面形状に沿って4層が堆積している。遺物は土師器杯、須恵器等の小片が少量出土している。

S D 21015

2調査区で検出した。北北東-南南西に伸びるもので、SD21013およびSD21014に切られているため西肩は不明である。検出部分で、検出長17.7m、幅3.2m、深さ0.08mを測る。断面形

状は皿状で、埋土は2層から成る。遺物は土師器土釜、瓦器椀の小片が少量出土している。

S D 21016

SD21015の東側で検出した。北北東-南南西に伸びるもので、東肩はSD21017に切られている。検出長17.8m、幅 $0.9\sim1.3$ m、深さ0.14mを測る。埋土は3層から成る。遺物は土師器小皿、須恵器、瓦器椀等の小片が少量出土している。

S D 21017

SD21016の東側で検出した。北北東-南南西に伸びるもので、SD21016の東肩およびSD21018の西肩を切っている。検出長17.7m、幅 $0.9\sim1.3$ m、深さ0.25mを測る。埋土は半円形を呈する断面形状に沿って 3 層が堆積している。遺物は土師器土釜、須恵器高杯、瓦器椀等の小片が少量出土している。

S D 21018

SD21017の東側で検出した。北北東-南南西に伸びるもので、西肩はSD21017に切られている。検出長17.7m、幅 $0.6\sim0.9$ m、深さ0.11mを測る。埋土は3層から成る。遺物は土師器高杯等の小片が極少量出土している。

S D 21019

S D 21018の東側で検出した。北北東-南南西に伸びるもので、検出長17.7m、幅 $0.3\sim0.9$ m、深さ0.12mを測る。埋土はV字状の断面形状に沿って2層が堆積している。遺物は出土していない。

S D 21020

SD21019の東側で検出した。北北東-南南西に伸びるもので、南部の東肩が近代の撹乱により削平を受けている。検出長17.7m、幅2.7~3.4m、深さ0.45mを測る。断面形状は逆台形を呈する。埋土は11層に分層が可能で、堆積状況からみて幾度かの掘り返しが行われたことを示している。遺物は土師器、須恵器、瓦質土器、中国製青磁、陶器-備前焼・唐津焼、磁器-肥前焼、平瓦等の雑多な土器類の小片が出土している。第2-1面で捉えたが本来の構築面は第1-1面上面である。時期的には江戸時代後期に比定されよう。

S D 21021

SD21020の東側で検出した。北北東-南南西に蛇行気味に伸びるもので、南端は近代の撹乱により削平を受けている。検出長11.7m、幅 $0.6\sim1.2m$ 、深さ0.04mを測る。埋土は灰オリーブ色シルト質粘土の単一層である。遺物は土師器小皿、須恵器、中国製青磁碗等の小片が少量出土している。

S D 21022~ S D 21040、 S D 21042~ S D 21050

2調査区東部から3調査区西部にかけて検出した溝群である。概ね北北東-南南西に伸びるもので、SD21048を除けば幅0.12~0.5m、深さ0.03~0.13mを測る。埋土はどの遺構も極細粒砂~中粒砂混シルト質粘土の単一層である。出土遺物は、SD21024・SD21026・SD21028~SD21037・SD21039・SD21044から土師器、須恵器、瓦器等の小片が少量出土している。遺構の性格としては、掘削方向や規模の共通性からみて、生産域に関連した牛馬耕に伴う犂溝と推定される。各溝の法量は、次頁の第11表にまとめた。

第11表 2 · 3 調査区 第 2 - 1 面 S D 21022~ S D 21040、 S D 21042~ S D 21050法量表

遺構番号	地区	長さ(m)	幅(最大)(m)	深さ(m)	断面形状	出土遺物
S D 21022	VII - 11-2E	3.4	0.16	0.03	浅い皿形	
S D 21023	VII −11−2 · 3E	11.7	0.40	0.08	椀形	
S D 21024	"	5.9	0.16	0.03	浅い皿形	土師器、須恵器
S D 21025	VII −11−3 · 4E	2.6	0.12	0.03	浅い椀形	
S D 21026	VII-11-2F~4E	15.5	0.43	0.04	浅い皿形	土師器、須恵器、瓦器
S D 21027	"	17.7	0.30	0.03	"	
S D 21028	VII −11−2 · 3F	4.4	0.55	0.13	浅い椀形	土師器、須恵器
S D 21029	VII-11-3F~4E	13.2	0.28	0.07	"	土師器
S D 21030	VII −11−2F~4E	17.7	0.15	0.07	浅いV字形	土師器、陶器、瓦
S D 21031	VII −11−2 · 3F	5.4	0.38	0.10	浅い皿形	土師器
S D 21032	"	10.9	0.40	0.08	浅いV字形	"
S D 21033	"	5.0	0.30	0.09	浅い皿形	土師器、瓦器
S D 21034	VII −11−3 · 4F	9.2	0.30	0.06	"	"
S D 21035	VII-11-3F	5.0	0.43	0.06	皿形	土師器、須恵器
S D 21036	"	2.3	0.40	0.07	浅い皿形	11
S D 21037	VII-11-2 ⋅ 3F	4.6	0.30	0.12	浅い逆台形	土師器、須恵器、瓦質土器
S D 21038	VII-11-2F	2.1	0.31	0.10	逆台形	
S D 21039	VII −11−3F	1.9	0.15	0.05	浅いV字形	瓦器
S D 21040	VII - 11 - 4E	0.6	0.18	0.10	V字形	
S D 21042	VII -11-4F	5.7	0.40	0.05	浅い逆台形	
S D 21043	VII −11−3 · 4F	7.0	0.30	0.03	浅い皿形	
S D 21044	"	9.5	0.25	0.04	浅いV字形	土師器、須恵器
S D 21045	"	12.5	0.60	0.07	V字形	
S D 21046	VII −11−2 · 3F	6.0	0.18	0.04	浅い椀形	
S D 21047	WI-11-3F	8.0	0.22	0.06	椀形	
S D 21048	VII−11−3 · 4F	6.5	0.95	0.05	浅い皿形	
S D 21049	VII -11-4F	0.5	0.25	0.03	11	
S D 21050	VII-11-3 ⋅ 4G	18.0	0.50	0.13	浅い椀形	

S D 21041

3調査区北西部のⅢ-11-2・3 F地区で検出した。遺構の北部と西部が調査区外に至る。検出部分で東西長0.65m、南北長3.25mを測る。断面形状は浅い皿形を呈し、深さは0.05m前後を測る。埋土は灰色シルト(灰オリーブ色シルトがブロック状に混入する)の単一層である。遺物は、平安時代前期に比定される土師器、黒色土器片が出土している。

S D 21051

3調査区の $\Pi-11-4$ G地区で検出した。東方に少しカーブしながら南北に伸びる溝である。遺構の南部分が調査区外に至るため全容は不明であるが、検出部分で長さ1.3m、幅0.27mを測る。深さは0.05mと浅く、断面形状は浅い半円形を呈する。埋土は暗灰黄色シルトの単一層である。遺物は土師器の小片が少量出土している。

S D 21052

3調査区のW-11-3 G・H、 $4\cdot 5$ G地区で検出した。S K 21018とS K 21019に切られ、また北部でS E 21002、南部でS D 21053とS D 21054を切っている。検出長18m、幅 $1.34\sim 1.4m$ を測る。深さは、北側で0.36m、南側で0.32mを測り、北に向かうにつれて深くなっている。埋土は粘土~粘土質シルトがレンズ状に堆積している。遺物は土師器、須恵器、黒色土器等が少量出土したが、いずれも小片である。最も新しい時期の瓦質土器は室町時代以降のものと推測されることから、その時期までは機能していたのであろう。

S D 21053 · S D 21054

3 調査区のWI-11-4 G・H、5 G地区で検出した。南西-北東に伸びる溝である。両溝ともに南端がS D21052に切られている。規模は、S D21053が検出長8.5m、幅0.25m、S D21054が検出長3.5m、幅0.2mを測る。断面はそれぞれ浅い逆蒲鉾状を呈し、その深さは0.06m前後と浅い。埋土は暗灰黄色シルト質粘土の単一層である。遺物は土師器の小片が極少量出土している。

S D 21055

3調査区のWI-11-4・5 G・H地区で検出した。南一北に伸びる溝である。南部は調査区の外に続く。検出部分で長さ3.5m、幅1.4mを測る。断面形状は浅い皿状を呈し、深さは0.05mである。埋土は灰色中粒砂混粘土の単一層である。遺物は土師器の小片が極少量出土している。

S D 21056 · S D 21057

3 調査区のW-11-4・5 H地区で検出した。南一北に伸びるもので、SD21056はSD21057の西肩を切っている。検出部分でSD21056が長さ10.4m、幅 $0.27\sim0.6$ m、深さ0.08m、SD21057が長さ4.6m、幅0.35m、深さ0.06mを測る。断面形状は浅い逆三角形を呈し、埋土は粘土~粘土質シルトの単一層である。遺物は出土していない。

S D 21058 · S D 21059 、 S D 21061 ~ S D 21078 、(写真 9 、図版二二)

3調査区の東部で検出した小溝群である。北北東-南南西に伸びるもの(SD21058·SD21059·SD21061~SD21068)とこれらの溝に直交して東西方向に伸びるもの(SD21069~SD21078)がある。切り合い関係からみて、後者のほうが古い。規模は、北北東-南南西方向に伸びる溝群が長さ18m以上、幅0.3m前後を測る。断面形状は浅い皿状のものが多く、深さは0.05m前後を測る。埋土は灰色極粗粒砂混粘土の単一層である。一方、東西方向に伸びる溝群は、長さ5.0m前後、幅約0.2mを測る。断面形状は浅い逆二等辺三角形状を呈するものが大半で、深さは0.25m前後を測る。埋土は灰色極粗粒砂混粘土の単一層である。東西方向に伸びる溝群は、南北方向に伸びるSD21058とSD21068に区画された間隔が約10mを測ることから、この範囲が条里区画内を長地型に利用した場合の一単位に相当する可能性が高い。出土遺物は、SD21062・SD21066・SD21068で認められるが、土師器、須恵器、瓦器椀の小片がほとんどである。出土した中で最も新しい遺物である瓦器椀は、外面に指頭圧痕が顕著に残るもので13世紀以降に比定されるため溝群の構築時期は鎌倉時代以降と推測される。

S D 21060

3調査区のⅢ-11-3・4 I、4・5 H地区で 検出した。南-北に伸びるもので、南・北部分が 調査区外に至るためその全容は明らかでない。検 出部分で、検出長18m、幅0.7mを測る。断面形 状は浅い皿状を呈し、深さは0.05mを測る。埋土 は灰色中粒砂混粘土の単一層である。遺物は、土 師器、須恵器、黒色土器(B類)、瀬戸美濃焼等 の小片が少量出土した。出土遺物からみて、近世 前半頃まで機能していたと推測される。

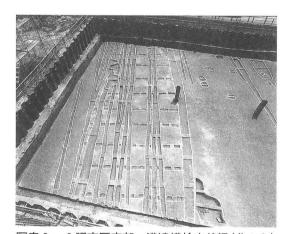


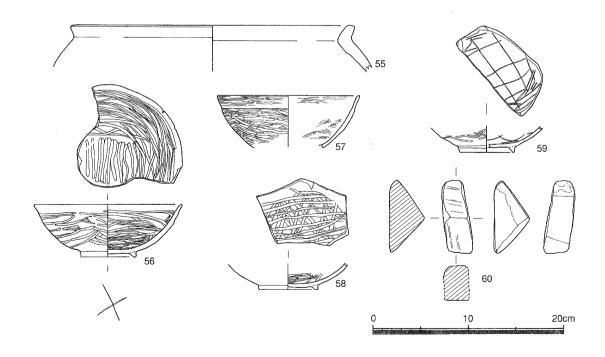
写真 9 3 調査区東部 溝遺構検出状況(北から)

S D 21079~ S D 21098 (図版二二)

4調査区の $W-11-4\sim6$ J、 $W-12-4\sim6$ A地区で検出した溝群である。北北東-南南西方向の溝($SD21079\sim SD21086 \cdot SD21097 \cdot SD21098$)とこれらに直交する方向の溝($SD21087\sim SD21096$)がある。前者が後者を切る関係にあるが、 $SD21097 \cdot SD21098$ のみが東西方向の溝に合流するもので、同時期に機能していたと考えられる。なお、断面観察から北北東-南南西方向の溝 $SD21079\sim SD21086$ は第 1-2 面構築の遺構と捉えられる。SD21096から室町時代中期($15\sim16$ 世紀)頃の土器類が出土していることから、これを $SD21087\sim SD21096$ の時期の目安とすると、これらの遺構を切る $SD21079\sim SD21086$ は室町時代後期~江戸時代前期($16\sim17$ 世紀)頃に比定されよう。

S D 21099 (第38図、図版五二)

5調査区の北西部のW-12-6 E・F地区で検出した。検出部分では、逆「く」字を呈しており、東部は近世の撹乱により削平、西部は調査区外に至る。検出長3.5m、幅3.6m以上、深さ0.32mを測る。埋土は断面形状に沿って上層、下層の2層が堆積している。遺物は上層から12世紀前半~中葉に比定される、土師器土釜・小皿、瓦器椀、中国製白磁碗等の小片のほか砥石が少量出土している。6点(55~60)を図化した。55は土師器土釜の口縁部の小片である。56~59は和泉型瓦器椀である。56・57の体部外面のヘラミガキは分割して行われており、56がやや粗く、57が密である。見込みのヘラミガキは56が一定方向、58が斜格子文+平行線文、59が粗い格子文を施す。高台は「ハ」の字に貼り付けられており、端部は面を持つ56・58と、断面三角形を呈する59がある。56の底部外面には「×」の記号を焼成後に施している。形態からみて56~58が12世紀前半、59が12世紀中葉に比定される。60は流紋岩製の砥石である。三角形の形状で3面に使用痕が認められる。



第38図 S D 21099出土遺物実測図

S D 21100

SD21099の南側で検出した。北部をSD21099、南部をSK21032に切られており、検出部分では「く」の字状を呈する。検出長1.6m、幅 $0.35\sim0.7$ m、深さ0.11mを測る。埋土はにぶい黄褐色粗粒砂混砂質シルトの単一層である。遺物は土師器、須恵器の小片が極少量出土しているが、時期を限定できるものはない。

S D 21101

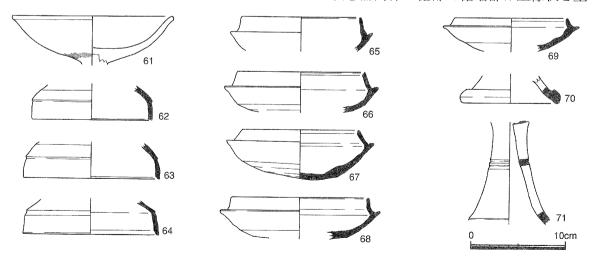
5調査区のW-12-7 E地区で検出した。東西方向に伸びる小溝で、東端は近代の撹乱により削平を受けている。検出部分で長さ2.2m、幅 $0.2\sim0.45$ m、深さ0.05mを測る。埋土は黄灰色砂質シルトの単一層である。遺物は土師器、須恵器の小片が極少量出土しているが、時期を限定するに至っていない。

S D 21102

SD21101の南側で検出した。北東-南東方向に伸びる小溝で、北東部は近代の撹乱、南東部はSK21034に切られ、SP21036・SP21041を切っている。検出長0.9m、幅0.45m、深さ0.07mを測る。埋土は灰黄褐色中礫混砂質シルトの単一層である。遺物は土師器、須恵器の小片が出土しているが、時期は明確でない。

S D 21103 (第39図、図版五二)

5調査区の西部の $W-12-6\sim8$ F地区で検出した。南一北に伸びる溝で、一部がS E 21004に切られているほか、S D 21104・S D 21105を切っている。検出部分で長さ14.5m、幅1.15~4.1m、深さ0.28mを測る。埋土は3層から成る。遺物は6世紀中葉を中心とする土師器高杯・土釜、須恵器杯身・高杯等の土器類が少量出土している。11点($61\sim71$)を図化した。その内訳は、土師器高杯 1点(61)、須恵器杯蓋 3点($62\sim64$)・杯身 5点($65\sim69$)、高杯 2点($70\cdot71$)である。61は土師器高杯で杯部は完存している。口径16.7cmを測る。 $62\sim64$ は須恵器杯蓋でいずれも1/8程度の小片である。62は稜が鈍いもので口縁端部は平らで内傾する、 $63\cdot64$ は段を有し内傾する。 $65\sim69$ は須恵器杯身で、67がほぼ完形で他は1/4程度が残存している。受部の形態では、外上方に伸びる $65\cdot68$ と水平方向に伸びる $66\cdot67\cdot69$ がある。立ち上がりの方向は内傾して伸びる $66\cdot67\cdot69$ と、内傾後直立して伸びる $65\cdot68$ がある。70は須恵器高杯の裾部で裾端部は玉縁状を呈す



第39図 S D 21103出土遺物実測図

る。71は2段スカシ孔を有する高杯の脚部である。時期的には61の土師器高杯が5世紀代、須恵器類では69がMT85型式(6世紀後半)でそれ以外はMT15型式~TK10型式(6世紀前半~中葉)に比定される。

S D 21104

5調査区の $WI-12-6 \cdot 7$ F地区で検出した。南一北に伸びるもので、南端はSD21103に切られている。検出長5.7m、幅 $0.4\sim0.7$ m、深さ0.09mを測る。埋土は褐灰色砂質シルトの単一層である。遺物は土師器、須恵器の小片が極少量出土している程度で時期は明確でないが、本遺構を切るSD21103からみて、構築時期は6世紀中葉以前が想定される。

S D 21105

5調査区のW-12-6・7 F地区で検出した。SD21104の東側に近接している。南-北に伸びるもので、南端はSD21103に切られている。検出長11.7m、幅 $0.8\sim1.1$ m、深さ0.14mを測る。埋土は2層から成る。遺物は出土していないが、SD21104と同様SD21103に切られていることから、構築時期は古墳時代後期中葉(6世紀中葉)以前と想定される。

S D 21106

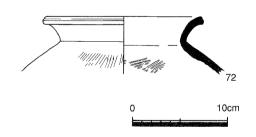
5調査区の $W-12-6\sim8$ F・G地区で検出した。南-北に伸びるやや幅広の溝で、検出長 14.5 m、幅4.5~5.0 m、深さ0.3 mを測る。埋土は6層に分層が可能である。遺物は古墳時代から近世に比定される土器類の小片が出土している。

S D 21107

SD21106の東側に隣接し、ほぼ並行して伸びる溝である。検出長13.7m、幅1.65~2.3m、深さ0.25mを測る。埋土は3層で構成されている。遺物は土師器、須恵器、瓦器の小片が少量出土している。北部では、同遺構の下部から11世紀末~12世紀初頭のSE22001が確認されていることから、時期的には平安時代後期前半(12世紀初頭)以降が想定される。

S D 21108 (第40図、図版五二)

5調査区東部のⅢ-12-7・8 H地区で検出した。 南-北方向に伸びるもので、北部でS K 21040の東肩を切っている。検出長11.8m、幅0.9~2.0m、深さ0.08mを測る。埋土は灰黄褐色粗粒砂混砂質シルトの単一層である。遺物は古墳時代後期に比定される土師器、須恵器の小片が極少量出土している。須恵器甕1点(72)を図化した。72は口縁部が「く」の字に屈曲外反するもので、内傾する端面に1条の沈線を巡らす。古墳時代後期中葉(6世紀中葉)に比定される。



第40図 SD21108出土遺物実測図

S D 21109

SD21108の東側に隣接して、並行に伸びるもので、東肩はSD21110に切られている。検出長10.4m、幅0.65~0.9m、深さ0.06mを測る。埋土は灰黄褐色粗粒砂混砂質シルトの単一層である。遺物は古墳時代後期に比定される土師器、須恵器、瓦器椀の小片が極少量出土している。構築時期は平安時代後期と推定される。

S D 21110

一部でSD21109の東肩を切って南一北に伸びるもので、検出長14.5m、幅1.5~1.8m、深さ0.09mを測る。埋土は灰黄褐色粗粒砂混砂質シルトの単一層である。遺物は一部の混入遺物を除けば、6世紀末~7世紀前半に比定される土師器、須恵器、瓦器椀、緑釉陶器の小片が少量出土している。構築時期は平安時代後期と推定される。

S D 21111

5調査区の東部の $W-12-7\sim9$ I 地区で検出した。南一北に伸びるもので、検出長14.5m、幅1.2~1.8m、深さ0.11mを測る。埋土は灰黄褐色粗粒砂混砂質シルトの単一層である。遺物は出土していない。

S D 21112

5調査区東部の $\Pi-12-7\cdot8$ I 地区で検出した。南一北に伸びるもので、北部で S K 21041、S K 21042に切られている。検出長12.5m、幅1.0 \sim 1.8 m、深さ0.06mを測る。埋土は2層から成る。遺物は6世紀末に比定される土師器、須恵器の小片が極少量出土している。

S D 21113

6調査区中央部のW-13-8・9A地区で検出した。南-北に伸びるもので、SK21043・SD21115・SD21116に切られている。検出長14.0m、幅1.7m、深さ0.15mを測る。埋土は褐色細粒砂混砂質シルトの単一層である。遺物は土師器、須恵器、黒色土器の小片が出土している。遺物には一部新しい時期のものが含まれているが、切り合い関係から、構築時期は古墳時代中期が考えられる。

S D 21114 (第41図)

6調査区のW-13-8 A地区で検出した。東-西に伸びるもので、西端はS D 21115に切られている。検出長3.5 m、幅0.5 m、深さ0.09 mを測る。埋土はにぶい黄褐色粘土質シルトの単一層である。遺物は土師器、須恵器が極少量出土している。須恵器杯身1 点(75)を図化した。75は1/6程度が残存している。水平に伸びる受部から立ち上がりは内傾して伸びるもので、端部は段を有し内傾する。MT15型式(6 世紀前半)に比定される。

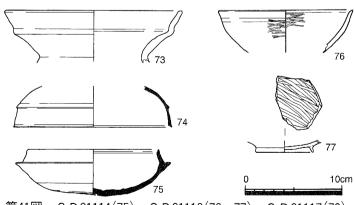
S D 21115

6調査区のW-12-8 J、W-13-8 A地区で検出した。東-西に伸びるものでS D21113・S D21114を切り、S K 21044に切られている。検出長8.6m、幅1.3m、深さ0.14mを測る。埋土

は粘土質シルトを主体とする4層から成る。遺物は土師器、須恵器、黒色土 器が極少量出土している。

S D 21116 (第41図)

6調査区の〒-12-8 J、〒-13-8 A地区で検出した。東-西に伸びるものでSD21113を切り、SK21045に切られている。検出長8.15m、幅0.9m、深さ0.19mを測る。埋土は灰黄褐色粘土質シルトの単一層である。遺物



第41図 S D 211114(75)、S D 211116(76・77)、S D 211117(73)、 S D 211118(74)出土遺物実測図

は土師器、須恵器、瓦器椀の小片が少量出土している。瓦器椀2点(76・77)を図化した。76は 瓦器椀体部の小片である。体部外面に水平方向のヘラミガキが行われている。77は瓦器椀の底部 で約1/2が残存している。見込み部分に一定方向の密なヘラミガキが行われている。11世紀末~ 12世紀初頭に比定されよう。

SD21117 (第41図)

6調査区のWI-13-9 A地区で検出した。南一北に伸びるもので北部が近代の撹乱、南部が S K 21047に切られている。検出長4.8m、幅1.95m、深さ0.11mを測る。埋土は灰黄褐色細粒砂 混粘土質シルトの単一層である。遺物は土師器等の小片が極少量出土している。遺物は土師器壷 1 点(73)を図化した。二重口縁を有するもので、古墳時代前期後半(布留式期新相)に比定されるものであるため混入品と理解される。構築時期は、古墳時代後期前半(6世紀前半)に比定される S K 21047に切られていることから、それ以前が考えられる。

S D 21118 (第41図)

6調査区のW-13-9 A地区で検出した。東-西に伸びるものでSD21119を切っている。検出長7.1m、幅1.4m、深さ0.09mを測る。埋土は粘土質シルトの2層から成る。遺物は土師器、須恵器の小片が極少量出土している。須恵器杯蓋1点(74)を図化した。74は天井部が丸味を持ち高く立ち上がるもので、やや器壁が薄い。古墳時代中期後半(5世紀後半)の所産と考えられる。

S D 21119

6調査区のW-13-9 A・B地区で検出した。東一西に湾曲して伸びるものでS D21118に切られている。検出長8.6m、幅0.8m、深さ0.09mを測る。埋土は暗灰黄色粘土質シルトの単一層である。遺物は土師器、須恵器の小片が極少量出土している。

S D 21120

6調査区のW-13-8・9 B地区で検出した。東一西に伸びるもので、検出長3.4m、幅1.0m、深さ0.08mを測る。埋土は粘土質シルトを主体とする 2 層から成る。遺物は出土していない。

S D 2112

6調査区の $\Pi-13-8\cdot 9$ B地区で検出した。南一北に湾曲して伸びるもので S K 21050を切っている。検出長6.8m、幅1.0m、深さ0.07mを測る。埋土は灰色砂質シルトの単一層である。遺物は土師器、須恵器の小片が極少量出土している。

S D 21122

6調査区の $W-13-9\cdot 10$ A・B、9 C地区で検出した。南東-北東に伸びるもので、南部では2本の畦により3方に分流されている。検出長16.0m、幅10.3m、深さ0.27mを測る。埋土は1層から成る。遺物は土師器、須恵器、国産陶器(京焼)、平瓦が出土している。構築時期は近世前半である。

S D21123~ S D21130

6 調査区の東部から 7 調査区の西部で検出した。すべて東-西に伸びるもので、検出長5.2~33.3m、幅0.5~1.9m、深さ0.07~0.18mを測る。埋土は極細粒砂混じり粘土質シルトを主体とするもので、2~4 層に分層される。遺物は土師器、須恵器、瓦器、国産陶磁器、中国製磁器等の小片が出土している。性格としては、耕作に関連するものとみられる。各溝の法量を次頁の第12表にまとめた。

第12表 6 · 7 調査区 第 2 - 1 面 S D 21123~ S D 21130法量表

遺構番号	地区	長さ (m)	幅(最大)(m)	深さ(m)	断面形状	出土遺物
S D 21123	VII −13−9C • D	6.0	0.5	0.07	U字形	須恵器、瓦質土器
S D 21124	"	8.6	0.9	0.16	逆台形	土師器、須恵器、瓦質土器、磁器
S D 21125	"	9.4	1.3	0.12	"	"
S D 21126	"	7.2	0.7	0.11	"	土師器、須恵器
S D 21127	VII-13-10C	5.2	1.0	0.13	"	"
S D 21128	VII-13-10B∼F	33.3	1.9	0.18	"	土師器、須恵器、陶磁器
S D 21129	VII-13-10C	5.4	0.8	0.15	"	土師器、須恵器、磁器
S D 21130	VII −13−10C • D	9.0	0.5	0.12	"	土師器、須恵器、瓦質土器、磁器

S D21131~ S D21143

7調査区の中央部から8調査区の西部で検出した。 近世初頭に構築された島畑間に存在する水田の下位面 および島畑上面で検出された小群溝で、すべて東一西 に伸びている。幅は0.2~0.7m前後、深さ0.06~0.2 mを測る。溝の埋土は細粒砂を多く含んだ粘土質シル トの単一層である。遺物はSD21136から土師器、須 恵器、陶磁器の小片が少量出土している。各法量は、 下記の第13表にまとめた。

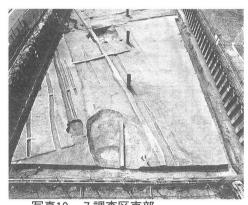


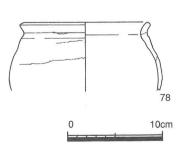
写真10 7調査区東部 溝遺構検出状況(東から)

第13表 7・8調査区 第2-1面 SD21131~SD21143法量表

遺構番号	地区	長さ (m)	幅(最大)(m)	深さ(m)	断面形状	出土遺物
S D 21131	VII -18-1E	4.5	0.4	0.06	浅い皿形	
S D 21132	11	1.8	0.4	0.06	"	
S D 21133	VII −18−1E•F	9.0	0.7	0.20	"	
S D 21134	"	5.2	0.7	0.10	U字形	
S D 21135	VII −18−1F•G	6.5	0.5	0.10	"	
S D 21136	VII-18-1G∼I	6.0	0.7	0.08	"	土師器·須恵器·陶磁器
S D 21137	VII −18−1F•G	7.2	0.6	0.06	"	
S D 21138	VII -18-1G	1.9	0.2	0.03	"	
S D 21139	"	0.8	0.3	0.05	"	
S D 21140	VII -18-1·2G	5.4	0.4	0.08	浅い椀形	
S D 21141	VII −18−2F•G	9.8	0.4	0.14	U字形	
S D 21142	VII -18-2G	8.2	0.5	0.10	浅い椀形	
S D 211//3	//	3.5	0.5	0.10	/,	

S D21144~ S D21177

8調査区全域で検出した。東一西と南一北に直線的に伸びるものが大半である。埋土は、極細粒砂混じり粘土質シルトの単一層が多い。遺物は全て小片化しており、しかも夾雑遺物が大半のため遺構の存続時期は決定し難いが、SD21162・SD21164・SD21169が平安時代前半、SD21154が室町時代前半、SD21177が近世に比定される。遺構の性格としては、農耕に関連するものとみられる。このうちSD21169から出土した土師器甕1点(78)を図化した。78は小さく外反する口縁部を有する中形の土師器甕である。10世紀前半に比定される。各遺構の法量等の詳細は、次頁の第14表にまとめた。



第42図 S D 21169出土遺物 実測図

第14表 8調査区 第2-1面 SD21144~SD21177法量表

遺構番号	地区	長さ (m)	幅(最大)(m)	深さ(m)	断面形状	出土遺物
S D 21144	VII - 18 - 1H	2.6	0.30	0.02	浅い皿形	
S D 21145	VII-18-1I	1.4	0.40	0.12	椀形	
S D 21146	VII-18-1H∙I	6.5	0.40	0.12	U字形	土師器(台付甕)、須恵器、備前焼
S D 21147	VII-18-2I	4.0	0.20	0.05	"	
S D 21148	VII-18-1I	6.5	0.40	0.12	"	土師器
S D 21149	VII-18-2I	4.0	0.20	0.05	"	
S D 21150	VII-18-1·2I	2.8	0.30	0.06	"	
S D 21151	VII-18-2H	0.5	0.15	0.04	"	
S D 21152	"	5.4	0.50	0.11	椀形	須恵器
S D 21153	"	5.2	0.80	0.07	浅い皿形	
S D 21154	"	5.2	0.50	0.05	椀形	土師器、須恵器
S D 21155	"	5.3	0.30	0.13	逆台形	"
S D 21156	"	5.6	0.80	0.09	浅い椀形	土師器、瓦質土器
S D 21157	"	8.0	0.50	0.08	"	土師器、須恵器
S D 21158	"	2.9	0.20	0.03	浅い皿形	
S D 21159	"	7.8	0.40	0.07	U字形	
S D 21160	WI-18-2 ⋅ 3I	6.0	1.00	0.07	浅い皿形	
S D 21161	WI-18-2 · 3I · J	7.0	2.00	0.10	逆台形	土師器、須恵器、瓦
S D 21162	VII-19-2 ⋅ 3A	16.3	1.60	0.24	椀形	土師器、須恵器、黒色土器(A類)
S D 21163	"	8.8	0.50	0.07	浅い椀形	
S D 21164	"	7.9	0.50	0.06	逆台形	土師器、須恵器、瓦質土器
S D 21165	"	9.2	0.60	0.10	"	土師器、須恵器
S D 21166	VII-19-3A	6.2	0.60	0.09	U字形	
S D 21167	VII-19-2 ⋅ 3B	7.6	0.70	0.05	"	
S D 21168	WI-19-3 ⋅ 4B	4.5	0.50	0.08	"	
S D 21169	VII-19-2 ⋅ 3B	9.4	0.05	0.11	"	土師器、須恵器
S D 21170	"	5.8	0.30	0.08	"	"
S D 21171	"	3.9	0.30	0.03	浅い皿形	
S D 21172	VII−19−2B	2.1	0.20	0.03	"	
S D 21173	VII −19−3A	1.7	0.60	0.13	U字形	
S D 21174	VII −19−3B	2.4	0.25	0.04	"	
S D 21175	"	2.4	0.30	0.03	"	須恵器
S D 21176	VII-19-3A⋅B	14.2	0.30	0.09	椀形	土師器
S D 21177	"	13.2	1.20	0.21	"	土師器、須恵器、磁器(唐津焼)

小穴・柱穴(SP)

総数で46個(SP21001~SP21046)を検出した。1調査区の北西部、3調査区南部、5調査 区西部で集中して検出されており、この部分については建物を構成した柱穴の可能性がある。それ以外については、散発的であることから生産域に関連した性格が推定される。

S P 21001 ~ S P 21015

1調査区北西部のVI-10-10 J、VII-6-10 A、VII-11-1 A地区で検出した。平面形状は、円形ないしは楕円形を呈するもので、幅 $0.16\sim1.26$ m、深さ $0.06\sim0.21$ mを測る。埋土は1 層~4層で構成されており、灰色~灰黄色の色調でシルト~粘土質シルトの層相である。遺物はSP 21005から土師器、SP 21007から土師器、須恵器の小片が出土している。掘方内の埋土の状況から一部は掘立柱建物を構成した柱穴の可能性がある。

第15表 1調査区 第2-1面 SP21001~SP21015法量表

遺構番号	地 区	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	平面形状	出土遺物
S P 21001	VI -10-10J	1.23	0.82	0.21	不整円形	
S P 21002	11	1.25	0.23	0.11	11	

遺構番号	地区	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	平面形状	出土遺物
S P 21003	VI-10-10J	0.64	0.27	0.10	不明	
S P 21004	"	0.60	0.60	0.10	円形	
S P 21005	"	0.90	0.90	0.09		土師器
S P 21006	"	0.90	0.20	0.12	不明	
S P 21007	"	0.37	0.35	0.10	不整円形	土師器、須恵器
S P 21008	"	0.30	0.22	0.10	楕円形	
S P 21009	"	0.90	0.30	0.10	不明	
S P 21010	"	0.18	0.16	0.10	円形	
S P 21011	"	0.24	0.20	0.08	楕円形	
S P 21012	VII − 6 −10A	0.44	0.26	0.07	11	
S P 21013	"	0.38	0.30	0.07	11	
S P 21014	"	0.45	0.35	0.06	11	
S P 21015	VII −11− 1 A	1.26	0.74	0.15	1/	

S P 21016 · S P 21017

2調査区の東部で検出した。共に円形を呈する。SP21016が、長径0.37m、短径0.33m、深さ 0.05mを測る。SP21017はSD21030を切るもので、長径0.28m、短径0.27m、深さ0.13mを測る。埋土はSP21016が灰オリーブ色細粒砂、SP21017が灰オリーブ色粘土である。遺物は出土していない。犂溝から成る小溝群中に存在することから、農耕に関連した遺構と推定される。

S P 21018~ S P 21024

3調査区の $\mathbb{W}-11-4\cdot 5$ G地区において \mathbb{S} P 21018 \sim \mathbb{S} P 21021を、 $\mathbb{W}-11-5$ I 地区において \mathbb{S} P 21022 \sim \mathbb{S} P 21024を検出した。これらの小穴は、建物を構成するような規格性は認められない。出土遺物も皆無であるため時期を決定するには至らない。

	第16表	3調査区	第2-1面	S P 21018~S P 21024法量
--	------	------	-------	-----------------------

遺構番号	地 区	長径 (m)	短径(m)	深さ(m)	平面形状	出土遺物
S P 21018	VII -11-4 G	0.22	0.22	0.06	円形	
S P 21019	"	0.29	0.20	0.06	楕円形	
S P 21020	"	0.27	0.27	0.06	円形	
S P 21021	WI-11-4 ⋅ 5 G	0.19	0.19	0.05	"	
S P 21022	VII-11-5 I	0.20	0.20	0.04	11	
S P 21023	"	0.25	0.10	0.05	楕円形	
S P 21024	"	0.40	0.28	0.07	"	

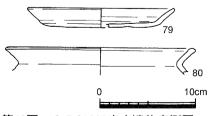
S P 21025

4調査区のⅦ-12-4 A地区で検出した。平面不定形で、規模は径約0.42m、深さ0.03mを測る。断面皿状を呈し、埋土はにぶい褐色極細粒砂混シルトの単一層である。深さ等からみて自然の凹みである可能性が高い。

S P 21026~ S P 21044

5調査区西部のⅥ-12-6・7E、7F地区で検出した小穴群で、SP21042~SP21044以外

は密集している。掘方平面の形状は円形を呈するものが大半を占める。規模は径0.16~0.58m、深さ0.04~0.23 mを測る。埋土は灰黄褐色粗粒砂混砂質シルトの単一層である。遺物は10箇所の小穴から土師器、須恵器の小片が極少量出土している。そのうち、時期が特定できるものはSP21026・SP21028・SP21041が古墳時代末期~



第43図 S P 21033出土遺物実測図

飛鳥時代初頭(6世紀末~7世紀初頭)、SP21033が平安時代初頭(9世紀前半)である。性格的には、掘立柱建物を構成した柱穴の可能性が高いがその規則性は見い出せなかった。他の遺構との関係では、近接する位置で検出されたSK21036が平安時代初頭(9世紀前半)に共存したものと考えられる。出土遺物の中で、図化可能なものはSP21033から出土した2点(79・80)である。79は土師器皿、80は土師器甕である。共に平安時代初頭(9世紀前半)に比定される。

2771/1X J III		0 1 2102	207 3 F 2102	コム主义		
遺構番号	地 区	長径 (m)	短径(m)	深さ(m)	平面形状	出土遺物
S P 21026	WI-12-6 E	0.30	0.26	0.23	円形	土師器、須恵器
S P 21027	"	0.28	0.16	0.13	楕円形	土師器
S P 21028	"	0.21	0.19	0.19	円形	土師器、須恵器
S P 21029	WI-12-7E	0.45	0.31	0.22	楕円形	"
S P 21030	"	0.25	0.20	0.15	円形	
S P 21031	"	0.40	0.24	0.16	楕円形	土師器、黒色土器
S P 21032	"	0.31	0.27	0.14	"	
S P 21033	"	0.50	0.50	0.12	円形	土師器、須恵器
S P 21034	· //	0.35	0.21	0.09	楕円形	
S P 21035	"	0.42	0.29	0.11	"	
S P 21036	"	0.58	0.42	0.06	不明	土師器、須恵器、黒色土器
S P 21037	"	0.32	0.28	0.12	円形	
S P 21038	"	0.25	0.20	0.09	"	
S P 21039	"	0.20	0.18	0.09	"	
S P 21040	"	0.30	0.21	0.09	楕円形	
S P 21041	"	0.48	0.36	0.04	不明	土師器、須恵器
S P 21042	WI-12-7 F	0.35	0.27	0.17	円形	
S P 21043	"	0.50	0.31	0.16	楕円形	土師器、須恵器
S P 21044	"	0.45	0.31	0.10	"	"

第17表 5調査区 第2-1面 SP21026~SP21044法量表

S P 21045

6調査区のWI-13-9 A地区で検出した。楕円形を呈し長径0.45m、短径0.35m、深さ0.09m を測る。埋土は2層から成る。遺物は時期不明の土師器・須恵器の小片が極少量出土した。

S P 21046

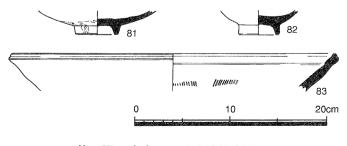
6調査区のⅦ-13-9 A地区で検出した。円形を呈し長径0.35m、短径0.34m、深さ0.04mを 測る。埋土は2層から成る。遺物は時期不明の土師器の小片が極少量出土した。

畦畔 (畦畔)

畦畔21001 (第44図)

7調査区の中央部から東部で検出した。東西方向に伸びるもので、検出長25.5m、上幅0.3~0.4m、下幅0.8mを測る。構築に際しては、粗粒砂混シルト質粘土を高さ約0.15m盛っている。遺物は古墳時代の須恵器高杯の他、肥前系磁器碗、京焼碗、丹波焼摺鉢等の小片が出土している。

3点(81~83)を図化した。81は伊万里 青磁の皿で、見込みに蛇の目釉剥ぎが行 なわれている。82は京焼の碗で、全体に € 細かい貫入が認められる。83は丹波焼の 摺鉢である。出土遺物からみて遺構の構 築時期は、江戸時代中期前半以降が推定 される。



第44図 畦畔21001出土遺物実測図

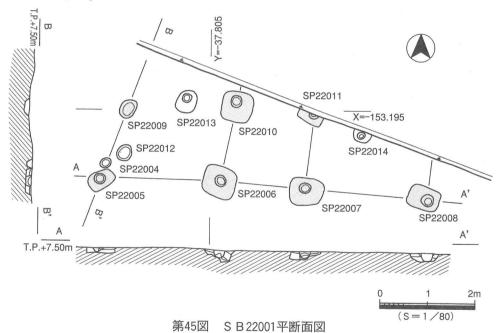
・第2-2面(古墳時代後期・平安時代後期)(第46図、図版二三~二五)

1調査区および5調査区で検出した。1調査区では第2-1面より0~0.3m下部の第Ⅲ層上面 (T.P.+7.6~7.3m)、5調査区では第2-1面より0.2~0.3m下部の第Ⅳ層上面 (T.P.+7.8~7.9m) で、古墳時代後期・平安時代後期に比定される遺構群を検出した。

検出した遺構には、掘立柱建物 1 棟 (SB22001)、井戸 1 基 (SE22001)、土坑 8 基 (SK22001 ~ SK22008)、溝19条 (SD22001~SD22019)、小穴19個 (SP22001~SP22019) がある。 掘立柱建物 (SB)

SB22001 (第45図、図版二四)

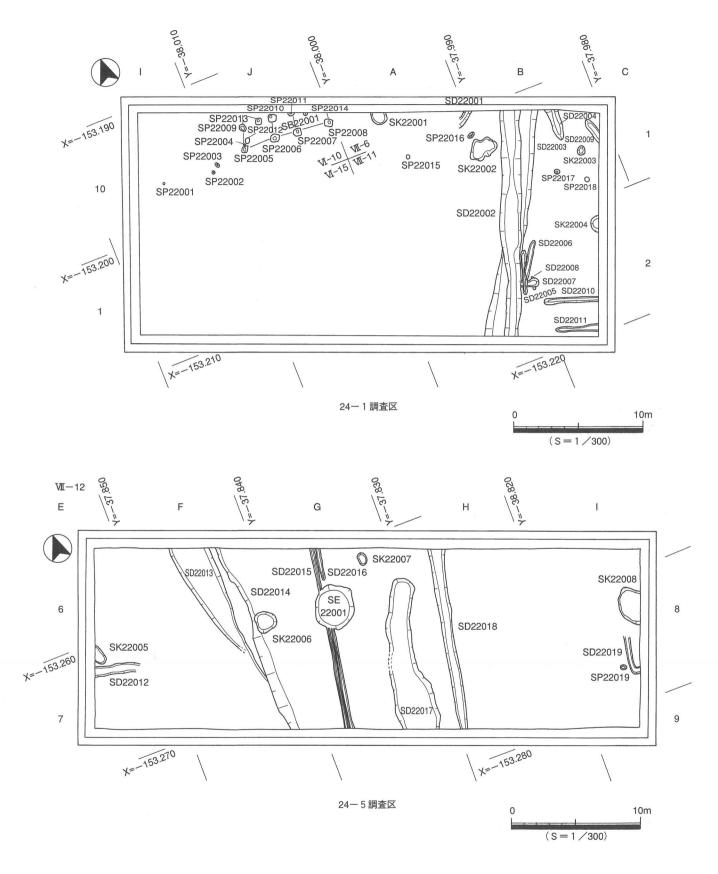
1調査区北西部のVI-10-10 J 地区で検出した掘立柱建物である。北部は調査区外に続くため全容は不明である。検出部分のS P 22005~S P 22011を柱穴とした場合、東西(桁行)3 間 $(6.9 \,\mathrm{m})$ ×南北(梁行)1 間 $(1.6 \,\mathrm{m})$ の規模が想定され、更に、北側に広がる東西棟建物であったと推定される。主軸はVI-13 — VI —



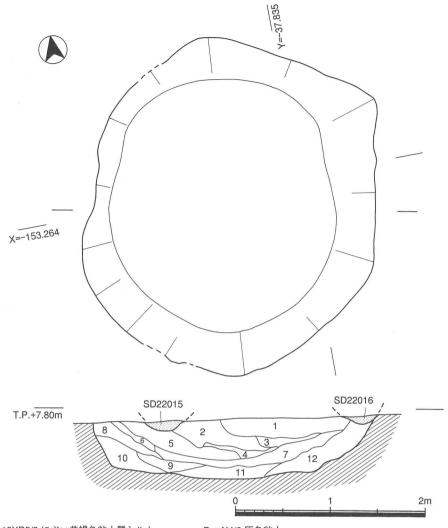
井戸(SE)

S E 22001 (第47·48図、図版二四·五三)

5調査区の中央部のⅢ-12-7 G地区で検出した。南-北に長軸を持つ楕円形を呈する素掘り井戸で、上部がSD22015・SD22016に切られている。長径3.5m、短径3.0m、深さ0.65mを測る。埋土は逆台形の断面形状に沿って12層がレンズ状に堆積している。遺物は11世紀後半に比定される、土師器小皿・台付皿・土釜、須恵器壷・鉢、瓦器椀、中国製白磁碗等の土器類の他、平



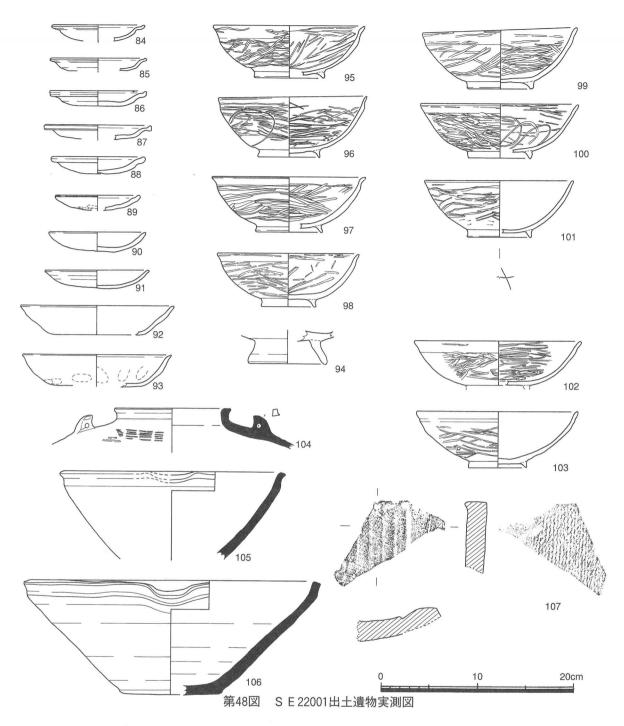
第46図 第2-2面平面図 (24-1調査区、24-5調査区)



- 1 10YR5/3 にぶい黄褐色粘土質シルト
- 2 10YR5/1 褐灰色極粗粒砂〜細礫混砂質シルト
- 3 2.5Y6/1 黄灰色粘土
- 4 N5/0 灰色粘土
- 5 10YR4/1 褐灰色砂質シルト
- 6 5Y6/1 灰色中粒砂混シルト
- 7 N4/0 灰色粘土
- 8 10YR4/2 灰黄褐色粗粒砂混砂質シルト
- 9 10BG7/1 明青灰色中粒砂混粘土質シルト
- 10 5Y5/1 灰色粗粒砂混砂質シルト
- 11 10BG6/1 青灰色中粒砂混粘土
- 12 2.5Y6/1 黄灰色粗~極粗粒砂にN7/0 灰白色粘土のブロック

第47図 S E 22001平断面図

瓦、山桃の種子が出土している。なお、第N層上面で遺構を検出したが、本来の構築面は第 \square 層上面(第2-1面)が想定される。遺物は24点($84\sim107$)図化した。そのうち $3\sim7$ 層から出土したものを上部出土遺物($84\cdot85\cdot87\cdot88\cdot90\sim92\cdot94\sim96\cdot100\sim104\cdot106\cdot107$)、 $8\sim14$ 層から出土したものを下部出土遺物($86\cdot89\cdot93\cdot97\sim99\cdot105$)と区別した。遺物の内訳は、土師器小皿 8点($84\sim91$)・中皿 2点($92\cdot93$)・高台付皿 1点(94)、瓦器椀 9点($95\sim103$)、須恵器童 1点(104)・鉢 2点($105\cdot106$)、平瓦 1点(107)である。1000 である。1000 であるので、1000 である。1000 であるのでは分割によるへうミガキ



が密に行なわれており、101については 1 次調整のヘラケズリが認められる。体部内面は不定方向に直線的なヘラミガキが全体に密に施されているが、100については一部輪花状に施されている。101の底部裏面には焼成前に「 \times 」の記号を入れている。和泉型瓦器椀の古相段階に散見される二次焼成時の円形状の剥離痕が $96\cdot 99\cdot 100\cdot 102$ に見られる。尾上編年の I-2 期(11世紀後半)に比定される。104は須恵器壷の小片である。おそらく双耳壷になるものと推定される。 $105\cdot 106$ は須恵器の捏鉢で残存率は105が1/12、<math>106が1/4程度である。東播系の中の魚住窯産と推定される。107は平瓦で凹面に模骨痕と細い布目、凸面に縦位の細い縄目叩き痕が残る。上部から出土した瓦器椀類の中には、下部出土の瓦器椀類に比して新しい様相を呈するものが含まれているが、遺構構築時期から廃絶時期は平安時代後期(11世紀後半)におさまるものと考えられる。

土坑 (SK)

S K 22001

1調査区のⅢ-6-10A地区で検出した。遺構の北部分が調査区外に至るため全容は不明であ るが、検出部分で、東西長1.2m、南北長1.1mを測る。断面形状は皿状で、深さ0.13mを測る。 埋土は粘土~粘土質シルトを主体とする3層から成る。遺物は出土していない。

S K 22002

1調査区のW-11-1A・B地区で検出した。東-西に長軸をもつ不定形で東西長2.2m、南 北長1.3mを測る。断面形状は皿状で、深さ0.12mを測る。埋土は暗灰黄色粘土の単一層である。 遺物は出土していない。

S K 22003

1調査区のW-11-1B地区で検出した。径0.7mの円形の平面形状をもつ。断面形状は皿状を 呈し、深さは0.09mを測る。埋土は灰オリーブ色シルトの単一層である。遺物は出土していない。

S K 22004

1調査区東部のⅢ-11-2 B地区で検出した。東部が調査区外に至るため全容は不明であるが、 検出部分で東西長0.6m、南北長1.4mを測る。断面形状は皿状を呈し、深さ0.16m前後を測る。 埋土は粘土質シルトの2層がレンズ状に堆積している。遺物は出土していない。

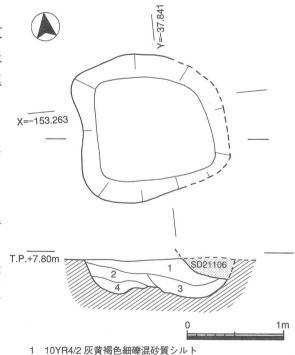
S K 22005

5調査区西部のⅢ-12-7 E地区で検出した。西部は調査区外に至る。検出部分で東西幅1.8 m、南北幅1.8m、深さ0.17mを測る。埋土は2層から成る。遺物は土師器の小片が極少量出土 したが、時期は明確でない。

SK22006 (第49·50図、図版二五·五四)

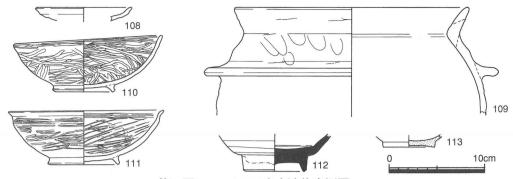
5調査区のW-12-7F地区で検出した。東 部をSD21106に切られている。不整円形を呈 するもので、径1.6m、深さ0.36mを測る。埋 土は4層から成る。遺物は11世紀後半に比定さ れる土師器小皿・土釜、瓦器椀、緑釉陶器皿、 中国製白磁碗等の土器類の他、山桃の種子が出 土している。SE22001と同様本来の構築面は 第Ⅲ層上面(第2-1面)が想定される。

6点(108~113)を図化した。内訳は土師器 小皿 1 点 (108) · 土釜 1 点 (109)、瓦器椀 2 点(110·111)、中国製白磁碗1点(112)、緑 釉陶器皿1点(113)である。108は口縁部が短 く斜上方に立ち上がる土師器小皿で、口縁部の 1/4程度が残存している。109は土師器土釜であ る。口縁部は「く」の字に大きく屈曲する。鍔 はやや短く水平方向に貼り付けられている。 110・111は和泉型瓦器椀の古相に位置付けられ



- 10YR5/1 褐灰色粗粒砂混砂質シルト
- 3 N6/0 灰色中粒砂混砂質シルト
- 4 10YR5/2 にぶい黄褐色砂質シルト

第49図 SK22006平断面図



第50図 SK22006出土遺物実測図

る。残存率は110が3/4、111が1/2である。器面調整は共に外面が4分割によるヘラミガキ、内面体部が密なヘラミガキ、見込みが一方向に平行なヘラミガキが施されている。110には二次焼成時における円形状の剥離痕が内外面共に顕著に見られる。尾上編年のI-2期(11世紀後半)に比定される。112は中国製白磁碗で高台部は完存している。高台は比較的高く、高台端面の外側面に面取りが行なわれている。高台径6.3cm、高台高1.5cmを測る。森田・横田分類の碗IVa類(11世紀後半~12世紀前半)に比定される。113は緑釉陶器皿である。高台は貼り付け高台で内側を削り出している。釉は淡い黄緑色で高台部にはおよばない。形態的な特徴から平安京近郊で製作されたものと推定される。9世紀後半の所産と推定される。出土遺物にはやや古い時期の遺物が含まれているが、遺構の帰属時期としては平安時代後期(11世紀後半)が想定される。

S K 22007

5調査区のW-12-7 G地区で検出した。南-北に長軸を持つ楕円形で、長径1.0m、短径0.6 m、深さ0.06mを測る。埋土は褐灰色砂質シルトの単一層である。遺物は土師器、須恵器の小片が極少量出土したが、時期を明確に出来たものはない。

SK22008 (図版二五)

5調査区東部のⅢ-12-8 I 地区で検出した。東部は調査区外に至るため全容は不明である。 検出部分で東西幅1.6m、南北幅2.6m、深さ0.2mを測る。埋土は褐灰色中粒砂~極粗粒砂混砂質 シルトである。遺物は土師器の小片の他、6世紀前半に比定される須恵器杯蓋片が出土している。

溝 (SD)

S D 22001

1調査区北東部のM-6-10 A·B、M-11-1 A·B地区で検出した。北東-南西に伸びるもので、南西端は近代の撹乱、北東端は調査区外に至る。検出部で検出長1.4 m、幅0.42 m、深さ0.06 mを測る。埋土は灰オリーブ色粘土の単一層である。遺物は出土していない。

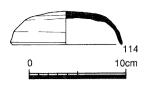
S D 22002

1調査区の $M-11-1\cdot 2$ A·B地区で検出した。南南西-北北東に伸びる溝で、S D 22003 と S D 22007を切っている。検出部分で長さ17.5m、幅0.9~1.5mを測る。断面形状は浅い皿状を呈し、深さ0.1m前後を測る。埋土は灰オリーブ色シルト質粘土の単一層である。遺物は出土していない。

S D 22003 (第51図、図版五四)

1調査区の $\Pi-11-1\cdot 2$ B、2 A地区で検出した。南南西-北北東に伸びる溝で S D 22002 に切られている。検出部分で長さ17.5m以上、幅 $1.5\sim 2.3$ mを測る。断面形状は浅い逆台形を呈

し、深さは、北端で $0.38\,\mathrm{m}$ (T.P. $+6.89\,\mathrm{m}$)、南端で $0.41\,\mathrm{m}$ (T.P. $+6.78\,\mathrm{m}$) を測り、南に向かうにつれて深くなる。埋土はレンズ状に堆積する $9\,\mathrm{F}$ (粘土~シルトが中心)で構成されている。埋土からは $7\,\mathrm{t}$ 世紀初頭に比定される須恵器が出土した。 $1\,\mathrm{L}$ (114)を図化した。114は須恵器杯蓋で口縁部の一部を欠損する以外は完存している。口径 $11.4\,\mathrm{cm}$ 、器高 $3.7\,\mathrm{cm}$ を測る。 $T\,\mathrm{K}\,209\,\mathrm{v}$ ($7\,\mathrm{t}$ 紀前半)に比定される。



第51図 S D 22003出土 遺物実測図

S D 22004

1調査区のW-11-1B地区で検出した南-北に伸びる溝である。遺構の北部分が調査区外に至るため全容は不明であるが、検出部分で長さ2.5m以上、幅0.9mの規模をもつ。断面形状は逆台形を呈し、深さは0.28mを測る。埋土は細粒砂~極粗粒砂を主体とする4層がレンズ状に堆積している。遺物は出土していない。

S D 22005

1調査区のWI-11-2 A・B地区で検出した。S D22002の東側約0.2mに並行して伸びるもので、S D22006とS D22007の一部分を切っている。規模は検出長3.5m、幅0.3mを測る。断面形状は不整な椀状を呈し、深さ0.12mを測る。埋土は灰オリーブ色粘土の単一層である。遺物は出土していない。

S D 22006

1調査区のW-11-2A・B地区で検出した、南南西-北北東に伸びる溝である。南部分をSD22005に切られているため全容は不明であるが、検出長3.0m、幅0.4mの規模を有する。断面形状は不整な逆台形を呈し、深さは0.08m前後を測る。埋土は灰オリーブ色中粒砂混粘土の単一層である。遺物は出土していない。

S D 22007

1調査区の $\Pi-11-2$ A・B地区で検出した。東一西に伸びるもので、西部をSD22002 とSD22005 に切られている。検出長1.5 m、幅0.7 mを測る。断面形状は皿状を呈し、深さは0.1 mである。埋土は灰オリーブ色極細粒砂~細礫混粘土質シルトの単一層である。遺物は出土していない。

S D 22008

1調査区のWI-11-2 A·B地区で検出した。南一北に伸びる溝で、遺構の大部分はSD 22007に切られているため全容は不明であるが、検出長1.1m、幅0.2mを測る。断面形状は底面が平らな逆台形を呈し、深さは0.08m前後を測る。埋土は灰黄褐色粘土の単一層である。遺物は出土していない。

S D 22009

1調査区のⅢ-11-1 B地区で検出した。南南東-北北西に伸びる溝で、遺構の南部が調査区外に至る。検出長1.7m、幅0.6mを測る。断面形状は皿状を呈し、深さ0.07m前後を測る。埋土は粘土を主体とする 3 層がレンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

S D 22010

1調査区のW-11-2B地区で検出した。東-西に伸びる溝で、東部が調査区外に至る。検出長4.2m、幅0.4mを測る。断面形状は浅い皿状を呈し、深さは0.02m前後と非常に浅い。埋土は暗灰黄色中粒砂混粘土の単一層である。遺物は出土していない。

S D 22011

SD22010の南側約1.9mの地点で検出した。SD22010に並行して東-西に伸びるもので、東部が調査区外に至る。検出長3.4m、幅 $0.3\sim0.5m$ を測る。断面形状は皿状を呈し、深さは0.05 m前後を測る。埋土は暗灰黄色シルト質粘土の単-層である。遺物は出土していない。

S D 22012

5調査区西部のⅦ-12-7 E地区で検出した。東-西に伸びるもので、東端が近代の撹乱で削平されているほか、西部は調査区外に至る。検出長3.4m、幅0.7m、深さ0.12mを測る。埋土は褐灰色細礫混砂質シルトである。遺物は土師器竈の小片が出土している。

S D 22013

5調査区の $\Pi-12-6$ ・7 F地区で検出した。北北西-南南東に伸びるもので、南端は第2-1面 S D 21103および S D 22014に切られている。検出部分の形状では、溝幅が南部から北部にかけて漸増している。検出長9.9m、幅 $0.8\sim2.9$ m、深さ0.2mを測る。埋土は2層から成る。遺物は土師器、須恵器、瓦器、緑釉陶器、平瓦の小片が少量出土しており、帰属時期は平安時代後半以降が想定される。

S D 22014

S D 22013の東側で検出した。南部でS D 22013を切っているほか、東部が上面で検出したS D 21106に切られているため、東肩は存在しない。検出長15.5m、東西幅1.2m、深さ0.2mを測る。埋土は2層から成る。遺物は土師器、須恵器の小片が極少量出土したが、時期を明確に出来たものはない。

S D 22015

5調査区の $WI-12-6\sim8$ G地区で検出した。南一北に直線的に伸びるもので、SE22001の上部を切っている。検出長14.7m、幅0.2m、深さ $0.08\sim0.1$ mを測る。埋土は明オリーブ灰色砂質シルトの単一層である。遺物は須恵器、瓦器椀の小片が極少量出土している。時期的には11世紀後半に比定される SE22001を切る関係から、それ以降のものであるが、時期は限定するに至っていない。性格としては、牛馬耕に伴う犂溝の可能性が高い。

S D 22016

SD22015の東側に並行して伸びるもので、北部で一部途切れる部分がある。検出長14.5m、幅0.2m、深さ $0.03\sim0.1m$ を測る。埋土は明オリーブ灰色砂質シルトの単一層である。遺物は須恵器の小片が2点出土している。形状、法量ともにSD22015と類似しており、同様の性格であったことが推定される。

S D 22017

SD22016の東部で検出した。南一北に伸びるもので、検出長12.0m、幅1.9~3.4m、深さ0.09mを測る。埋土は明オリーブ灰色砂質シルトの単一層である。遺物は土師器、須恵器、瓦器椀、中国製白磁碗の小片が出土している。遺構の位置関係や出土遺物からみて、SE22001 (11世紀後半)と同時に存在したものと推定される。

S D 22018

S D 22017の東側で検出した。南一北に直線的に伸びるもので、検出長 $14.4 \,\mathrm{m}$ 、幅 $0.5 \sim 1.2 \,\mathrm{m}$ 、深さ $0.09 \,\mathrm{m}$ を測る。埋土は明オリーブ灰色砂質シルトの単一層である。遺物は土師器、須恵器の

小片が極少量出土しているが、時期を明確に出来たものはない。

S D 22019

5調査区の東端で検出した。平面形状は検出部分でL字状を呈するもので、検出部分で東西長 0.8m、南北長3.0m、深さ0.1mを測る。埋土は灰黄褐色極粗粒砂混砂質シルトの単一層である。 遺物は土師器土釜の小片が出土している。

小穴(SP)

S P 22001~S P 22019

小穴は1調査区の北西部で検出した掘立柱建物を構成する柱穴群(SP22005~SP22011)を含めて19個検出した。そのうちのSP22001~SP22018は1調査区で検出した。1調査区では西部を中心にSP22001~SP22014が掘立柱建物およびそれらに関係した小穴と考えられる以外は散発的な分布状況を示している。SP22019は5調査区の東端で検出した。法量等の詳細は第18表に委ねた。

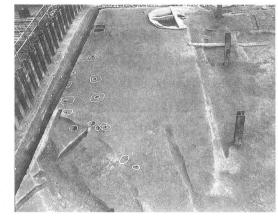


写真11 1調査区北西部小穴検出状況(西から)

第18表 1調査区 第2-2面 SP22001~SP22019法量表

遺構番号	地区	長径 (m)	短径 (m)	深さ(m)	平面形状	出土遺物
S P 22001	VI -10-10I	0.17	0.15	0.04	円形	
S P 22002	"	0.26	0.19	0.03	楕円形	
S P 22003	VI -10-10J	0.46	0.29	0.05	"	
S P 22004	"	0.21	0.19	0.04	円形	
S P 22005	"	0.21	0.21	0.09	"	
S P 22006	1/	0.23	0.20	0.13	11	
S P 22007	"	0.24	0.21	0.16	"	
S P 22008	"	0.24	0.25	0.18	11	
S P 22009	11	0.42	0.30	0.20	楕円形	
S P 22010	"	0.23	0.22	0.16	円形	
S P 22011	11	0.20	0.09	0.10	不明	
S P 22012	"	0.35	0.31	0.12	円形	
S P 22013	"	0.17	0.16	0.12	"	
S P 22014	"	0.14	0.14	0.11	不明	
S P 22015	VII −11−1A	0.31	0.31	0.22	円形	
S P 22016	"	0.47	0.25	0.07	楕円形	
S P 22017	VII −11−1B	0.38	0.34	0.06	円形	
S P 22018	"	0.33	0.25	0.13	"	
S P 22019	VII-12-8I	0.41	0.32	0.12	"	

・第3-1面(古墳時代中期~平安時代前半)(第53・54図、図版二六~四一)

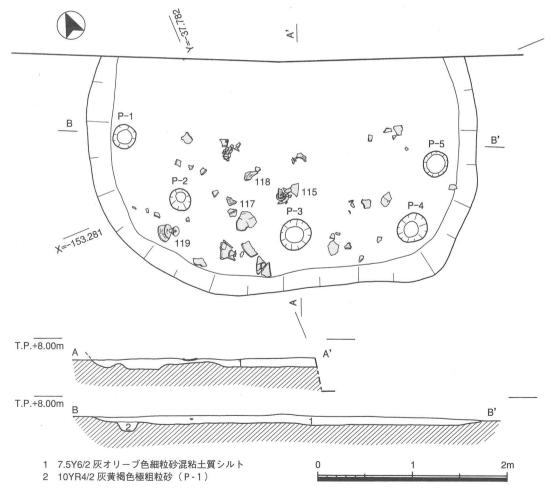
5調査区を除く各調査区で検出した。T.P. +7.6~7.2mの第V層上面で捉えた遺構面である。 古墳時代中期~平安時代前半の遺構を検出した。一部、Ⅲ層上面から切り込む平安時代前半の遺 構を除けば古墳時代中期~後期が中心で、5世紀代の遺構は6・7調査区付近が居住域の中核的 な役割を果たしていたようである。6世紀代の遺構は、2~7調査区(5調査区の第2-2面を 含む)で土坑・溝等が散発的に検出されている。4調査区の北に隣接する地点では、低地部では 検出例が少ない横穴式石室を主体部に持つ七ツ門古墳(6世紀中葉)が検出されており、これら の遺構との有機的な関係が推定される。

検出した遺構には、竪穴住居 1 棟(S I 31001)、掘立柱建物 2 棟(S B 31001・S B 31002)、土坑86基(S K 31001~S K 31086)、落ち込み 5 箇所(S O 31001~S O 31005)、溝75条(S D 31001~S D 31075)、小穴128個(S P 31001~S P 31128)、自然河川 3 条(N R 31001~N R 31003)の他、地震痕跡11箇所(砂脈群31001~砂脈群31011)がある。

竪穴住居(SI)

S I 31001 (第52·55図、図版二九·三〇·五四)

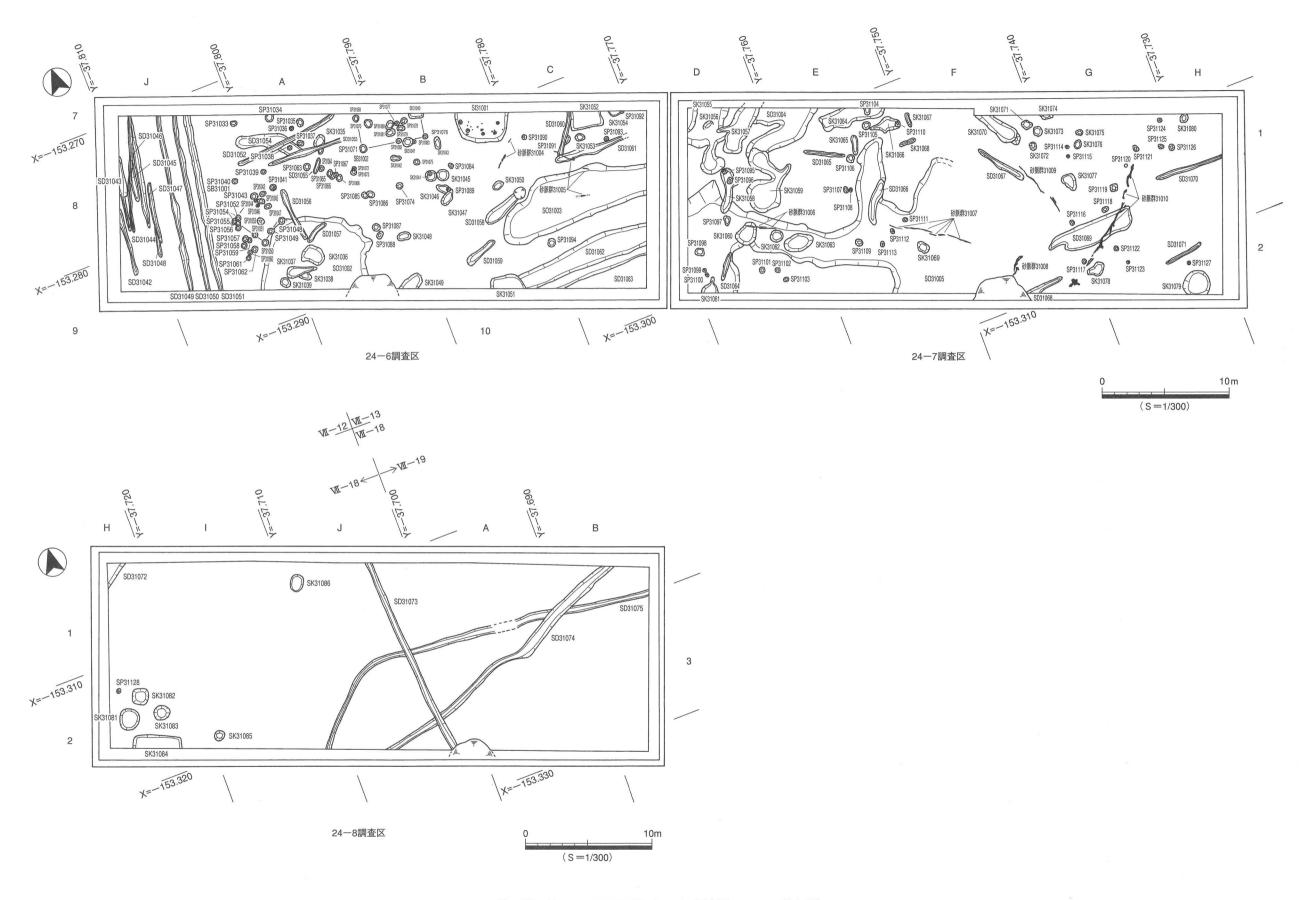
6調査区北東部の $WI-13-8\cdot 9$ B·C地区で検出した。北部が調査区外に至るため全容は不明であるが、おそらく隅丸方形を呈する竪穴住居の約半分程度を検出したものと推定される。



第52図 S I 31001平断面図

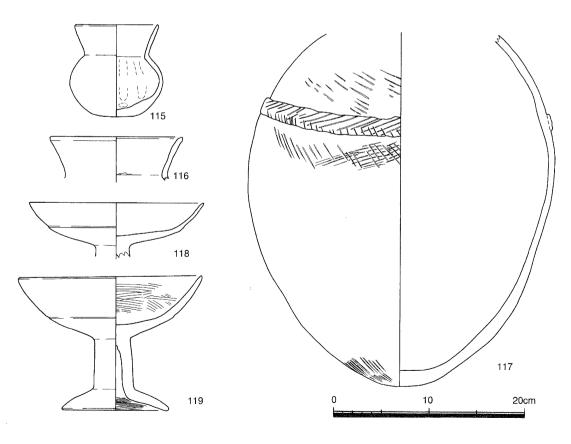


第53図 第3-1面平面図 (24-1調査区~24-4調査区)



第54図 第3-1面平面図 (24-6調査区~24-8調査区)

規模は検出部分で、東西幅4.3m、南北幅2.4m、深さ0.15mを測る。埋土は1層で、灰オリーブ 色細粒砂混粘土質シルトが堆積している。埋土の1層を取り除いた面で、掘方の下端付近から $0.1 \sim 0.4$ mほど離れた箇所で環状に巡る柱穴を5個($P-1 \sim P-5$)検出した。いずれも平面 形状は円形で、直径約0.25m、深さ約0.08mを測る。柱穴間の距離は、 $1.0\sim1.2$ mで規則的に並 んでいる。壁溝、炉などの施設については、段階的に掘削を行い平面精査を実施したが確認でき なかった。従って、竪穴住居以外の施設であった可能性も考えられる。遺物は、埋土および床面 直上から土師器 (壷・高杯)、須恵器、土錘が出土した。5点(115~119)を図化した。115は土 師器の小形壷で、底部はやや不安定な平底である。口径9.6cm、器高9.7cmを測る。116は土師器 の短頸壷の口縁部で残存率は1/6程度である。口縁端面に内傾する面を有する。117は土師器の大 形壷で頸部以上を欠く。倒卵形を呈する体部上半に幅2cm前後の粘土帯が貼り付けられており、 その上面に板状工具によるやや雑な綾杉文状の文様が施文されている。体部外面のタタキ調整は 粘土帯の上下と底部付近に見られる。類例の少ない器種である。118・119は土師器高杯である。 119は口縁部の一部を欠く以外は完存している。119は全体に器壁が厚く重厚感のある作りで、柱 状部の開きが少なく直線的である点や裾部径がやや小さい等の特徴を持っている。118は119に比 して杯部が浅いものであるが、柱状部の特徴や胎土・色調等に119と共通する点が見られること から、同一工人の手による土器の可能性が考えられる。出土遺物の帰属時期は、古墳時代中期中 葉~後半(5世紀中葉~後半)が考えられる。



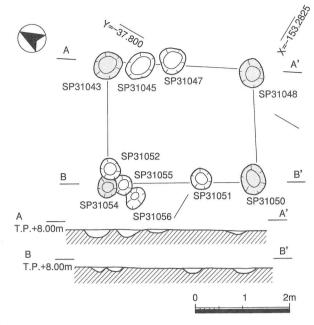
第55図 S I 31001出土遺物実測図

掘立柱建物 (SB)

掘立柱建物は2棟(SB31001・SB31002)が検出されている。2棟検出された6調査区の中部から西部にかけては、小穴が密集して検出されており、当該期における居住域の中心であったものと推定される。

SB31001 (第56図、図版三一)

6 調査区西部の $WI-12-8\cdot9$ J、 $WI-13-8\cdot9$ A地区で検出した。 $SP31043\cdot SP31048\cdot SP31050\cdot SP31054$ で構成される 1×1 間規模の掘立柱建物である。規模は、桁行3.1m、梁行 $2.4\sim2.6$ mを測る。主軸方向はN-25° -Eで、面積7.75m²を測る。柱穴は、円形で径 $0.4\sim0.6$ m、深さ $0.07\sim0.17$ mを測る。埋土は灰オリーブ色砂質シルトの単一層



第56図 SB31001平断面図

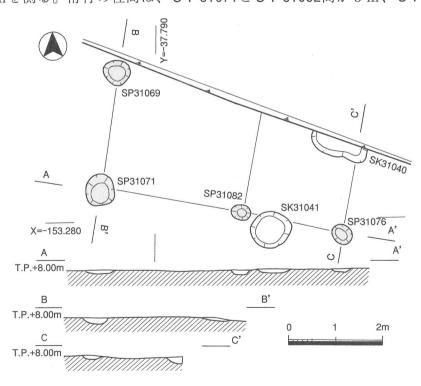
である。建物を構成するSP31048ならびにSP31052から古墳時代後期中葉(6世紀中葉)に比定される遺物の小片が出土していることから、存続時期はその前後が推定される。

SB31002 (第57図、図版三一)

6調査区の中央北部のWI-13-8・9 A・B地区で検出した。北部は調査区外に至るため全容は不明である。検出部分で、桁行2間×梁行1間以上の掘立柱建物と推定される。規模は、検出部分で桁行5.2m、梁間2.9mを測る。桁行の柱間は、SP31071とSP31082間が3m、SP

31082とS P 31076間が2.2m を 測る。主軸方向は N - 10°-Eである。掘立柱建物を構成するS P 31069・S P 31071・S P 31076・S P 31082は円形ないしは楕円形の掘方で、径0.4~0.7m、深さ0.07~0.26mを測る。埋土は灰黄色砂質シルトの単一層である。

柱穴からは、時期を限定 し得る遺物は出土していないが、周辺で検出されている遺構の配置と構築方向から見て古墳時代中期中葉(5世紀中葉)に比定される可能性がある。



第57図 SB31002平断面図

土坑 (SK)

S K 31001

1調査区南西部のVI-15-1 I 地区で検出した。東一西に長軸を持つ楕円形で、南部が調査区外に伸びるため全容は不明である。検出部分で長径2.8m、短径0.5m、深さ0.07mを測る。埋土はオリーブ灰色シルトで、酸化鉄分が少量含まれている。遺物は出土していない。

S K 31002

1調査区北東部のW-11-1 A・B地区で検出した。北東-南西に長軸を持つ楕円形で、長径 $1.8 \,\mathrm{m}$ 、短径 $0.9 \,\mathrm{m}$ 、深さ $0.37 \,\mathrm{m}$ を測る。断面形状は深いレンズ状で、埋土は3 層に分けられ、最下層で炭化物を少量含み一部に粘土のブロックがみられる。遺物は出土していない。

S K 31003

2調査区南西隅のWI-11-3B・C地区で検出した。南部は調査区外に至る。検出部分で東西幅1.7m、南北幅1.5m、深さ0.5mを測る。埋土は逆台形を呈する断面形状に沿って6層が堆積している。遺物は出土していない。

S K 31004

SK31003の北側4.4mの地点で検出した。円形を呈するもので、長径0.72m、短径0.5m、深さ0.1mを測る。埋土は暗灰黄色シルト質粘土の単一層である。遺物は出土していない。

S K 31005

SK31004の南東側3.7mの地点で検出した。円形を呈するもので、長径0.72m、短径0.6m、深さ0.16mを測る。埋土は3層から成る。遺物は土師器、須恵器等の小片が極少量出土しているが時期を明確に出来たものはない。

S K 31006

2調査区北東部のW-11-2 F地区で検出した。南-北に長軸を持つ不整楕円形で、長径1.0 m、短径0.62m、深さ0.1mを測る。埋土は2層から成る。遺物は出土していない。

S K 31007

2調査区東部のW-11-3 F地区で検出した。南一北に長軸を持つ楕円形で、SD31018の東肩を切っている。長径0.6m、短径0.41m、深さ0.09mを測る。埋土は2 層から成る。遺物は出土していない。

S K 31008

2調査区東部のWI-11-3 F地区で検出した。南一北に長軸を持つ楕円形で、長径0.6m、短径0.24m、深さ0.04mを測る。埋土は暗灰黄色シルト質粘土の単一層である。遺物は出土していない。

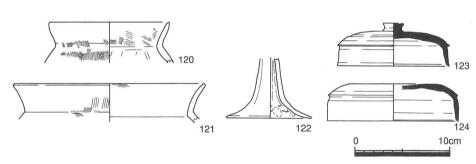
S K 31009 (第58·59図、図版三二·五五)

SK31008の南西1.6mで検出した。南北に長い楕円形を呈する土坑で、上部はSD31018に切られている。底面は東端から中央部に向かって緩やかな傾斜面を有し、中央部の楕円形の落ち込みを境に西側が深くなっている。検出部分で東西幅2.5m、南北幅2.2m、深さ0.35mを測る。埋土は最上層のSD31018の埋土(5Y4/2灰オリーブ色シルト質粘土)を別にすれば、1層黒褐色粘土と2層黄灰色粘土が堆積しており、1層については、ブロックが混在する不均質な層相であるため人為的な埋戻しが短期間に行われた可能性が高い。遺物は2層を中心として、土師器甕・高杯、

須恵器杯蓋・杯身・有蓋高杯等の土器類の他、石材等が少量出土している。 5点(120~124)を図化した。120・121が土師器甕の口縁部で、残存率は120が1/4、121が1/6程度である。120は小形品、121が大形品で器種はおそらく長胴甕と推定される。122は小形の土師器高杯の脚部である。123は須恵器有蓋高杯の蓋で、残存率は1/2である。口径11.8cm、器高4.5cm、つまみ径2.0cm、つまみ高0.8cmを測る。124は須恵器杯蓋である。123・124共にTK208型式に比定される。遺構の帰属時期については、出土した須恵器類から古墳時代中期中葉(5世紀中葉)に比定される。

S K 31010

3調査区北西部のⅢ-11-3 F地区で検出した。南-北に長軸を持つ楕円形で、長径1.4m、短径1.35mを測る。断面形状は浅い皿状で、深さ0.05mを測る。埋土は灰色



S K 31011

3調査区のWI-11-4G地区で検 出した。西部をS

シルト混粘土の単一層である。遺物は出土していない。

D31023に切られ、

第59図 SK31009出土遺物実測図

また南部が調査区外に至る。検出部分で東西幅0.25m、南北幅0.45mを測る。断面形状は浅い皿状を呈し、深さ0.05mを測る。埋土は灰色極細粒砂混粘土質シルトの単一層である。遺物は出土していない。

S K 31012

SK31014の南西側約0.5mの地点で検出した。東-西に長軸を持つ不整楕円形で、長径0.8m、短径0.6mを測る。掘方断面は不定形を呈し、深さ0.12mを測る。埋土は2層で、その中央部分が柱痕になる可能性が高い。

S K 31013

3調査区のⅢ-11-4 G地区で検出した。遺構の南部は調査区外に至る。検出部分で東西幅 1.61m、南北幅0.8mを測る。断面形状は浅い皿状を呈し、深さ0.1m前後を測る。埋土は4層がレンズ状に堆積している。遺物は出土していない。

7 2.573/1 無限己相工 2 2.5Y4/1 黄灰色粘土(遺物を含む)

第58図 S K 31009平断面図

S K 31014

3調査区のW-11-4 G地区で検出した。径0.55mの円形の平面形状を呈する。断面形状は浅い皿状を呈し、深さ0.05mを測る。埋土は黄灰色極細粒砂混シルトの単一層である。遺物は出土していない。

S K 31015

3調査区のWI-11-4 G地区で検出した。東-西に長軸を持つ楕円形で、長径0.6m、短径0.28mを測る。断面形状は逆台形を呈し、深さ0.08mを測る。埋土は灰黄色シルト混粘土質シルトの単一層である。遺物は出土していない。

S K 31016

3調査区のWI-11-3 G地区で検出した。東一西に長軸を持つ楕円形で、長径0.6m、短径 0.41mを測る。断面形状は非常に浅い逆台形で、深さ0.03mを測る。埋土は灰色粘土質シルトの単一層である。遺物は出土していない。

S K 31017

3調査区のⅢ-11-4 G地区で検出した。南-北に長軸を持つ不整楕円形で、長径1.1m、短径0.55mを測る。断面形状は浅い皿状を呈し、深さ0.05mを測る。埋土は灰黄褐色極細粒砂混シルト質粘土の単一層である。遺物は出土していない。

S K 31018

SK31017の東南東約1.5mの地点で検出した。東一西に長軸を持つ不整楕円形で、長径0.8m、短径0.4mを測る。断面形状は浅い皿状で、深さ0.04m前後を測る。埋土は灰色粘土質シルトの単一層である。遺物は出土していない。

S K 31019

3調査区のⅦ-11-3 H地区で検出した。東-西に長軸を持つ不整楕円形を呈し、規模は東西幅1.2m、南北幅1.15mを測る。断面形状は皿状を呈し、深さ0.11m前後を測る。埋土は粘土質シルトを主体とする2層で構成される。遺物は出土していない。

S K 31020

SK31019の南西側に隣接している。円形を呈するもので、径0.53mを測る。断面形状は浅い逆蒲鉾状で、深さ0.12mを測る。埋土はオリーブ色粘土質シルトの単一層である。遺物は出土していない。

S K 31021

3調査区のW-11-3 H地区で検出した。東部はSD31035に切られているため全容は不明である。検出部分で東西長0.2m、南北長1.45mを測る。断面形状は半円形を呈し、深さ0.3mを測る。埋土は粘土~極細粒砂を主体とする8 層で構成されている。遺物は出土していない。

S K 31022

3調査区のWI-11-4 H地区で検出した。東-西に長軸を持つ楕円形で、長径0.7m、短径0.65mを測る。断面形状は浅い皿状を呈し、深さ0.05mを測る。埋土はにぶい黄褐色極細粒砂混粘土質シルト(炭化物を含む)の単一層である。遺物は出土していない。

S K 31023

SK31022の南側約1.1mの地点で検出した。南部はSK31024に切られている。検出部分で東

西幅0.45m、南北幅0.6mを測る。断面形状は逆台形を呈し、深さ0.13mを測る。埋土は2層がレンズ状に堆積している。遺物は出土していない。

S K 31024

3調査区のⅦ-11-4 H地区で検出した。東-西に長軸を持つ楕円形を呈し、長径2.1m、短径1.55mを測る。断面形状は皿状を呈し、深さ0.16mを測る。埋土は灰色粘土質シルトを主体とする2層から成る。遺物は土師器高杯の小片等が極少量出土している。

S K 31025

SK31024の南側約2.1mの地点で検出した。南一北に長軸をもつ不定形で、東西幅0.55m、南北幅0.7mを測る。断面形状は浅い不整逆台形を呈し、深さ0.09mを測る。埋土は灰オリーブ色極細粒砂混シルトの単一層である。遺物は出土していない。

S K 31026

3調査区の〒-11-4 H地区で検出した。SD31036を掘りきった段階で検出された土坑で、遺構構築の先後関係は本遺構のほうが古い。平面形状は不定形を呈し、東西幅0.65m、南北幅0.64mを測る。断面形状は浅い半円形で、深さ0.16mを測る。埋土は4層がレンズ状に堆積している。遺物は土師器甕、須恵器蓋が少量出土している。遺物の帰属時期は5世紀前半以前と推定される。

S K 31027 (第60·61図、図版三二)

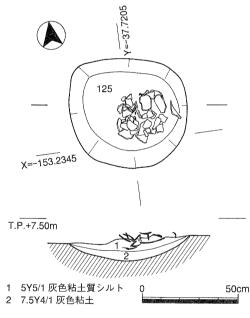
3調査区のⅦ-11-4 H地区で検出した。円形の平面形状をもつもので、径0.65mを測る。断面形状は浅い逆蒲鉾状を呈し、深さは0.13mを測る。埋土は1層灰色粘土質シルト、2層灰色粘土の二層が堆積している。1層内からは、土師器を中心とした土器類が比較的まとまって出土したが、全て小片化しており図化できたものは土師器甕1点(125)である。125は長胴甕で口縁部の残存率は1/2程度である。胎土には赤色酸化土が多量に含まれている。5世紀中葉~後半に比定される。

S K 31028

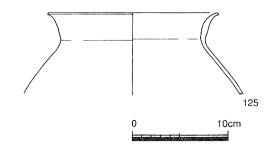
3調査区のⅦ-11-4 H地区で検出した。不定形を呈し、東西幅0.9m、南北幅0.73mを測る。断面形状は浅い皿状で、深さ0.06m前後を測る。埋土は上層が灰色極細粒砂混シルト、下層が灰色極細粒砂混粘土質シルトである。上層からは5世紀代の土師器の小片が出土した。

S K 31029

4調査区のⅦ-11-5 J 地区~Ⅷ-12-5 A 地区で検出した。南-北に長軸を持つ楕円形で、長径1.46 m、短径1.13m、深さ約0.6mを測る。断面形状は逆



第60図 S K 31027平断面図

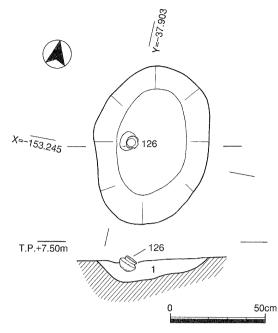


第61図 SK31027出土遺物実測図

凸形に近く、埋土は上部が褐灰色系のシルト〜粘土質シルト、下部が褐灰色粘土質シルトとにぶい 黄橙色シルトの互層で、徐々に埋没していること がわかる。遺物は出土していない。

SK31030(第62·63図、図版三三·五五)

SK31029の南約2.4mに位置する。南一北に長軸を持つ楕円形を呈し、長径0.83m、短径0.6m、深さ0.11mを測る。断面形状は逆台形に近く、埋土は褐灰色粘土質シルトの単一層である。遺物は須恵器小形短頸壷(126)が出土している。口径7.3 cm、器高6.7cmを測る。体部屈曲部より上半にハケ状工具による微細な模様が施されている。その他、体部上半に溶着した須恵器片が見られるほか、体部下半を除く範囲に緑灰色の自然釉が認められる。完形に近いが、口縁部の一部に欠損があり、これを人為的なものとすれば、土器埋納土坑の性格を



1 7.5YR5/1 褐灰色粘土質シルト

第62図 S K 31030平断面図

持つ可能性がある。時期は飛鳥時代の中頃のものと推定される。

S K 31031

4調査区北東部のWI-12-5 C地区で検出した。SO31001の底部で検出した。不定形を呈するもので、東西幅1.0m、南北幅2.4m、深さ約0.1 mを測る。断面形状は皿状を呈し、埋土は灰黄褐色粗粒砂混じり粘土質シルトに灰褐色粗粒砂がブロック状に堆積する。時期不明の土師器片が出土している。



第63図 S K 31030 出土遺物実測図

S K 31032

4調査区のW-12-5 C地区で検出した。不定形を呈するもので、東西幅2.4m、南北幅0.9m、深さ0.21mを測る。断面形状は逆台形を呈し、埋土は上層が灰褐色細粒砂~粗粒砂混粘土質シルト、下層が褐灰色シルト混細粒砂~粗粒砂である。時期不明の土師器片が出土している。

S K 31033

4調査区南東部のWI-12-6 B地区で検出した。SD31041の底部で検出した。円形に近く、 長径1.3m、短径1.0m、深さ0.26mを測る。断面形状は逆台形を呈し、埋土は上層が灰褐色細粒砂~粗粒砂混じりシルト、下層が褐灰色細粒砂混粘土質シルトである。遺物は出土していない。

S K 31034

4調査区南東隅のWI-12-6B地区で検出した。東部は調査区外に至る。不定形を呈しており、 検出部分で東西幅0.58m、南北幅0.85m、深さ0.16mを測る。断面形状は逆台形を呈し、埋土は 灰黄褐色細粒砂~粗粒砂混シルトである。遺物は出土していない。

S K 31035

6 調査区のΨ-13-8 A地区で検出した。不定形を呈するもので、南部はS D31053に切られている。東西幅0.8m、南北幅1.5m、深さ0.1mを測る。埋土は黄灰色粘土質シルトの単一層で

ある。遺物は古墳時代中期に比定される土師器壷の小片が出土している。

S K 31036

6調査区南部のW-13-9A地区で検出した。不定形を呈するもので、東西幅1.8m、南北幅1.2m、深さ0.1mを測る。埋土は粘土質シルトを主体とする4層から成る。遺物は古墳時代中期に比定される土師器、須恵器の小片が出土している。

S K 31037

SK31036の南側に隣接して検出した。南部でSK31038を切っている。東西方向に溝状に伸びるもので、東西幅2.44m、南北幅0.68m、深さ0.1mを測る。埋土は明オリーブ灰色極細粒砂混粘土質シルトの単一層である。遺物は土師器、須恵器の小片が極少量出土したが時期は明確でない。

S K 31038

北部が**SK31037**に切られている。検出部分で東西幅1.05m、南北幅0.63m、深さ0.04mを測る。埋土は2層から成る。遺物は出土していない。

S K 31039

SK31037の西に隣接している。円形を呈するもので、径 $0.8 \,\mathrm{m}$ 、深さ $0.14 \,\mathrm{m}$ を測る。埋土は $2 \,\mathrm{m}$ 層から成る。遺物は古墳時代中期に比定される土師器片が $1 \,\mathrm{n}$ 点出土している。

S K 31040

6調査区北部の〒-13-8 B地区で検出した。北部は調査区外に至る。検出部分で東西幅1.3 m、南北幅0.5m、深さ0.12mを測る。埋土はにぶい黄色極細粒砂〜細粒砂である。遺物は古墳時代中期に比定される土師器、須恵器の小片が極少量出土している。

S K 31041

6調査区北部のW-13-9 B地区で検出した。円形を呈するもので、径0.75m、深さ0.1mを測る。埋土は2層から成る。遺物は古墳時代中期に比定される土師器片が極少量出土している。

S K 31042

SK31041の南西部に近接している。東一西に長軸を持つ楕円形で、長径0.9m、短径0.4m、深さ0.12mを測る。埋土は黄灰色粘土質シルトの単一層である。遺物は古墳時代中期に比定される土師器片が極少量出土している。

S K 31043

6調査区北部のW-13-9 B地区で検出した。南-北に長軸を持つ楕円形で、長径1.0m、短径0.5m、深さ0.15mを測る。埋土は灰色極細粒砂〜細礫である。遺物は出土していない。

S K 31044

SK31043の南西約1.8mに位置する。円形を呈するもので、北部に小穴1個が存在する。径0.9m、深さ0.2mを測る。埋土は粘土質シルトを主体とする4層から成る。遺物は出土していない。

S K 31045

SK31044の東に隣接する。径1.0m、深さ0.08mを測る。埋土は3層から成る。遺物は古墳時代後期に比定される土師器、須恵器の小片が極少量出土している。

S K 31046

S K 31045の南に近接する。北西-南東に長軸を持つ楕円形を呈するもので、南東端はS P 31089・S K 31047に切られている。検出部分で長径1.2m、短径0.6m、深さ0.08mを測る。埋土

は灰色極細粒砂混粘土質シルトの単一層である。 遺物は出土していない。

SK31047 (第64·65図、図版五五)

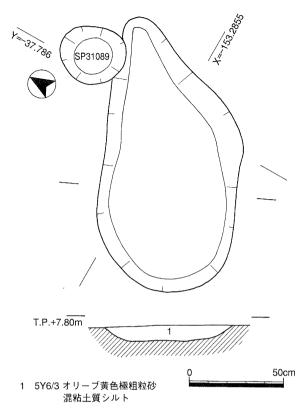
SK31046の南端を切る。北東-南西に長軸を持つ楕円形を呈するもので、長径1.5m、短径0.9m、深さ0.1mを測る。埋土はオリーブ黄色極粗粒砂混粘土質シルトの単一層である。遺物は古墳時代後期に比定される土師器の小片が出土している。土師器鍋(127)を図化した。口縁部が1/8程度残存するもので不明な点があるが、完形ならば把手が付くものであろう。時期的には古墳時代後期の範疇のものであろう。

S K 31048

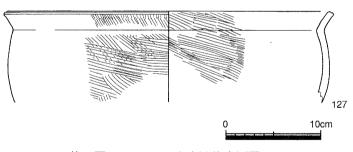
6調査区中央部のⅢ-13-9 A地区で検出した。東-西に長軸を持つ楕円形で、長径1.1m、短径0.7m、深さ0.07mを測る。埋土は明オリーブ灰色細粒砂混粘土質シルトの単一層である。遺物は出土していない。

S K 31049

6調査区南部のW-13-10A地区で検出した。南部は調査区外に至る。 検出部分で東西幅0.9m、南北幅0.6 m、深さ0.2mを測る。埋土は明オリーブ灰色細粒砂混粘土質シルトの単一層である。遺物は古墳時代後期に比定される須恵器の小片が少量出土している。



第64図 SK31047平断面図



第65図 SK31047出土遺物実測図

S K 31050

6調査区東部のWI-13-9B地区で検出した。東-西に長軸を持つ楕円形を呈するもので、長径0.9m、短径0.6m、深さ0.2mを測る。埋土は粘土質シルトを主体とする3層から成る。遺物は古墳時代後期に比定される土師器片が極少量出土している。

S K 31051

6調査区東南部のⅢ-13-10B地区で検出した。東部でSD31062を切るほか、南部は調査区外に至る。検出部分で東西幅2.5m、南北幅1.1m、深さ0.32mを測る。埋土は粘土質シルトを主体とする5層から成る。遺物は古墳時代後期に比定される土師器片が極少量出土している。

SK31052(第66·67図、図版三三·五五)

6調査区の北東部で検出した。西部がSD31060に切られている他、北部は調査区外に至る。検出部分では東西方向に長い長方形で、東西幅2.7m、南北幅1.4m、深さ0.1mを測る。埋土は灰オ